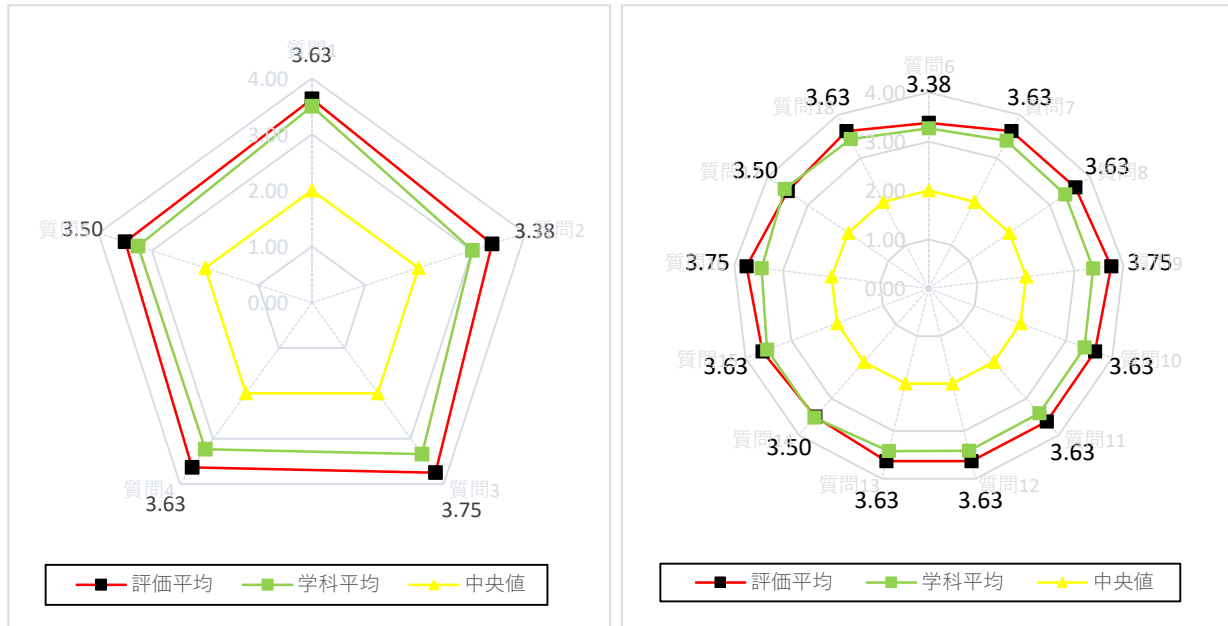


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育含）	72名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

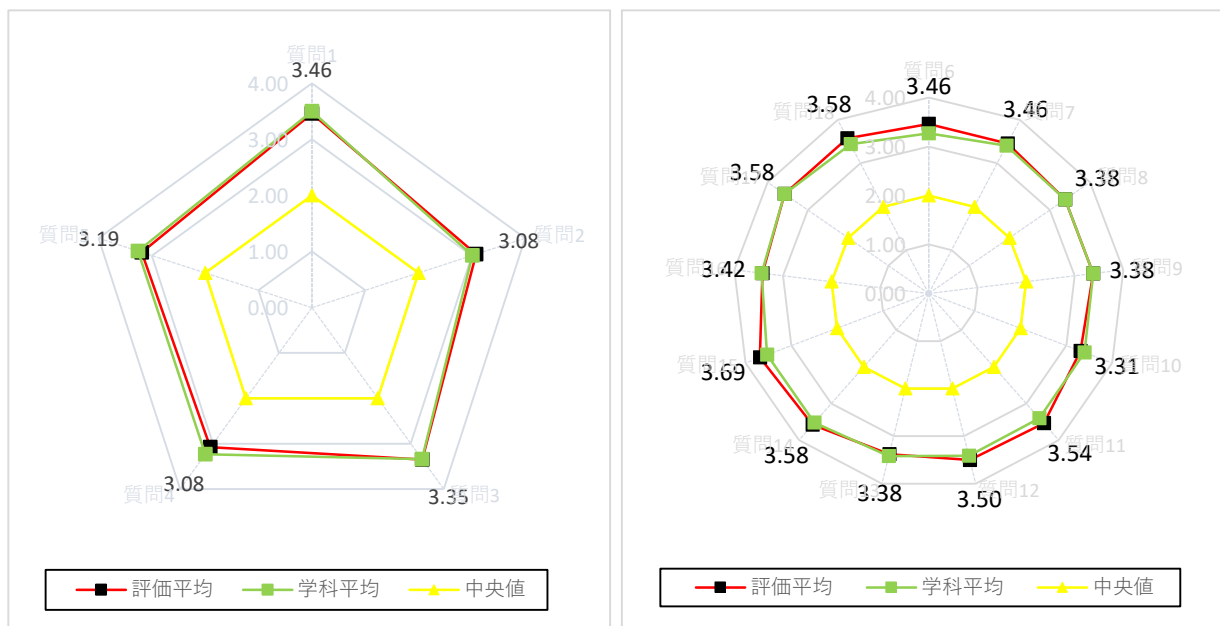
概ね良いと思われる。

（３）次年度に向けての取り組み

チューター学生が1年生として楽しい大学生活を送れるようにサポートしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		生活支援	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

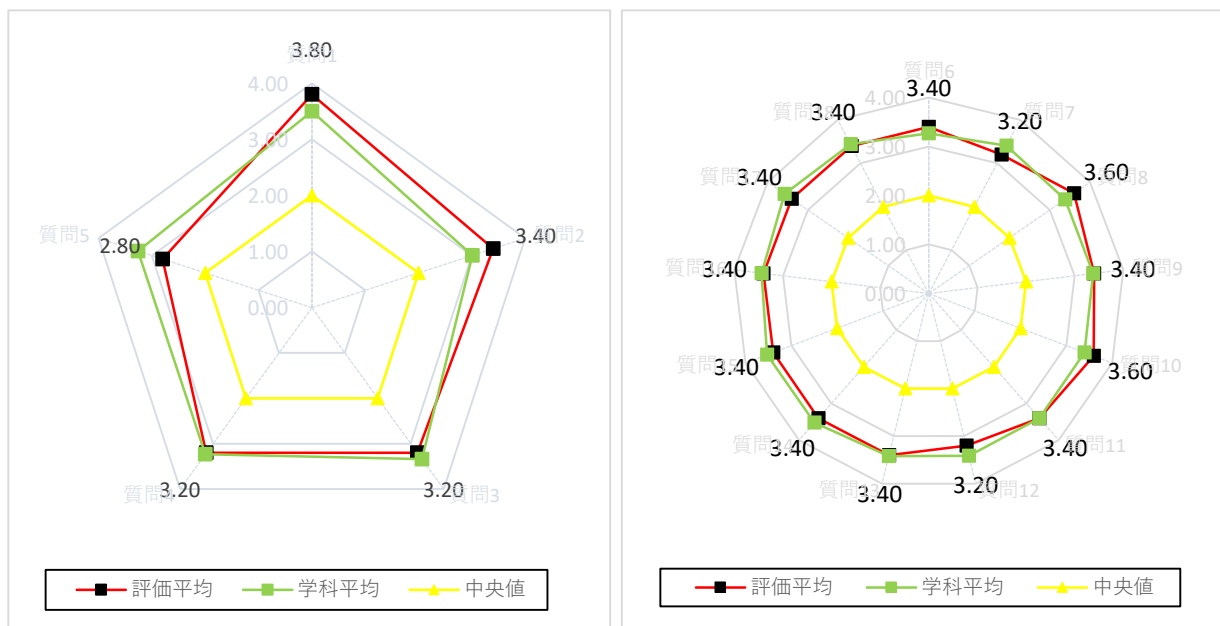
全ての項目において、ほぼ平均と同じ値の評価が得られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は各学科から計9名の教員が担当するオムニバス形式で実施されていることから、内容の統一化と共に、受講学生に戸惑いや不安感を与えないよう注意し展開していく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		地域連携	25名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

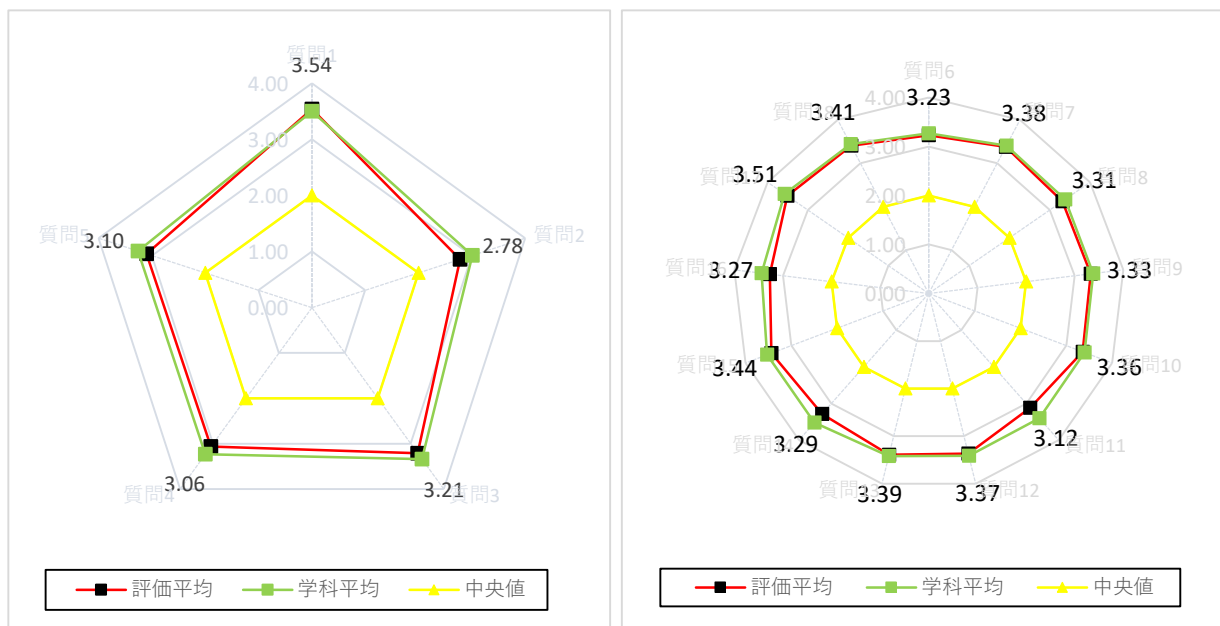
学生の自己評価が低い傾向にある。授業に関しては、質問7、12、17が低い傾向にある。

(3) 次年度に向けての取り組み

オムニバス形式で複数の教員が担当する科目であることから、教員間での評価のばらつきが生じたと思われる。次年度は教員間での情報共有を強化し、授業に取り組んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		現代社会と倫理	205名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

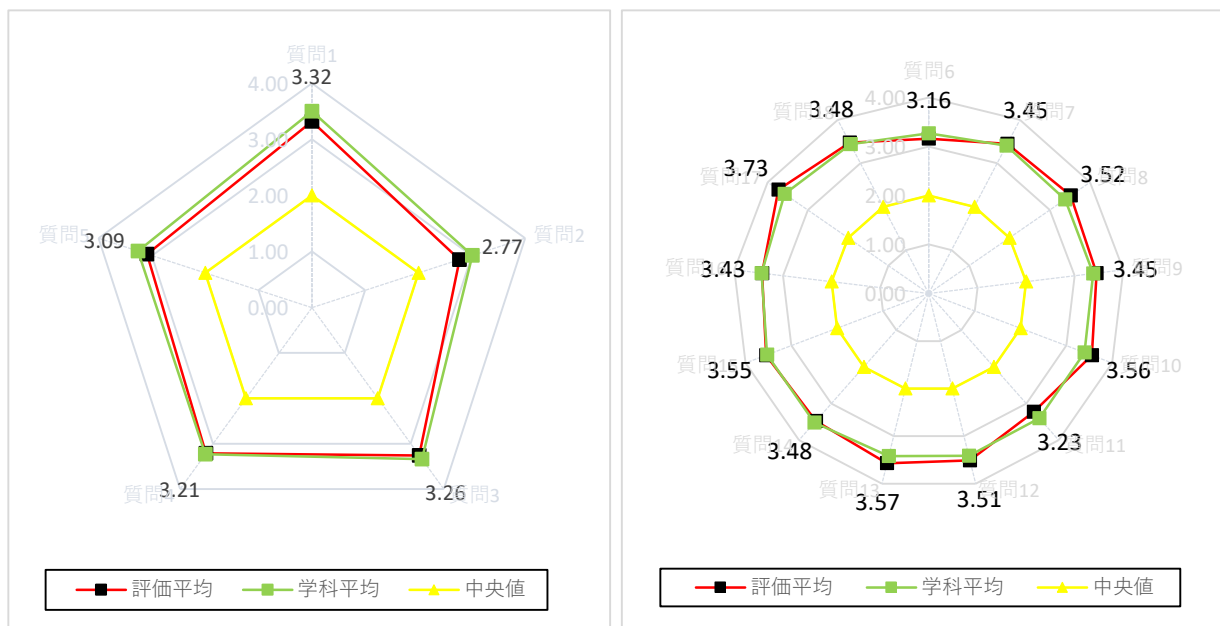
シラバスの説明、教科書、学生の質問、双方向授業、の4項目で学科平均を下回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

学科平均値を下回っている項目に関しては、さらに気をつけた授業運営に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		人間論と現代思想	201名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

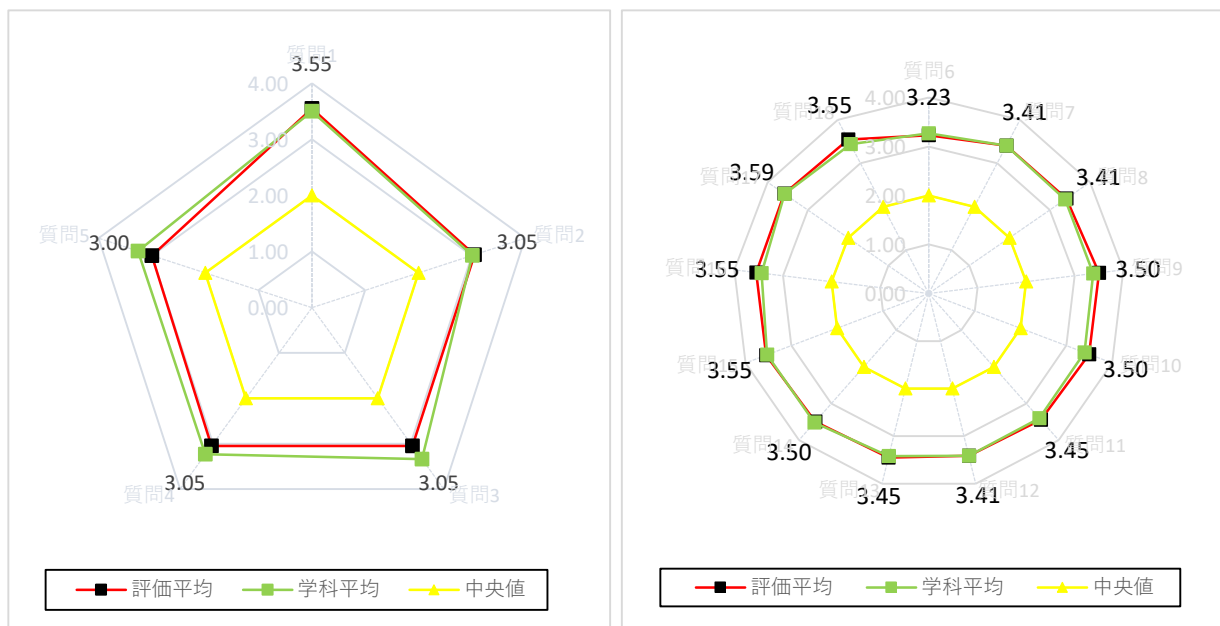
ほぼすべての項目で学科平均値に近い数値を示している。シラバスの説明、教科書についての評価が若干低くなっている。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの説明は行っているが、まだ十分に認識されていないことがわかった。教科書も使用しないことを説明しているが、こちらも十分に認識されていない。次年度は説明をもっと十分に行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		脳と認知科学	69名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

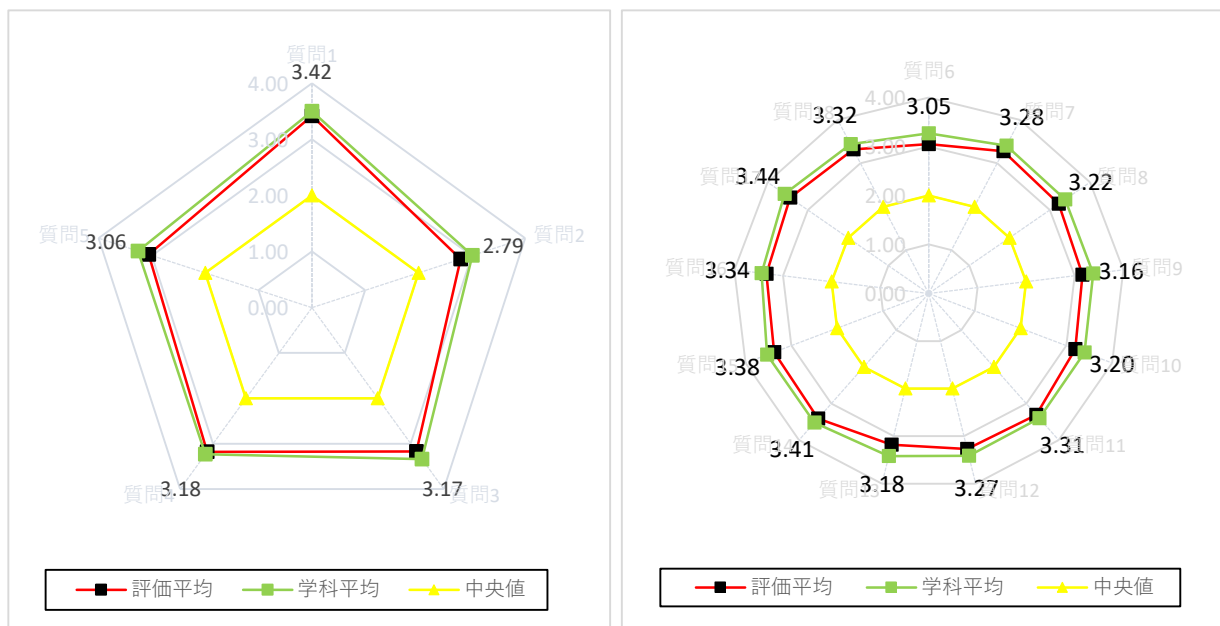
全学的に興味を持ってもらうための工夫が教員間でできていたと思われます。

(3) 次年度に向けての取り組み

さらに興味を持って頂けるように、身近な内容を取り込みながら講義を進めていきたいと考えます。単位取得のみを狙って受ける上級生がおり、受講態度などで悪影響も出ており、それらの学生さんに注意を促すなどの措置も考えたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		法学	154名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

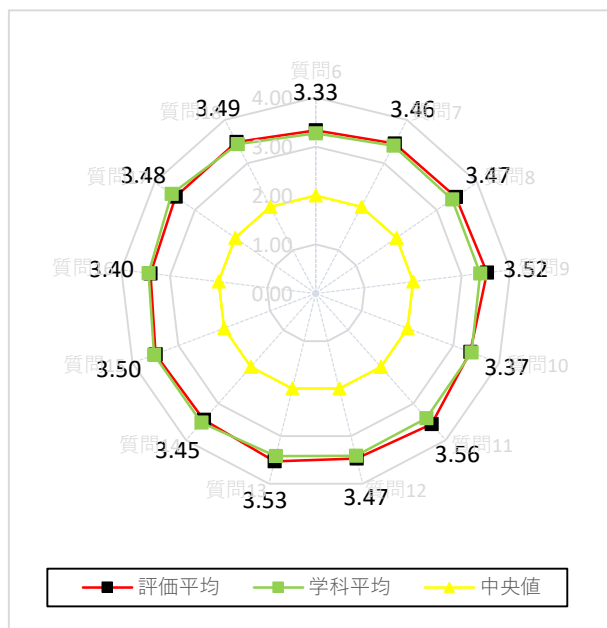
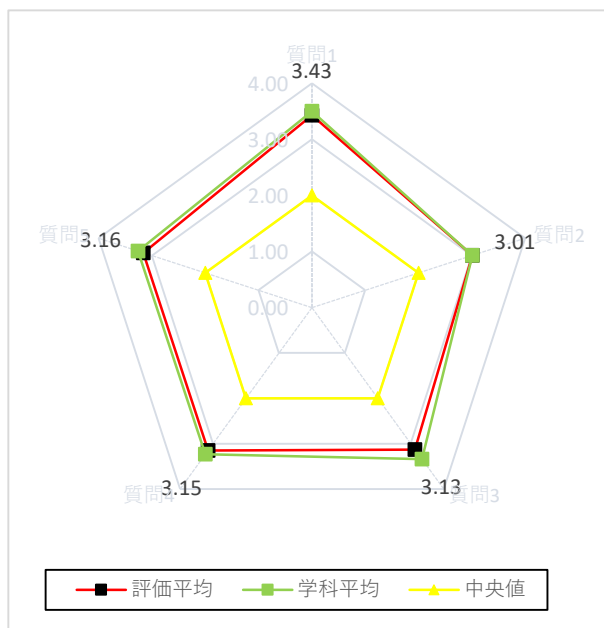
基本的には平均値と同様の分布であったが、全体的に平均値をやや下回る結果となった。100人を超える大講義なので、やむを得ない部分もあるが、細かな対応をすることで、学生からの評価を得られるようにしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生対応（質問対応など）を細かくしたい。授業中に質問に対応する時間を作ったり、リアクションペーパーの配布を試みたい。それらを授業内でフィードバックすることを予定している。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		くらしと経済	222名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

授業評価の結果は、概ね学科平均に収斂するものとなったが、特定の項目では学科平均を下回るものもあった。これは今後改善していくべき課題であり、工夫していきたいと考える。学科平均との比較があることによって課題が明確になるので、この分析結果はとても参考になる。また、授業評価は学生諸君の意見を直接きくことのできる稀有な機会であり、授業の改善に大いに役立つものとする。くらしに役立つ経済の知識を習得していくことが授業の狙いであったが、授業評価から鑑みてこれはある程度達成できているものとする。ただ、黒板の文字が見えにくいなどの意見もあり、今後改善していきたい。□

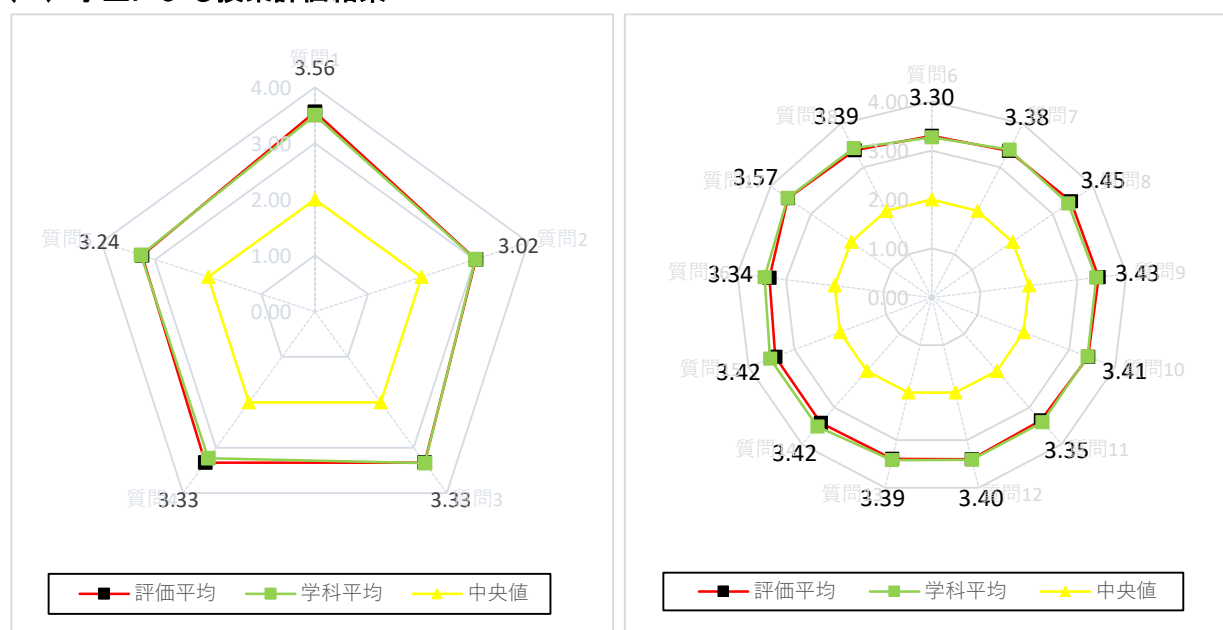
□

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの説明についての項目に関してはやや評価が低かったが、これはもう少し時間をさいて、丁寧に説明したいと思う。初回の授業で話してはいるのだが、多岐におよぶ項目で、理解しにくいのかと思われる。したがって、今後は論点をしぼって、わかりやすく説明したいと思う。さらにシラバスそのものを使用しつつ説明を加えていきたいと思う。黒板の文字が見えにくい場合は、配布資料でカバーするなどしていきたい。次年度においては、わかりやすい資料の作成と説明をさらに向上させていきたいと考えている。また、学生諸君が飽きないように時々穴埋め形式のプリントなども作成し配布したいと思う。そして、学生諸君が経済に関する知識をできるだけ増やせるように全力で取り組んでいきたいと考える。□

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		身近な生活の化学	176名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

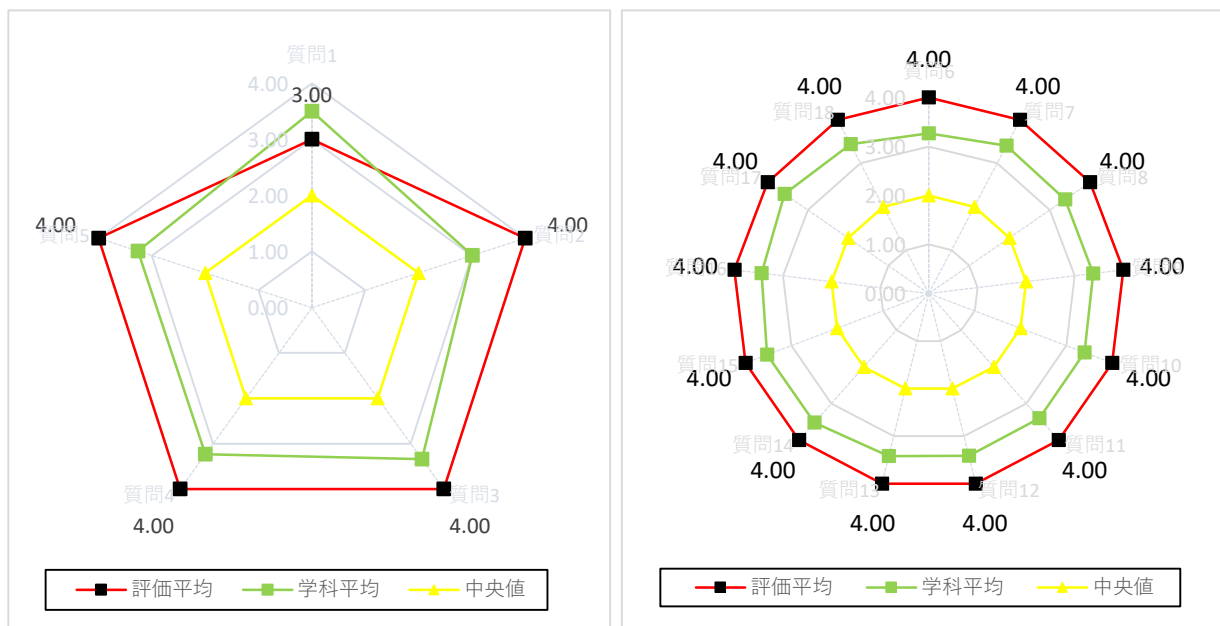
概ね学科平均と同等の結果であった。教養科目であるため、すべての学科の学生が受講しているため、どのレベルに標準を合わせるべきか、いつも悩んでいる。また、大人数なので油断するとすぐうさくなるので、授業に集中させるのが大変だった。工夫した点と言えば、興味を引くようなDVDを見せたり、難しい反応を例を挙げて説明したりと、できるだけわかりやすく、そしておもしろく説明することを心掛けた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、理系文系を含めた大人数が受講することが予想される。化学と言えば、難しいというイメージがあるので、身近な例を挙げてわかりやすく教えることをモットーとしたいと思う。よい教材を探し、興味を引くような工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		ウェルネス・スポーツ	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

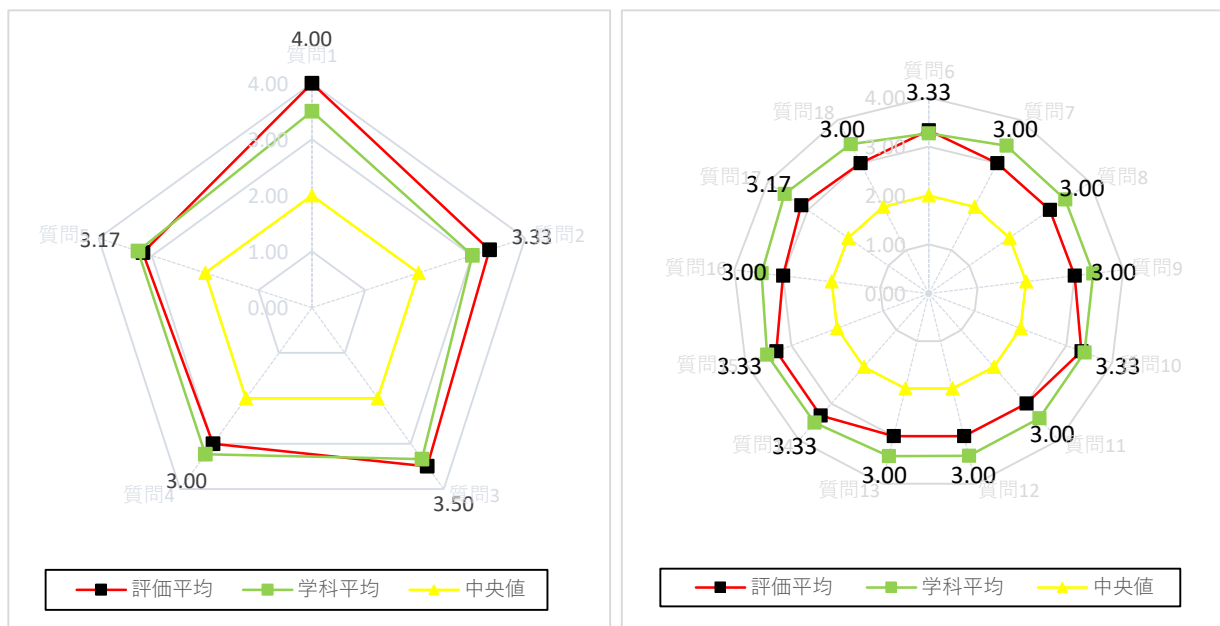
履修者14名のうち1名のアンケート回答のため、担当教科の授業評価の分析をするには難しいと思われるが、この結果からは良好な状況であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

この授業は今回だけの担当となるため次年度の授業には活かさないが、他学科の同様な実技授業の取り組みの参考にし授業改善に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		ウェルネス・スポーツ	57名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生自身の自己評価では欠席回数が学科平均を超えている。他の事項については学科平均と大きな差は見られない。

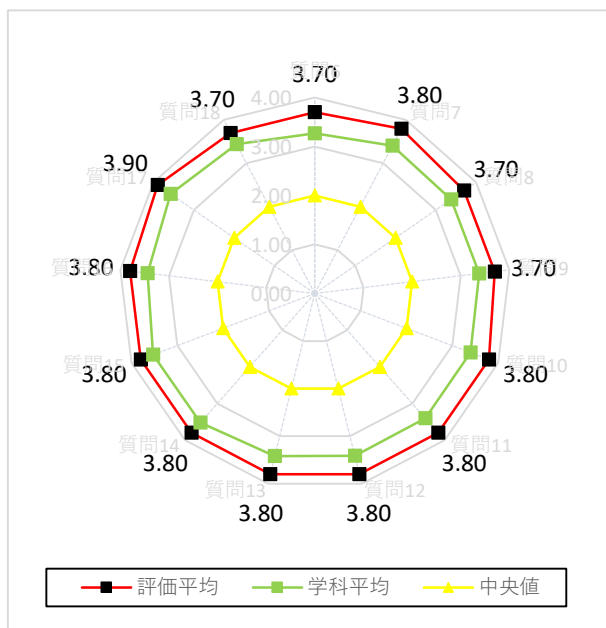
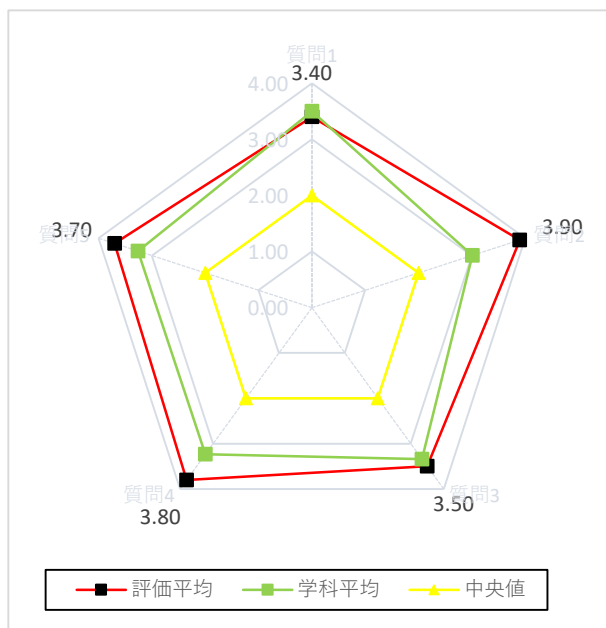
教員の授業に関する事項についてはシラバスの説明、視聴覚機器や板書使い方は学科平均と同等であったが、他の事項はすべて学科平均を下回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度については学生の意見、欲求に応じた授業を計画したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 リハビリテーション		文化人類学	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

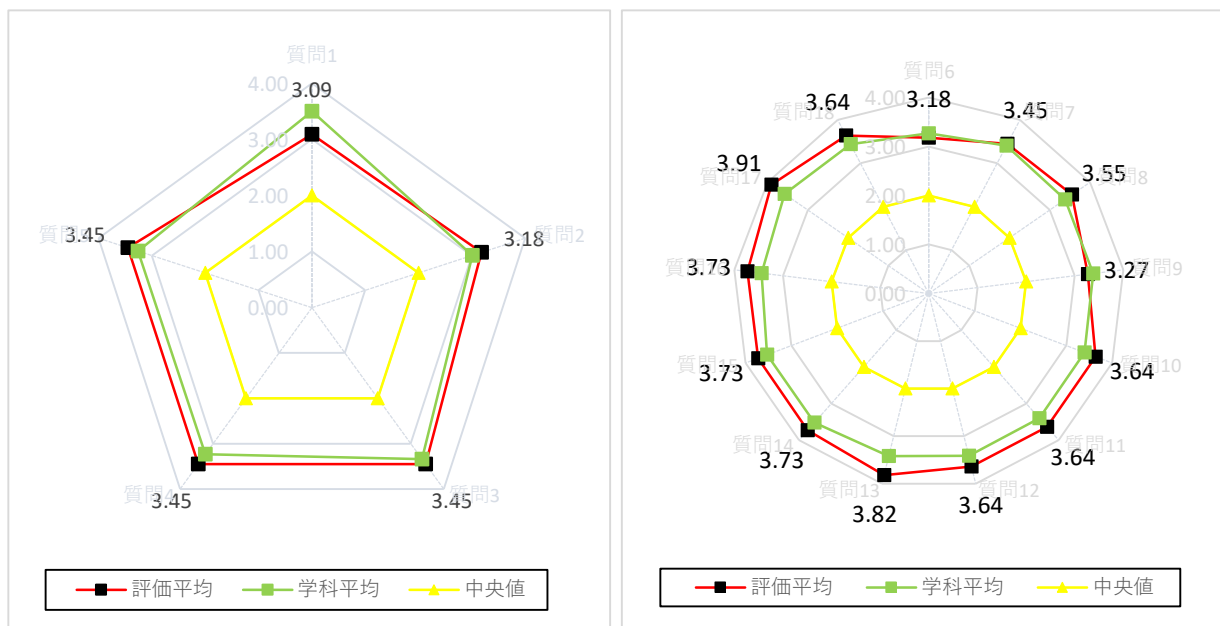
全体的には高評価であったと思う。
ただし、学生に何か作業をさせるという面において
不十分だったと思われる。もちろん、講義時間中ではなく、
講義外に発展的にしてもらいたいというのが本筋だと思うが、
より能動的なものも積極的に取り入れたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生へのワーク的な内容を取り入れたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		変わりゆく国際社会を生 きる	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

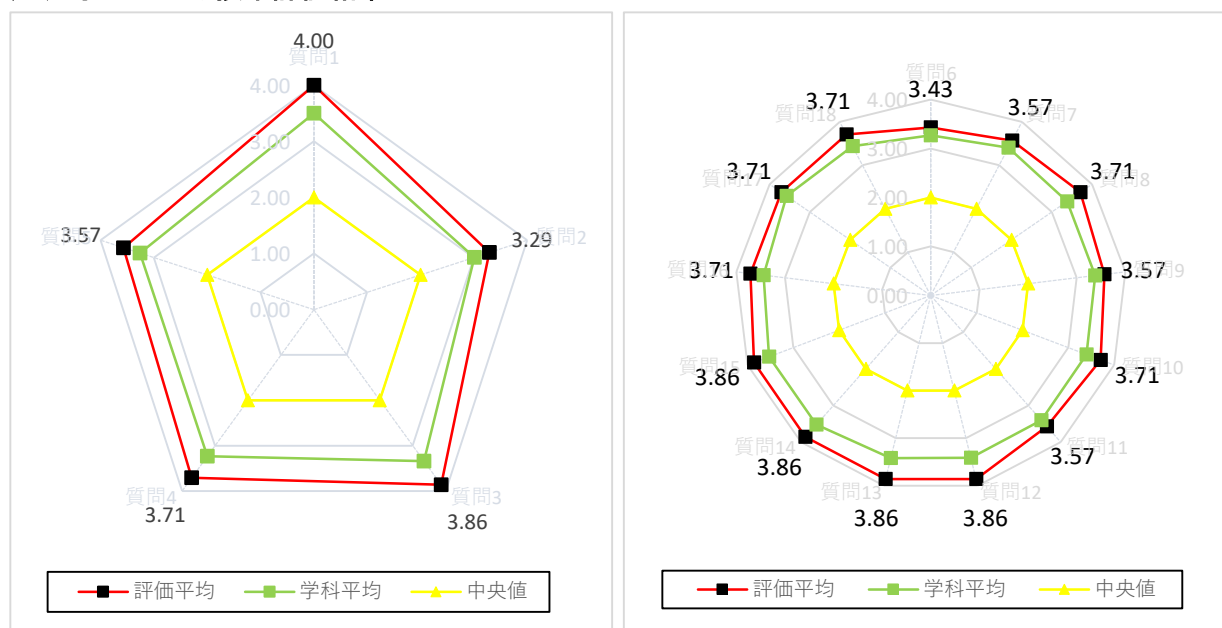
授業の分かりやすさのみ、学科平均値を下回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

学科平均値を下回った項目については、担当者間で話し合い、強化していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		Basic English I	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

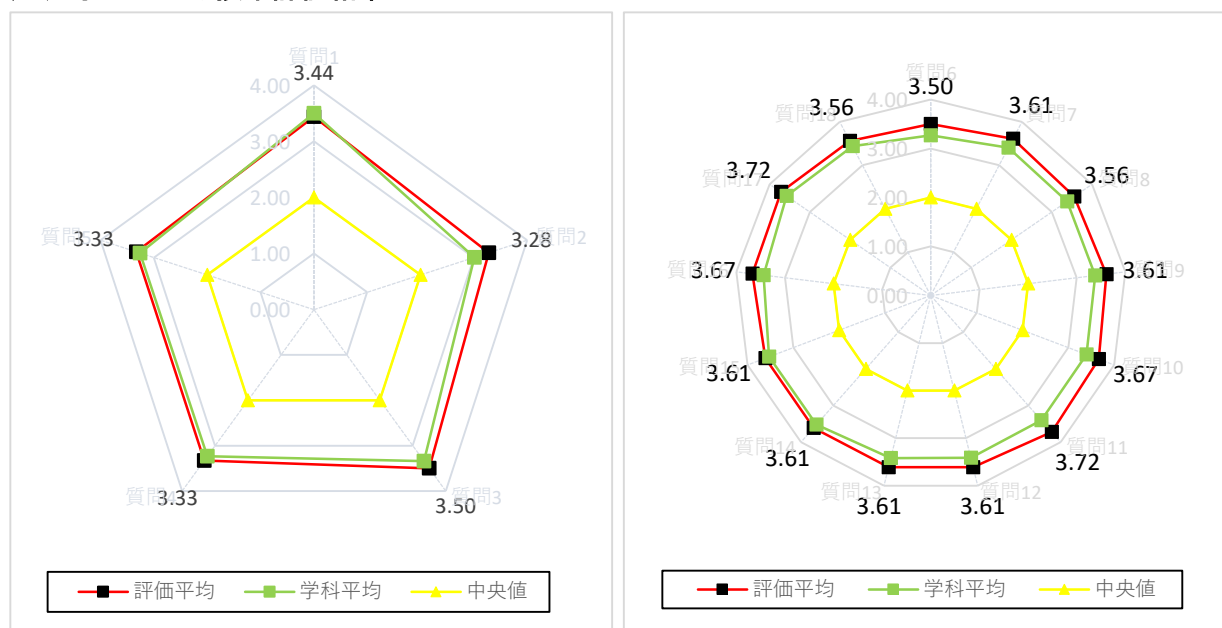
全体的に結果の分析を見ますと質問6－質問18の間特に
 質問13 声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。
 質問13 授業の進む速さは適切でしたか。
 質問14 学生の質問等に誠実に対応しましたか。
 質問15 公平に学生に対応しましたか。
 に関する評価が高かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けて、この評価のことをまず学生に教えたいです。学期末に必ず記入することを伝えます。シラバスと授業の展開に関してもいつもより強調して伝えるつもりです。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		英語表現Ⅱ	27名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

今年からテキストを変えました。したがってシラバスも変えました。学生の反応はよかったと思います。

質問1－5に関しては学生の授業に対する取り組みで評価がよかったと思います。学生の出席率、真剣に取り組む姿勢や自己評価は平均並みでした。

質問6－18に関しては、質問6は評価平均より下で、ほかの答えは評価平均とあまり変わらない数字となりました。質問17で私の熱心さが伝わって良かったです。このクラスはとてもいいクラスで、教えやすかったです。

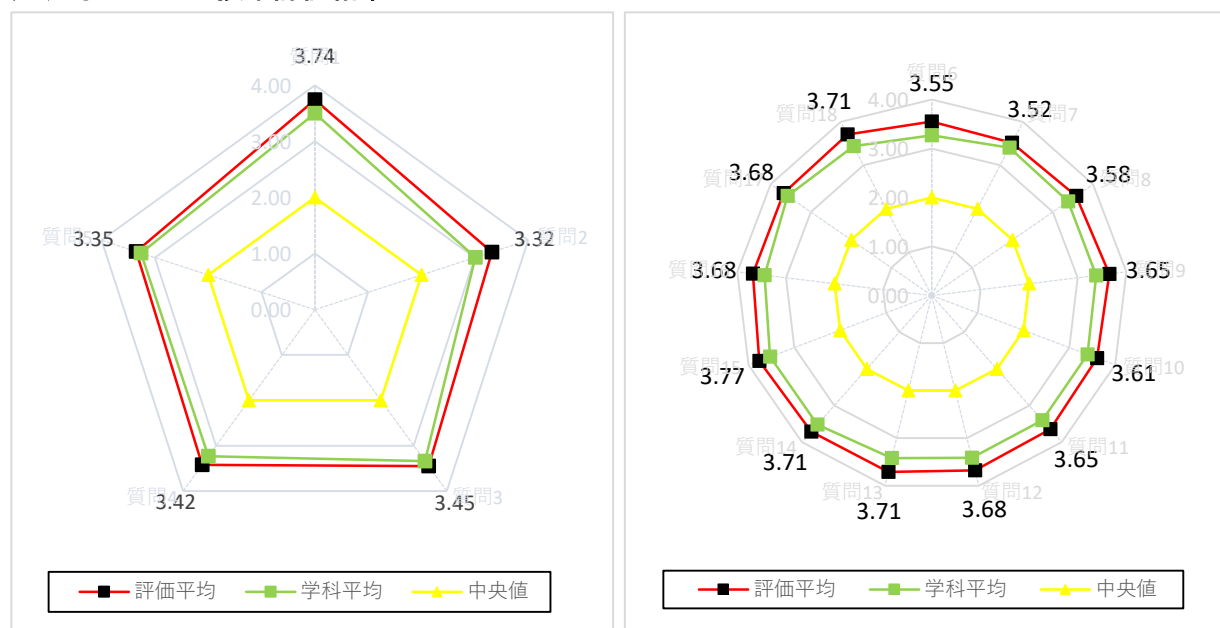
(3) 次年度に向けての取り組み

まずは、学生がこの評価を積極的にするように指導します。パソコンになってから、学生が回答したかどうかの確認が難しいと感じます。回答率が100%になったらいいデータだと思いますので、100%を目指して回答してもらいたいです。

次年度は回答するようのリマインドを行いたいです。データを見ますと授業の内容ややり方を変える必要はないと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		Global English I	31名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

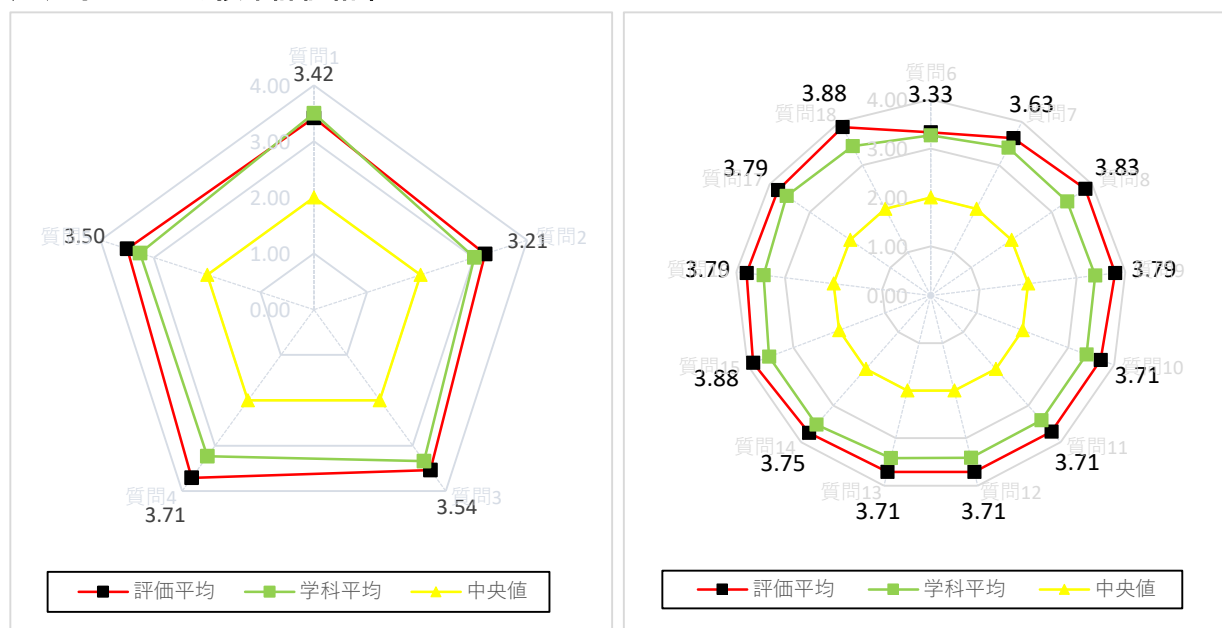
今年からテキストを変えました。したがってシラバスも変えました。学生の反応はよかったと思います。質問1－5に関しては学生の授業に対する取り組みで評価がよかったと思います。学生の出席率、真剣に取り組む姿勢や自己評価は平均並みでした。質問6－18に関しては、質問6は評価平均と同じで、ほかの答えは評価平均より少し下回る数字となりました。質問17で私の熱心さが伝わってよかったです。このクラスはとてもいいクラスで、教えやすかったです。

(3) 次年度に向けての取り組み

まずは、学生がこの評価を積極的にするように指導します。パソコンになってから、学生が回答したかどうかの確認が難しいと感じます。回答率が100%になったらいいデータだと思いますので、100%を目指して回答してもらいたいです。次年度は回答するようのリマインドを行いたいです。データを見ますと授業の内容ややり方を変える必要ないと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 リハビリテーション		Global Communication (English)	34名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

今年内容や先生の変更がありました。学生の反応はよかったと思います。

質問1－5に関しては学生の授業に対する取り組みで評価がよかったと思います。学生の出席率、真剣に取り組む姿勢や自己評価は平均並みでした。

質問6－18に関しては、質問6は評価平均と同じで、ほかの答えは評価平均より少し下回る数字となりました。

(3) 次年度に向けての取り組み

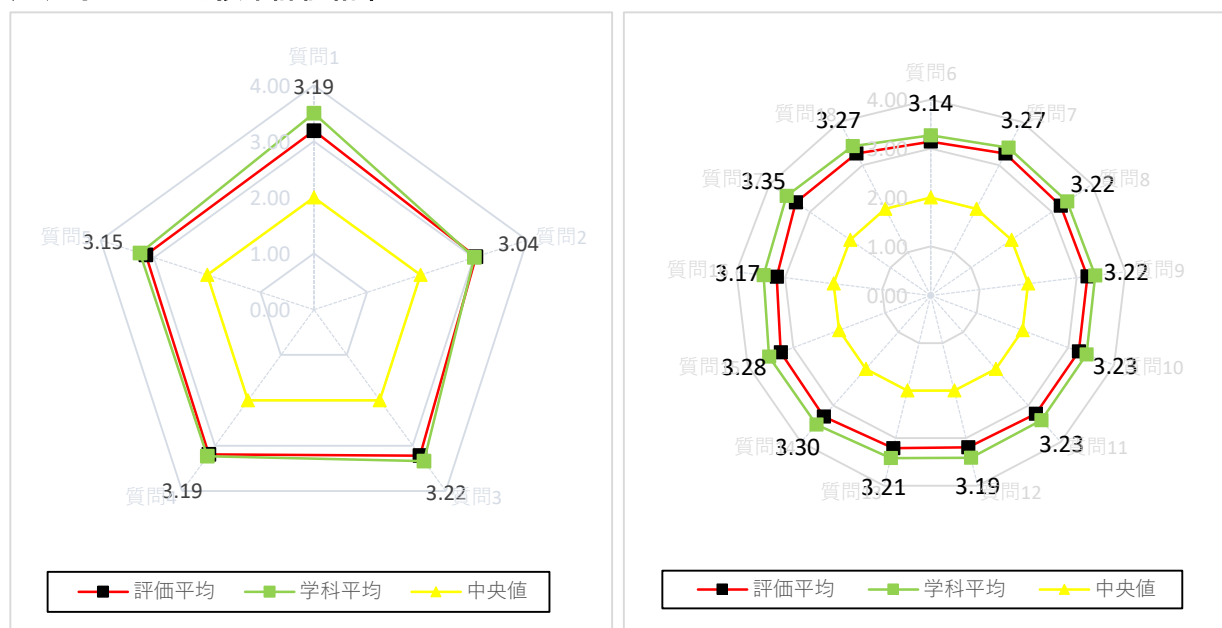
まずは、学生がこの評価を積極的にするように指導します。パソコンになってから、学生が回答したかどうかの確認が難しいと感じます。回答率が100%になったらいいデータだと思いますので、100%を目指して回答してもらいたいです。

次年度は回答するようのリマインドを行いたいです。

データを見ますと授業の内容ややり方を少し変える必要あると思います。前年度より英語の基本理解の授業が物足りない反応がありましたので、POST GCEで工夫をして次年度に生かして行います。先生方の熱心が伝わっていると思います。全体の評価画はとて面白いと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 リハビリテーション学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション		健康福祉概論	136名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

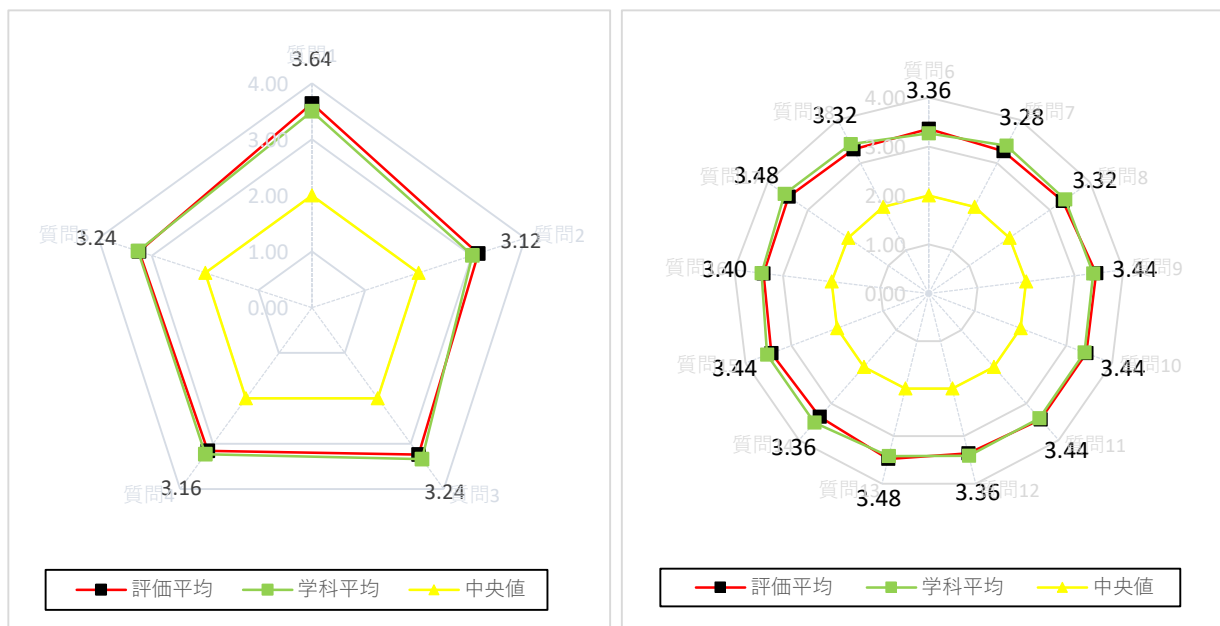
本科目はオムニバスで講義が実施された。評価項目において「教員は熱心に取り組んでいた」とする回答が最も多く、次いで「学生の質問等に誠実に対応した」と「公平に学生に対応した」とする＜教員の対応＞について評価が高く、学科平均値を超えて高い数値であった。一方で、学生自らが「シラバスを活用したか」と授業内容・方法では、「シラバスについて説明があったか」については、本科目の評価項目の中では低いため、オムニバスを担当した教員4名により協議する必要がある。また、自由記述では、「社会福祉とは何かを様々な視点から見ることができた」との感想があり、担当教員の専門性である①社会学、②心理学、③スポーツ健康学、④社会福祉学という多様な隣接領域から構成される本科目の特徴が示され、学生に理解が及んだこととを感じる。次年度以降も今年度と同じ教員で担当するため、授業への各教員の熱心さと理解を促す授業実施と共に課題であるシラバスの提示等を意識した授業構成に改めていきたい。学生から貴重な意見を得たことから次年度の授業改善に繋げるよう取り組みたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は、①社会学、②心理学、③スポーツ健康学、④社会福祉学という4名の担当教員が各自の分野を担当し、オムニバス形式により授業を展開している。大まか教員の熱意や熱心さ並びに学生に公平に対応する点については一定の高い評価を得た。この事を次年度以降も同じ教員が担当することからも継続し意識していきたい。また、上記の①～④の広範囲な領域から構成される講義のため、学生の自由記述からも、「社会福祉とは何かを様々な視点から見ることができた」との感想を得ており、社会福祉を取り巻く上記①～④の分野において各教員と連携を取りながら進めていきたい。一方では、シラバスの学生自らの活用と教員側の促しや説明不足が示されている。この点を踏まえて、次年度以降の課題としてシラバスの開示並びにアカウントビリティとしての注意喚起を促していきたい。このことから、今年度以上の講義展開が実施できるよう各教員との連携を密にして進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業と生活	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

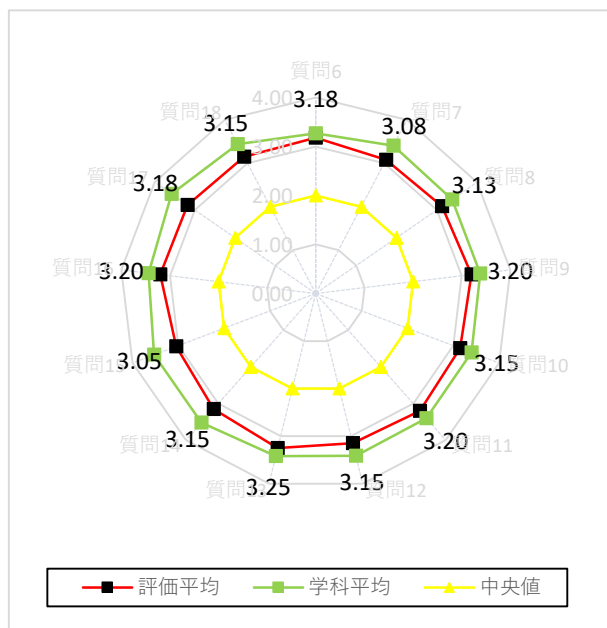
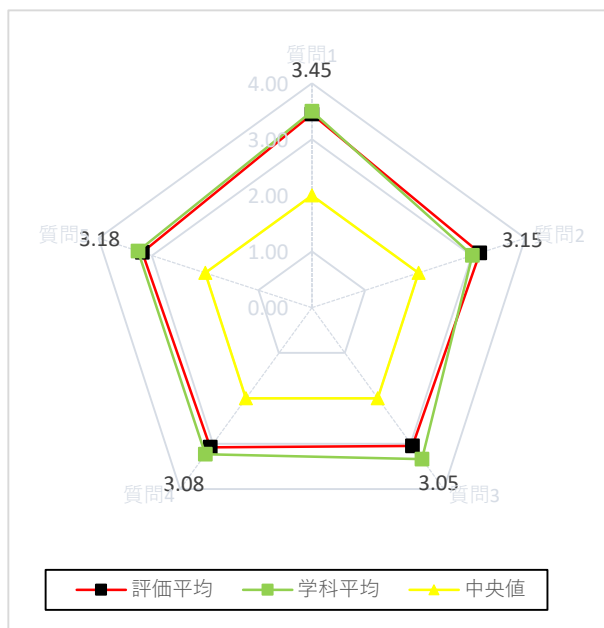
全体として学科平均近く高いレベルを保てていると考えるが、自身で考える項目の質問が平均を下回っている。また、教員側の工夫としての問題として質問8. 9. 14に対して若干の低下が認められる

(3) 次年度に向けての取り組み

学科平均に近い値であり、おおむね良好の傾向ではあると考えるが、さらなる学生の理解と自主性を促すための学生自身に考えてもらう場面を増やすこと、また、学生に興味を持てるような講義を進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		レクリエーション論	47名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

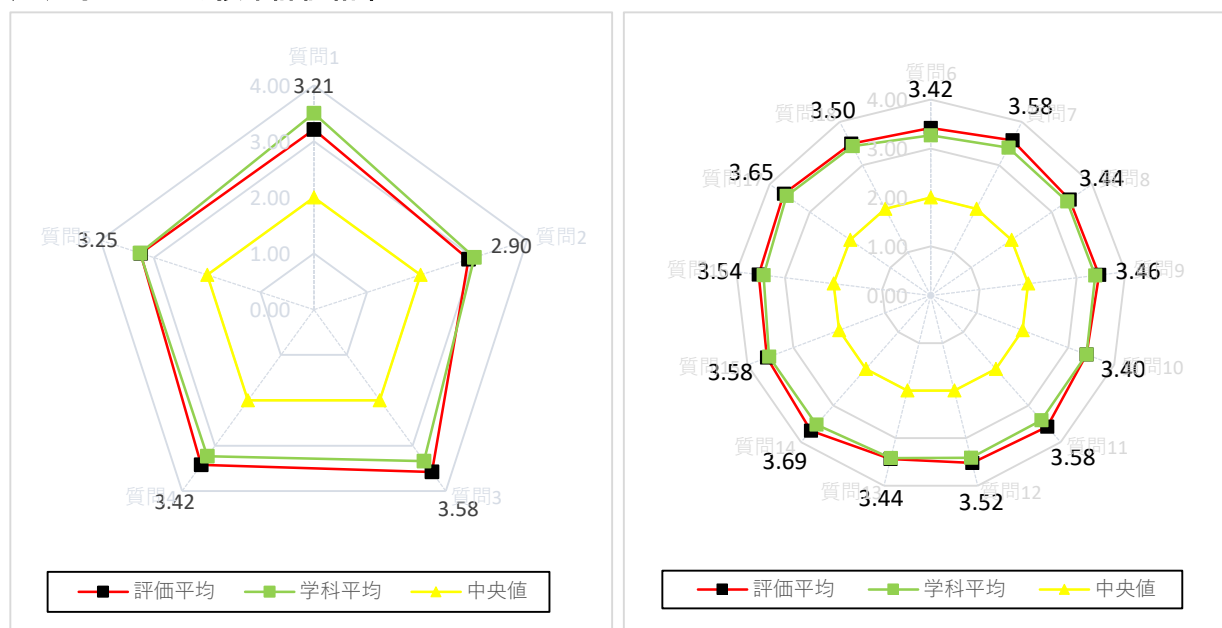
全体的に、学科平均よりも下回っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

初めての講義であり不慣れな点があったがと思うが全般的に評価が下回っている事を重視して、講義の構成を見直し次年度に備える

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 リハビリテーション学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション		障害者福祉論	94名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

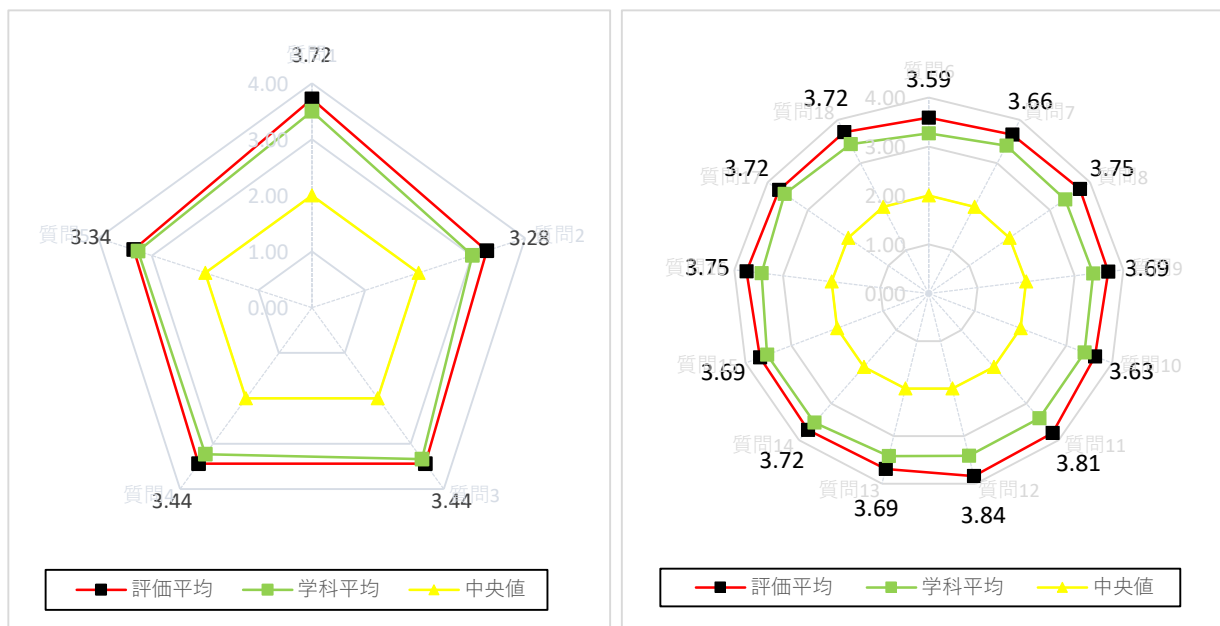
＜学生自身の授業参加態度＞について、「シラバスを活用した」とする事項は学科平均値であったが、他の項目については概ね学科平均値を上回る結果であった。特に「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組んだ」とする質問事項については、できた学生の割合が高かった。また、教員からの＜授業内容・方法について＞、＜教員の対応について＞の各項目では、すべての項目において学科平均を超えていた。特に「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していた」、「学生の質問に誠実に対応していた」の項目においては、他の質問項目よりも多少高いことが確認できたことから、更なる教材研究と学生指導に努めるよう進めていきたい。

(3) 次年度に向けた取り組み

上述のとおり、＜学生自身の授業参加態度＞について、「シラバスを活用した」とする事項は学科平均値であったが、他の項目については概ね学科平均値を上回る結果であった。特に「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組んだ」とする質問事項については、できた学生の割合が高かった。このことから次年度以降もこれら高得点が続くように意識し、受領展開に取り入れていきたい。また、再掲になるが、教員からの＜授業内容・方法について＞、＜教員の対応について＞の各項目では、すべての項目において学科平均を超えていた。特に「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していた」、「学生の質問に誠実に対応していた」の項目においては、他の質問項目よりも多少高いことが確認できたことから、本項目においても更なる教材研究と学生指導に対して研鑽を高め、次年度に向けた取り組みを強化していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		体表解剖学実習	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

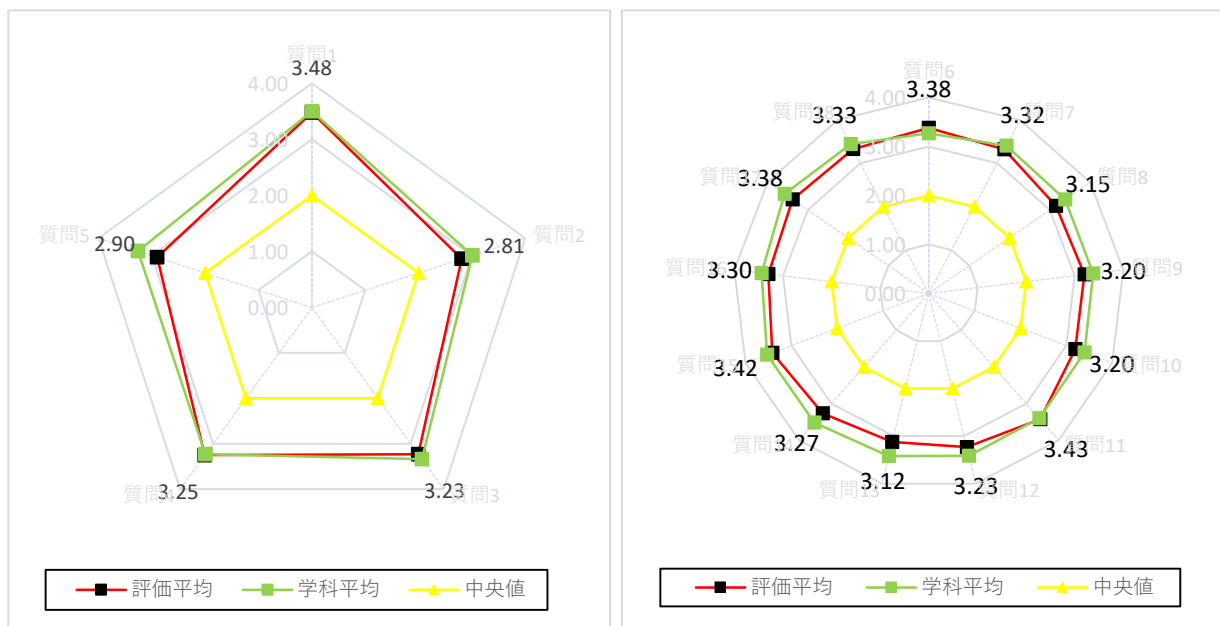
概ね良好な結果である。
アプリや動画等を駆使して筋の走行イメージが行いやすいように配慮した講義を行った。

(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き、学生の理解度を深めるためにも、模型やアプリ、動画を用いるなど反復して確認出来るツールを用いながら予習⇒講義⇒復習の学修過程を効率よく実施出来るよう配慮する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学	89名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

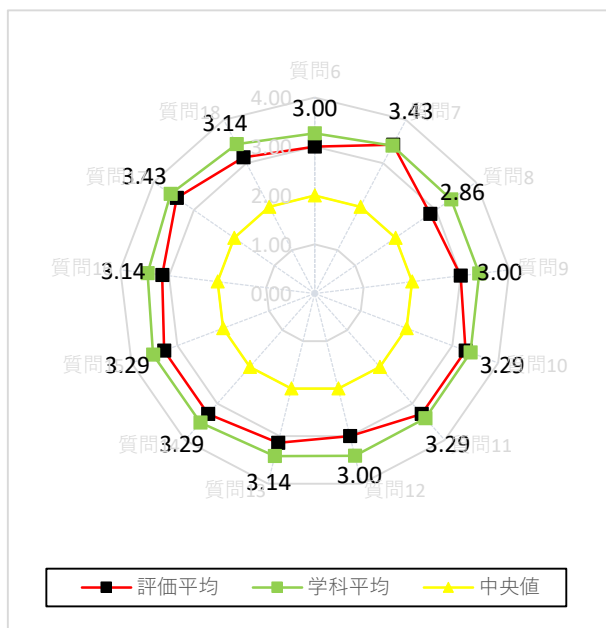
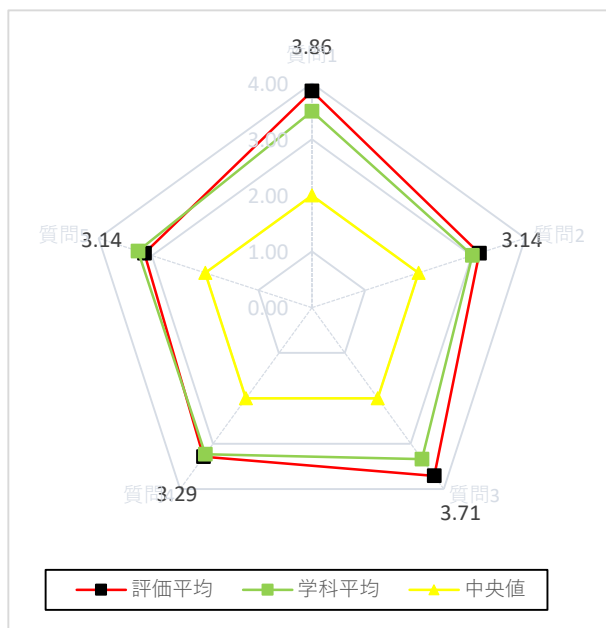
学科平均を下回っているが、自由コメントには理解できたという記載があった。
「小テストの解説をして欲しい」との自由コメントがあったが、前回の講義内容からの出題であり、どのように対応すれば良いか工夫も必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

視覚的情報による理解を高めるため、更に動画や画像を多く利用した講義にしていきたい。
小テストという形式だけでなく、講義中の復習についても考えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学演習	79名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

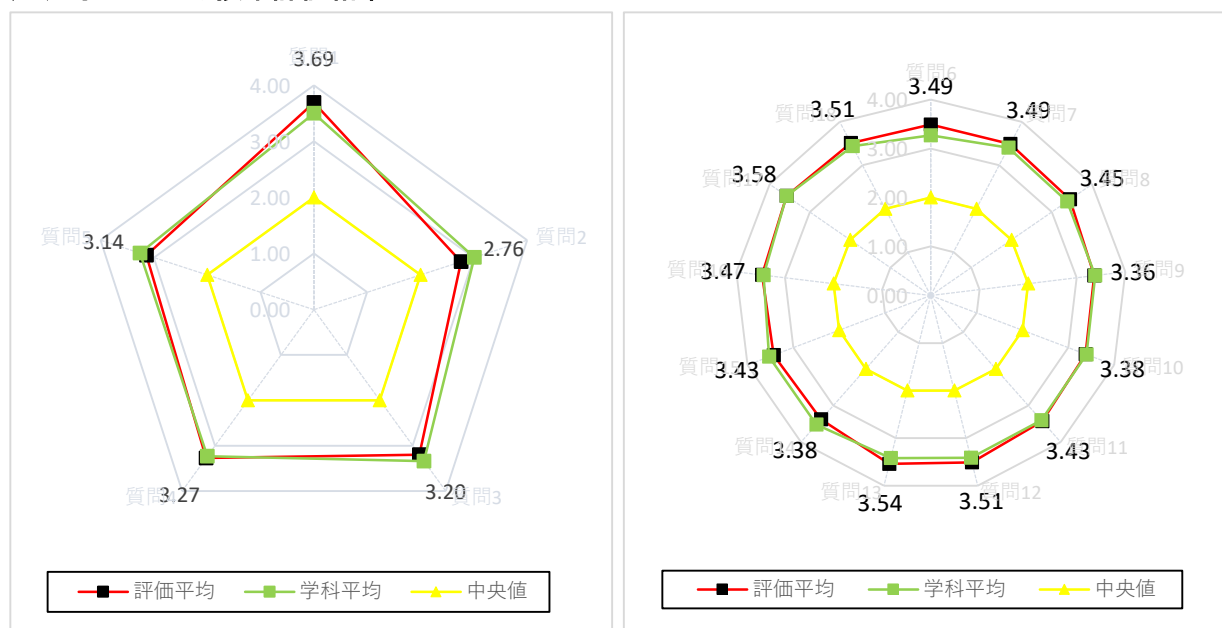
回答人数が7名しかおらず、結果に偏りがあると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

演習として、血圧測定、スパイロメーター、二点識別覚を行った。
 血圧測定では、測定できない学生が多く1人では対応に苦慮した。
 実際に測定をすることで理解が深まったとは言えなかったため、更なる工夫が必要である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		人間発達学	76名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

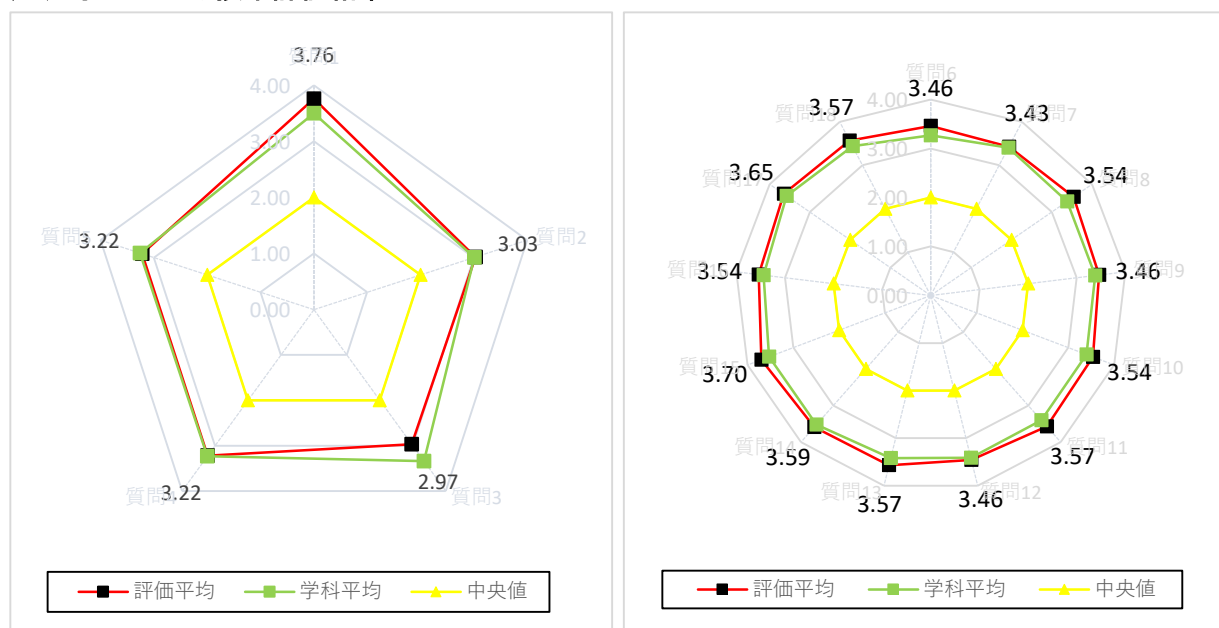
シラバスについて初回講義日に説明を行ったが、学生自身がシラバスを活用するまでには至らなかった。1年前期の専門必修科目であるため、出来る限り丁寧に講義進行や試験などについては説明を行った。PT/OT合同講義であり、質問しにくい学生がいることを考慮し、数回感想や質問を講義の最後に紙で提出させ、講義の中で補足した。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスについて初回講義日に説明するだけでなく、中間試験・期末試験前にも再度シラバスをみながら講義目的や目標について確認をおこなっていく。
質問用紙の配布回数を増やし、多くの学生が質問しやすく問題を解決しやすいよう心がける。
講義資料の見直しを行い、丁寧な講義を心がける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学 I	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問1～5の内、質問3の「授業中に居眠り・私語をせずに真剣に取り組みましたか」は比較的低値と思われる。

本科目は基礎専門科目であり、1年生にとっては難しい科目であり、居眠りしたり隣の友人と講義内容に関して話したりしていたと思われる。

質問6～18の質問項目では、ほぼ学科平均、もしくは学科の平均を上回る内容であった。

学生は、高校までとは全く違う科目を受講し、更に講義のスピードが速いため、度肝を抜かされる。

そのため、噛み砕いた内容（解り易い内容）にして、例えば話などを交えたりしたことがこの結果の理由かもしれない。

学科専攻の平均以上であったため、教授方法としてはおおむね良好であったと推測している。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は基礎専門科目であり、1年生にとっては難しい科目であるため、次年度はテキストを図や写真を多く取り入れている書籍に変更する予定である。

多くの4年生や卒業生から「もっと真剣に学習しておけば良かった」「もう一度講義を聞きたい」などの感想を本科目や解剖学・生理学でよく聞く。

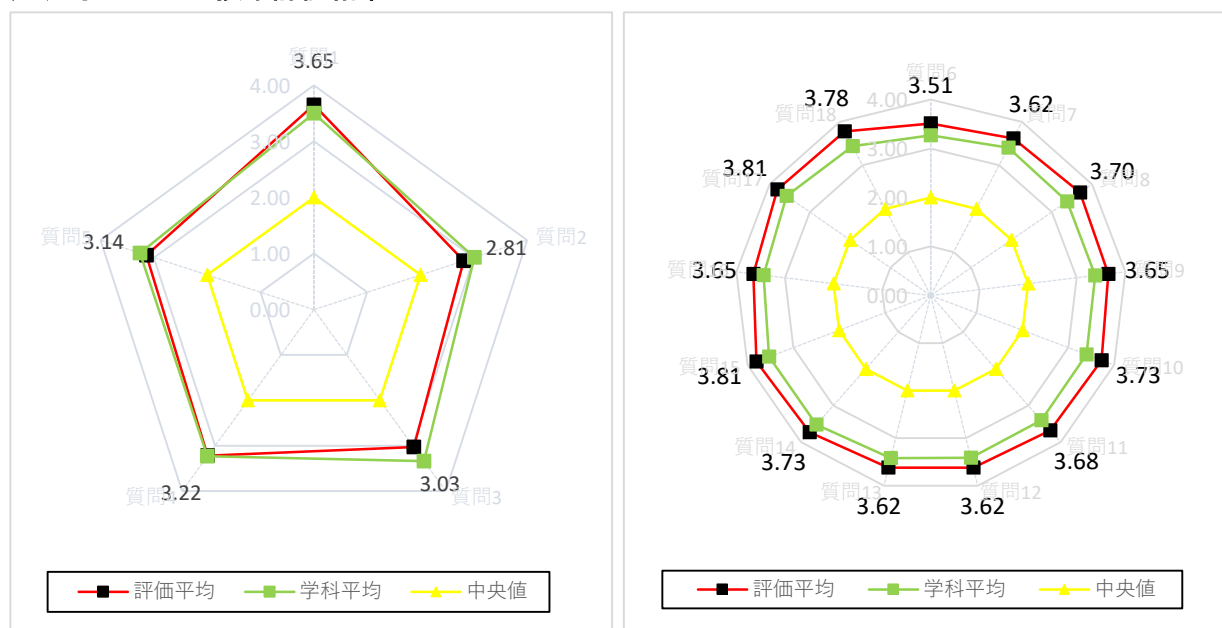
つまり、1年生の時点では本科目の重要性を認識できないことを意味していると思われる。

そのため、次年度は講義を興味深い内容にブラッシュアップさせようと考えている。

視聴覚機器や配布資料及び板書の方法の改善を図り、より解り易い講義を心掛けていきたいと考えている。更に、可能な限りアクティブラーニング形式で進めていきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学Ⅱ	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問1～5の内、質問2の「シラバスを活用しましたか」の項目と質問3の「授業中に居眠り・私語をせずに真剣に取り組みましたか」は比較的低値と思われる。前期の運動学Ⅰと比較すると、質問2が低値を示した。シラバスを毎回確認させる必要があったのかもしれない。

質問6～18の質問項目では、全て学科の平均を上回る内容であった。

噛み砕いた内容（解り易い内容）にして、例え話などを交えたことで、学生に解り易い講義になったことが功を奏したのかもしれない。

全て学科の平均以上であったため、教授方法としてはおおむね良好であったと推測している。

(3) 次年度に向けての取り組み

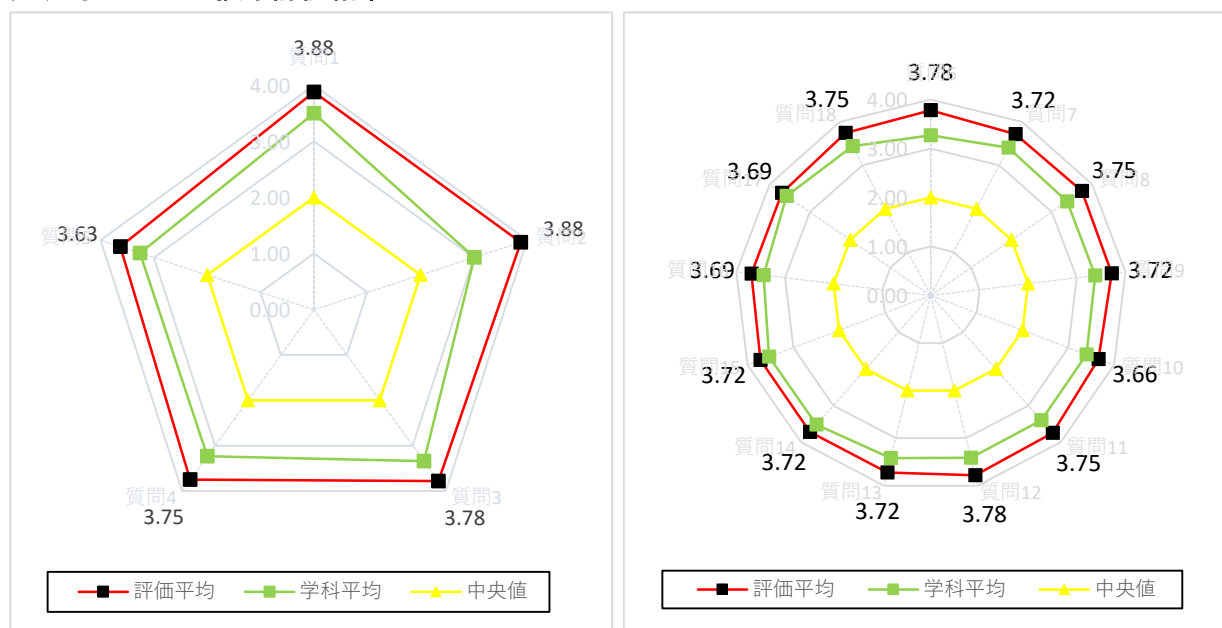
本科目は基礎専門科目であり1年生にとっては難しい科目であるが、前期から比べ改善が見られたため、来年度はより興味深い内容にブラッシュアップさせようと思う。

視聴覚機器や配布資料、及び板書の使用方法的改善を図り、より解り易い講義に心掛けていきたいと思う。

更に、可能な限りアクティブラーニング形式で進めていきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学実習	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

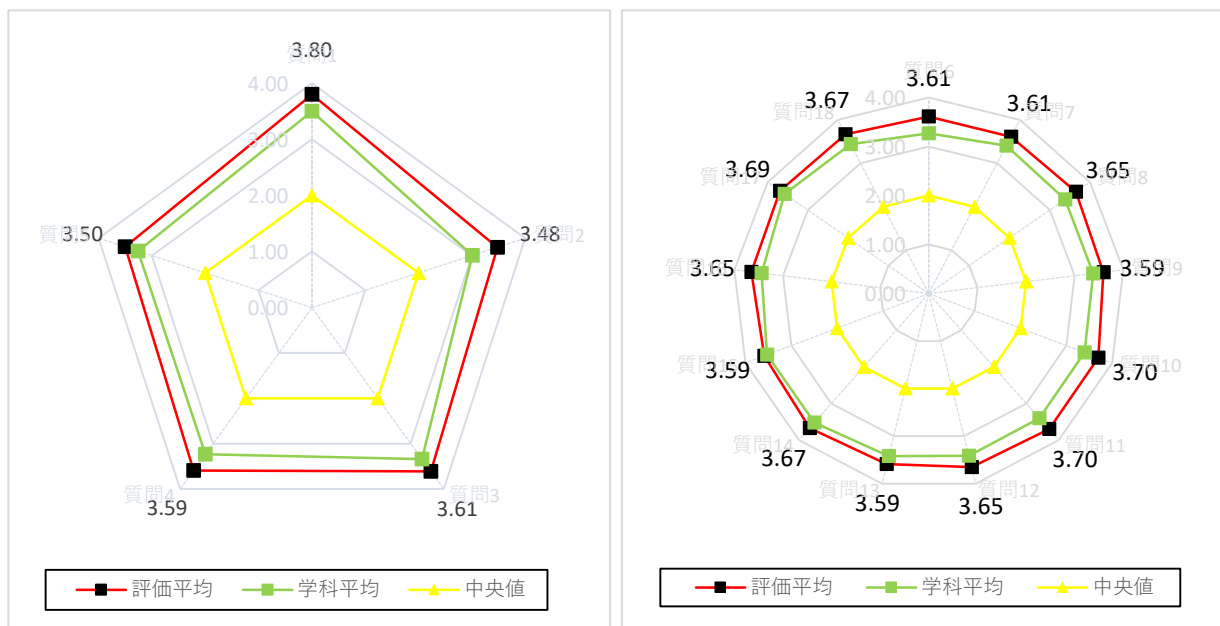
- ・全質問の学生による授業評価は、学科平均3.45/4点であったが、当該科目は平均3.74±0.48/4点であった。
- ・学生による授業評価の回答率は100%であった。
- ・当該科目で最も評価が低かったのは、質問5：学生自身の総合自己評価（3.63/4点、学科平均3.28/4点）であった。次に評価が低かったのは、質問12：声の大きさ・明瞭さ・話す速さ（3.47/4点、学科平均3.47/点）となった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・当該科目で最も評価が低かったのは、質問5：学生自身の総合自己評価であった。次に評価が低かったのは、質問12：声の大きさ・明瞭さ・話す速さであった。学生からの評価は高めであるが、学生が学習効果を感じることができるようなfeedbackや、講義進行中に確認する作業が必要だと考えられた。
- ・毎講義終了後に、学生が理解しづらかった内容を聴取し、次回の講義最初に解説を加えて、理解が深まるように工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内科学 I	78名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

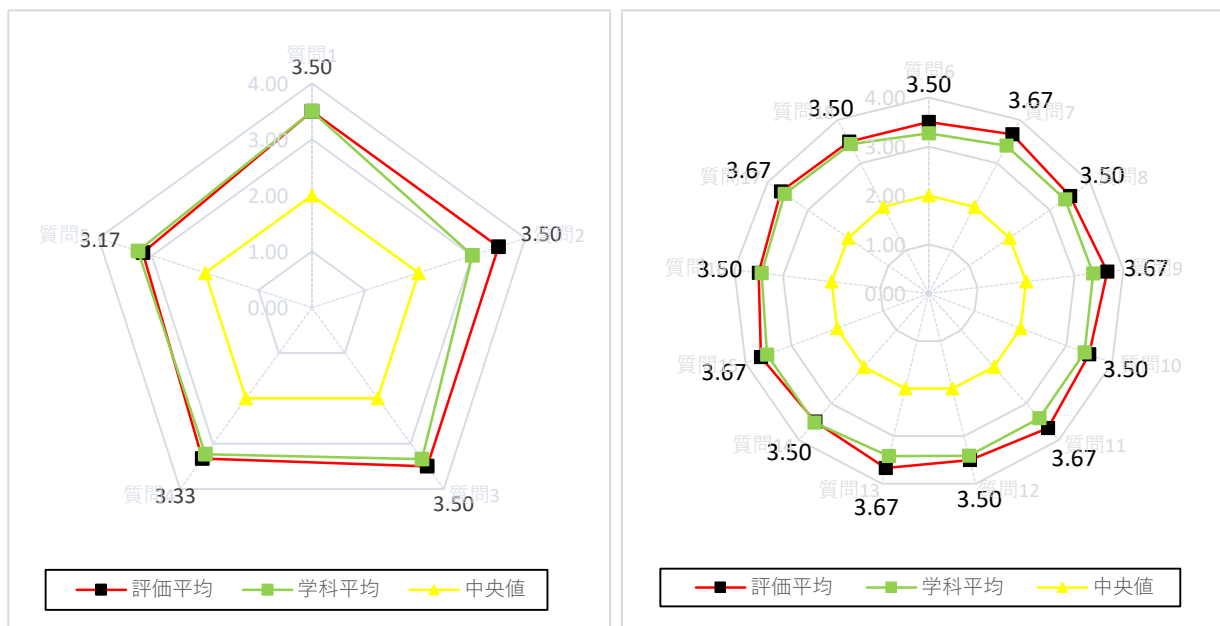
すべての質問において学科平均を若干上回る結果を得ている。
 内科学Iは総論であり、リハビリテーション学科2年生において初めての臨床医学系科目の一つであるため、学生にとって難易度は高いと考えられる。
 そこで前期は、1年生で学んだ生理学・解剖学・公衆衛生学などの知識を確認しながら、ゆっくり丁寧に進行するよう努めた。
 医学専門用語に慣れさせるとともに、小テストによる確認作業を丁寧に実施した。学生一人一人が授業に参加し考える習慣をつけてもらうために、学生にもテキストを音読させたり、小テストの答えを発表させ、間違えることを恐れずに発言するよう助言した。
 学生の受講態度は真面目であり、クラスとしての雰囲気も良好であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生一人一人の特性を把握するように努めつつ、クラス全体として学力を伸ばしていけるように、心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内科学Ⅱ	82名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

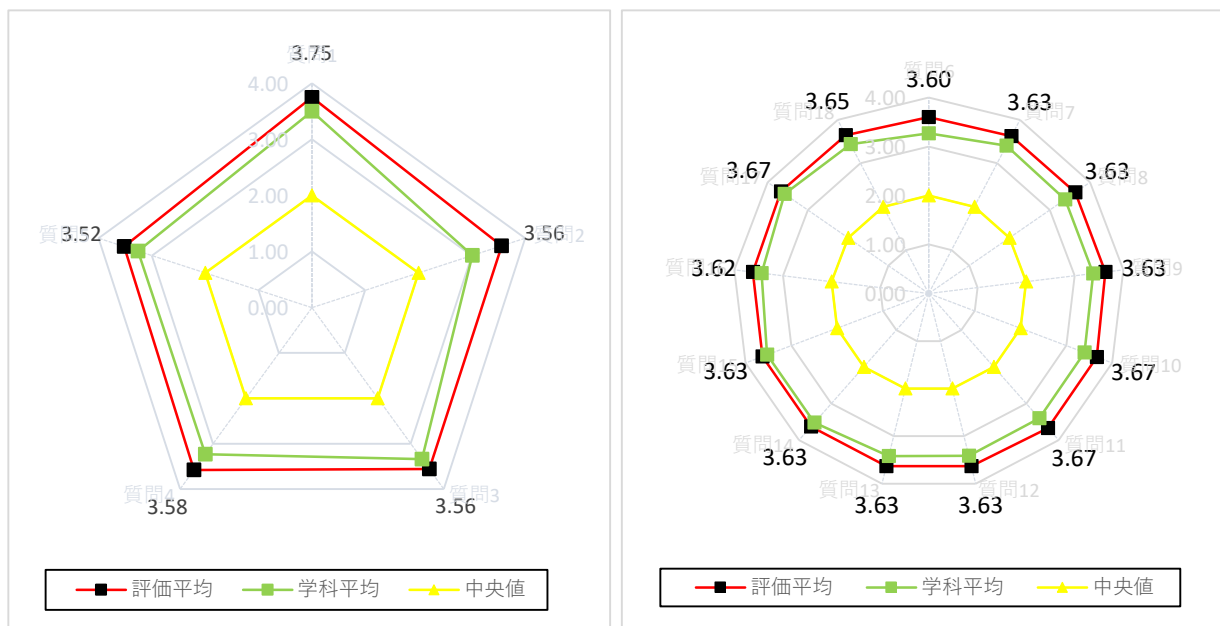
すべての質問において、学科平均程度または若干上回る結果を得ている。
 内科学II（後期）は各論となるため難易度は前期よりも高くなるが、臨床や国試における主要疾患について判りやすい説明を心がけつつ、授業中の応答や小テストの状況を把握しながら、学生の能力を高める授業となるよう配慮したつもりである。
 学生の受講態度は真面目であり、クラスとしての雰囲気も良好であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生一人一人の特性を把握するように努めつつ、クラス全体として学力を伸ばしていけるように、心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		整形外科科学 I	79名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

すべての質問において学科平均を若干上回る結果を得ている。
 整形外科科学Iは総論であり、リハビリテーション学科2年生において初めての臨床医学系科目の一つであるため、学生にとって難易度は高いと考えられる。
 そこで前期の整形外科Iでは、1年生で学んだ生理学・解剖学・公衆衛生学・運動学などの知識を確認しながら、ゆっくり丁寧に進行するよう努めた。
 医学専門用語に慣れさせるとともに、小テストによる確認作業を丁寧に実施した。学生一人一人が授業に参加し考える習慣をつけてもらうために、学生にもテキストを音読させたり、小テストの答えを発表させ、間違えることを恐れずに発言するよう助言した。
 学生の受講態度は真面目であり、クラスとしての雰囲気も良好であった。

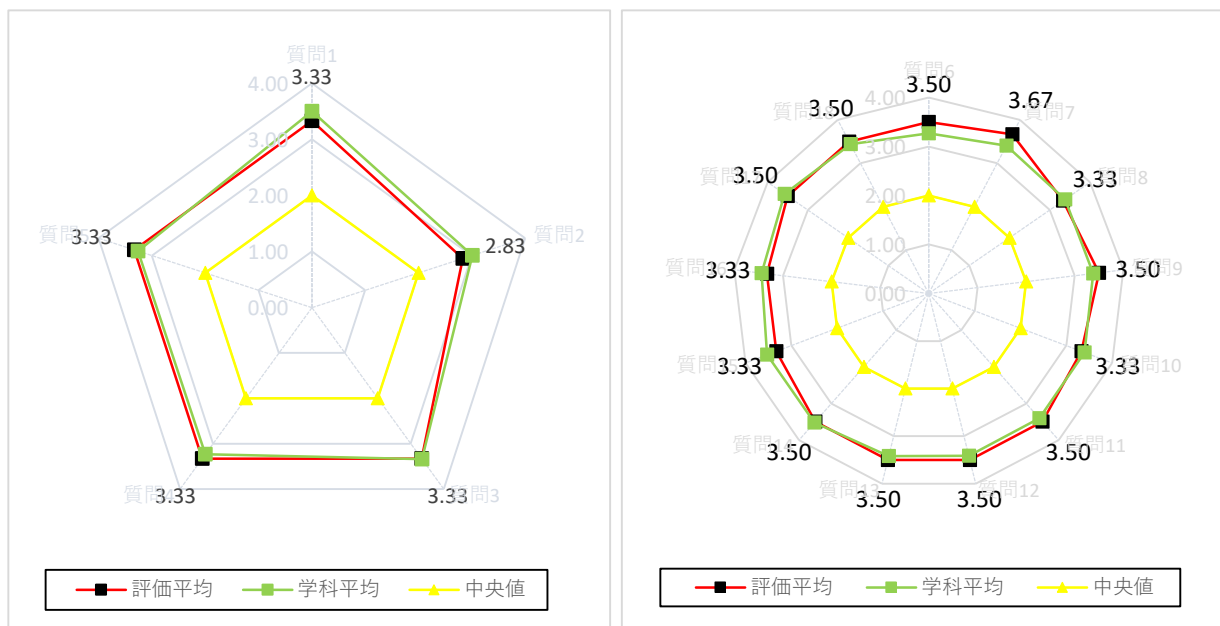
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生一人一人の特性を把握するように努めつつ、クラス全体として学力を伸ばしていけるように、心がけていきたい。

□

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		整形外科科学Ⅱ	80名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

ほとんどの質問において、学科平均程度または若干上回る結果を得ている。
 整形外科科学II（後期）は各論となるため難易度は前期よりも高くなるが、臨床や国試における主要疾患について判りやすい説明を心がけつつ、
 授業中の応答や小テストの状況を把握しながら、学生の能力を高める授業となるよう配慮したつもりである。
 学生の受講態度は真面目であり、クラスとしての雰囲気も良好であった。
 シラバスについては初回授業時に一括してスライドを使って説明しているが、進行状況によってシラバス通りには行かない場合も当然ながら発生するため、授業ごとに当日の到達目標や次回の予定を伝えるように心がけた。

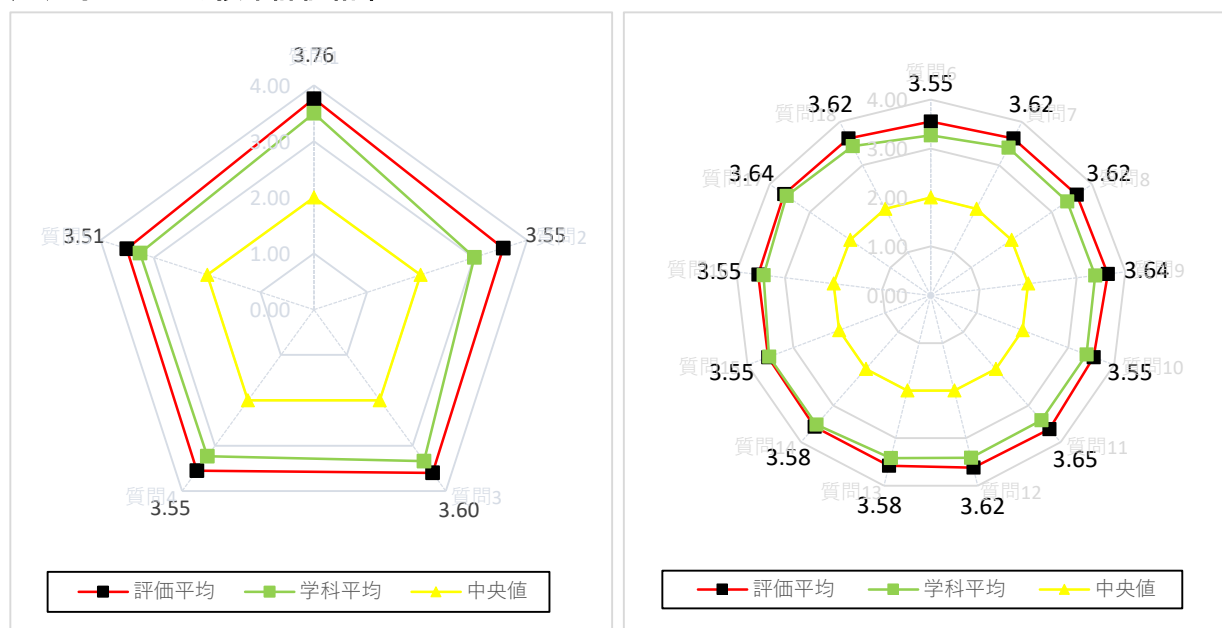
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生一人一人の特性を把握するように努めつつ、クラス全体として学力を伸ばしていけるように、心がけていきたい。

□

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経内科学 I	79名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

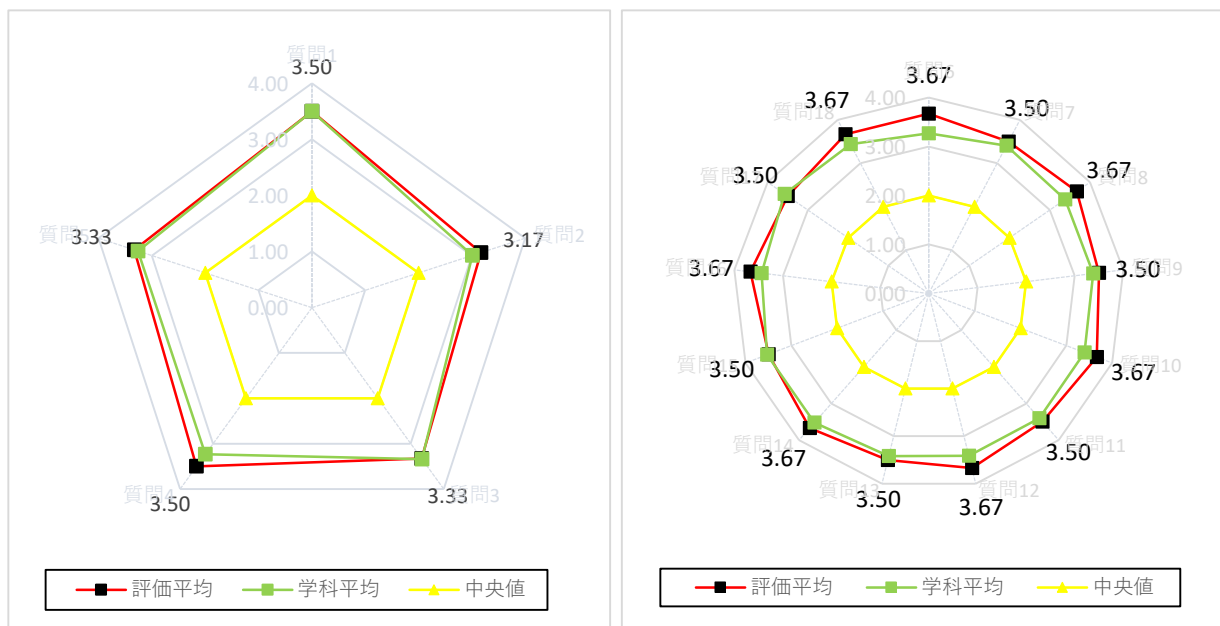
すべての質問において学科平均を若干上回る結果を得ている。
 神経内科学Iは総論であり、リハビリテーション学科2年生において初めての臨床医学系科目の一つであるため、学生にとって難易度は高いと考えられる。
 そこで前期では、1年生で学んだ生理学・解剖学・公衆衛生学・運動学などの知識を確認しながら、ゆっくり丁寧に進行するよう努めた。
 DVD動画を2回ほど活用し、学生の理解を助けるよう工夫した。
 医学専門用語に慣れさせるとともに、小テストによる確認作業を丁寧に実施した。学生一人一人が授業に参加し考える習慣をつけてもらうために、学生にもテキストを音読させたり、小テストの答えを発表させ、間違えることを恐れずに発言するよう助言した。
 学生の受講態度は真面目であり、クラスとしての雰囲気も良好であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生一人一人の特性を把握するように努めつつ、クラス全体として学力を伸ばしていけるように、心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経内科学Ⅱ	83名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

すべての質問において、学科平均程度または若干上回る結果を得ている。
 神経内科学II（後期）は各論となるため難易度は前期よりも高くなるが、臨床や国試における主要疾患について判りやすい説明を心がけつつ、授業中の応答や小テストの状況を把握しながら、学生の能力を高める授業となるよう配慮したつもりである。
 学生の受講態度は真面目であり、クラスとしての雰囲気も良好であった。

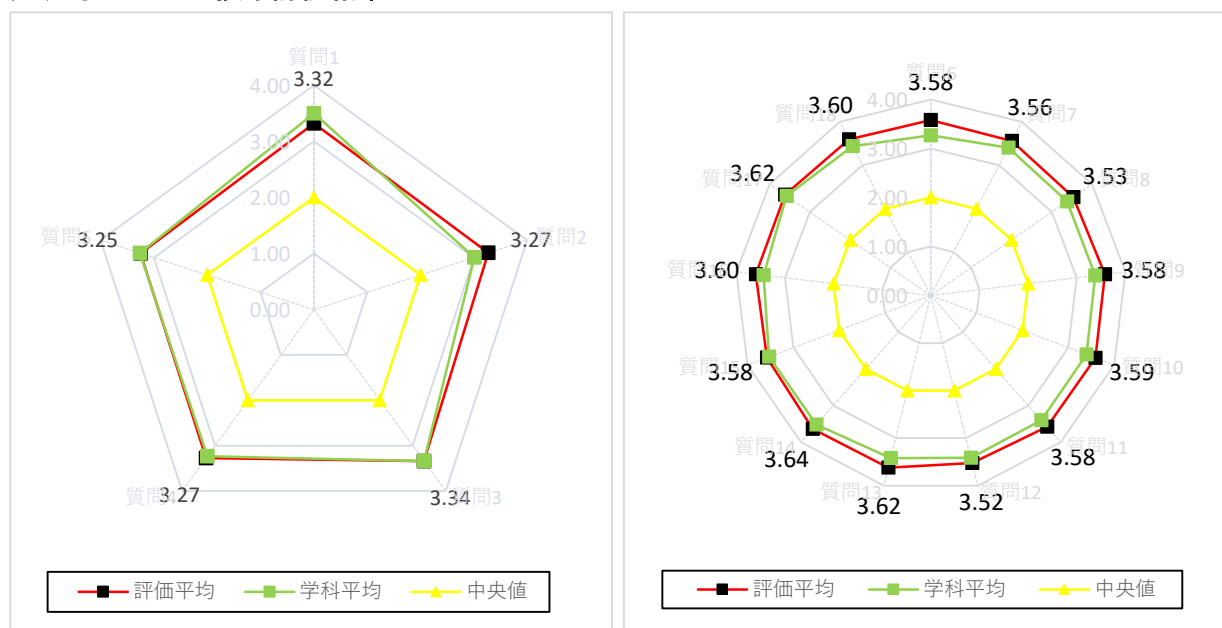
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生一人一人の特性を把握するように努めつつ、クラス全体として学力を伸ばしていけるように、心がけていきたい。

□

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		画像診断学	84名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

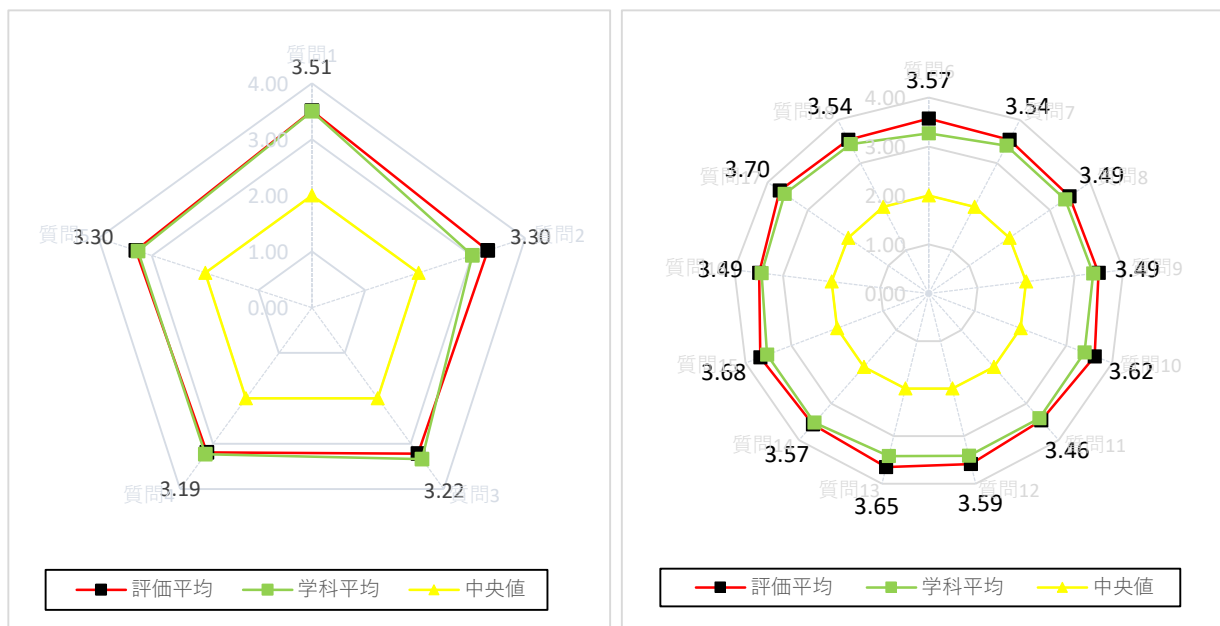
質問1から18までの全て項目で学科平均もしくは平均以上の結果であった。
 本科目は国家試験に出題される画像に特化した科目である。
 そのため、国家試験で出題された画像を講義に使用したことで、学生は解り易く興味深く聴講できたのではないと思われる。
 また、使用したテキストも5冊の書籍から吟味したとても解り易い教科書であったことが、この結果に反映されていると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は今年度の国家試験に出題された画像も加えた講義資料にしたいと考えている。
 また、可能な限りアクティブラーニング形式で進めていきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		リハビリテーション概論	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

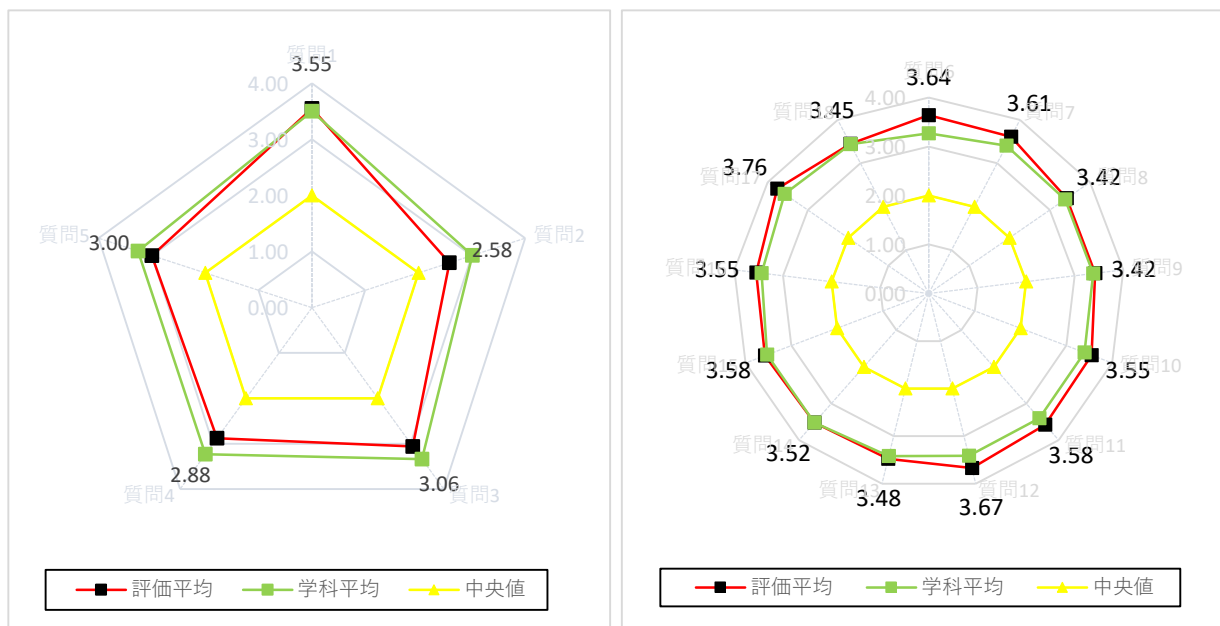
学科平均に比べて高い評価が出ている(結果平均：3.58、学科平均3.12)。前年度の課題であったシラバスの活用も好転していた。

(3) 次年度に向けての取り組み

このペースを維持するとともに、より授業改善に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法学概論	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

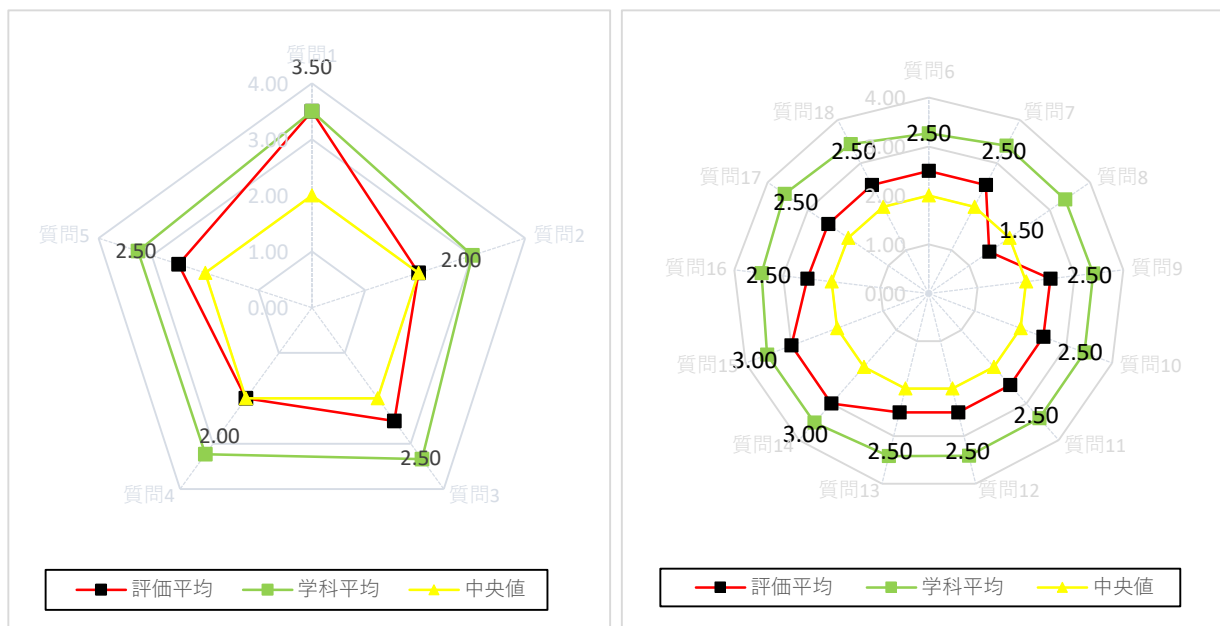
学生によるシラバスの活用が少なかった（質問1）。また、授業を理解するための取り組みについても学科平均よりも低いという結果であった（質問4）。その他、質問6から質問18については学科平均とほぼ同等という結果であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生がシラバスを活用するよう、また学生自身が自ら授業を理解するための取り組みに積極的になるように、予習内容を工夫したり、シラバスの確認を促すような声かけを行う。質問6から質問18については、さらに評価が高くなるようにすべての項目について更なる意識と工夫を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		基礎作業学	31名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

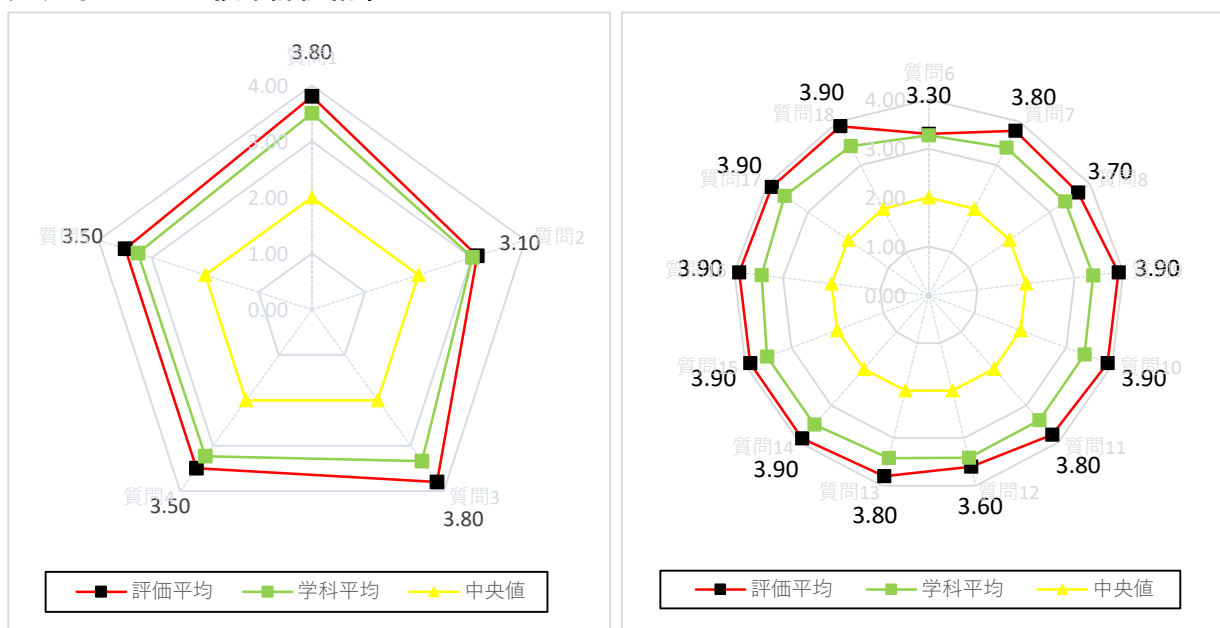
全般的に低い傾向にあるが対象者が1名であったためもっと多くの意見が聞ければと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

全般的に低い傾向にあるが対象者が1名であったためもっと多くの意見が聞ければと考える。ただし、この意見も十分に考慮して次年度に備えたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		基礎理学療法学	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

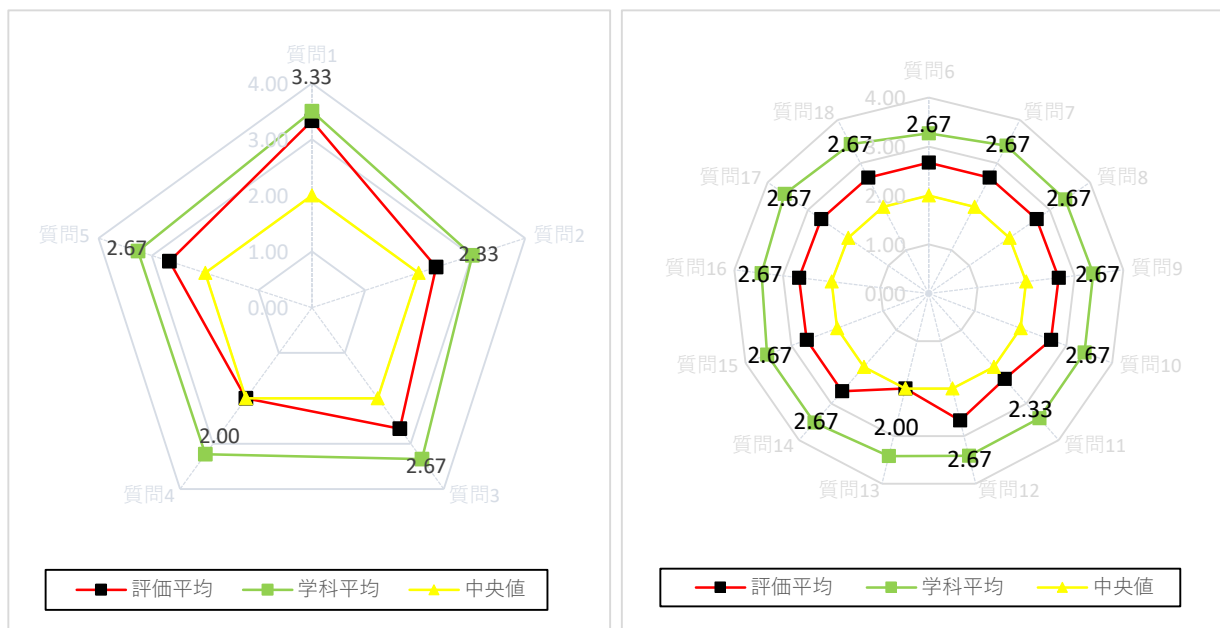
1. 回答率26% (10名/39名) と極めて低い。
2. 学生1名がシラバスについての説明に不満を感じている一方で、自らシラバスを活用していない学生が3名認められる。
3. 声の大きさ・明瞭さ・話す早さに不満を感じている学生が1名確認できた。
4. 上記以外はおおむね満足を得られている。

(3) 次年度に向けての取り組み

1. 回答率を向上させるために、学生へさらなる協力を求めたい。
2. 講義冒頭でシラバスの確認を行ったが、印象づけられていないことから、複数回のシラバス説明を検討する。
3. マイクの使用を求める自由記述もあったため、必要に応じてマイクの使用を検討する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		基礎作業学実習	31名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

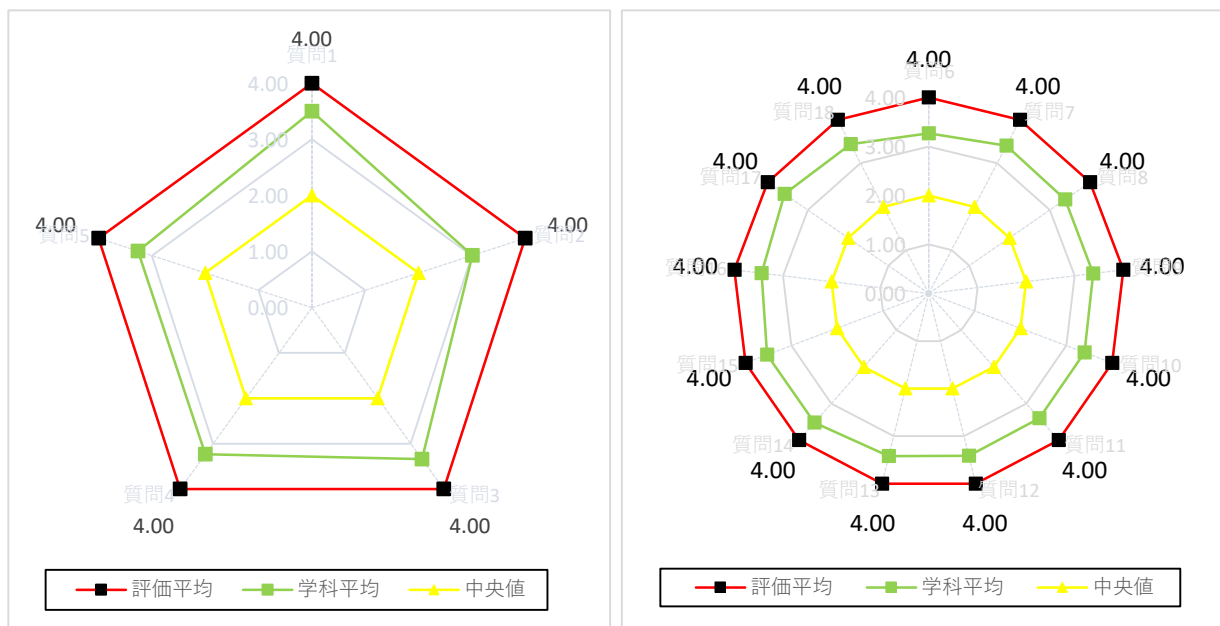
31人中3名より回答があった。あまりにも低い回答率だったため、分析できない。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義の初回時に、シラバスを含む講義目標や目的等のプリントを配布し、事前説明を十分に行った。次年度は、受講者全員から回答をもらえるように講義終了時にアンケートへの回答を依頼したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法総合演習	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

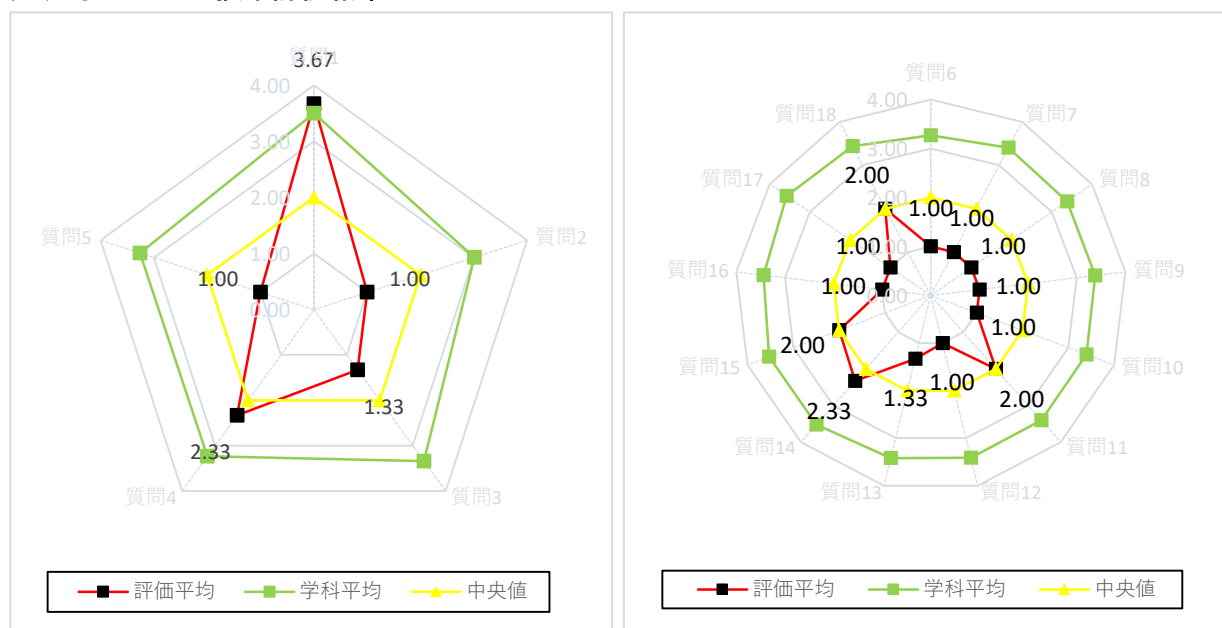
回答者が少ないため全体の意見を反映しているとは言い切れない。
 本講義は、アクティブラーニングやグループワークが中心となる講義である。
 解答者に限って言えば、学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。
 概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も今年度同様の構成で行っていく。
 学生が準備を整えられるように支援していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法総合演習	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

解答者が3人と少ない。

本科目はグループワークやディスカッションの比率が大きい。学生自身の意欲が乏しいためこのような評価になったと考える。

前年度科目履修出来なかった学生が履修したため、評価がについてはやや感情的な面が反映された可能性がある。

なお、アンケート回答を行った学生全員が本科目でも修得できていなかった。

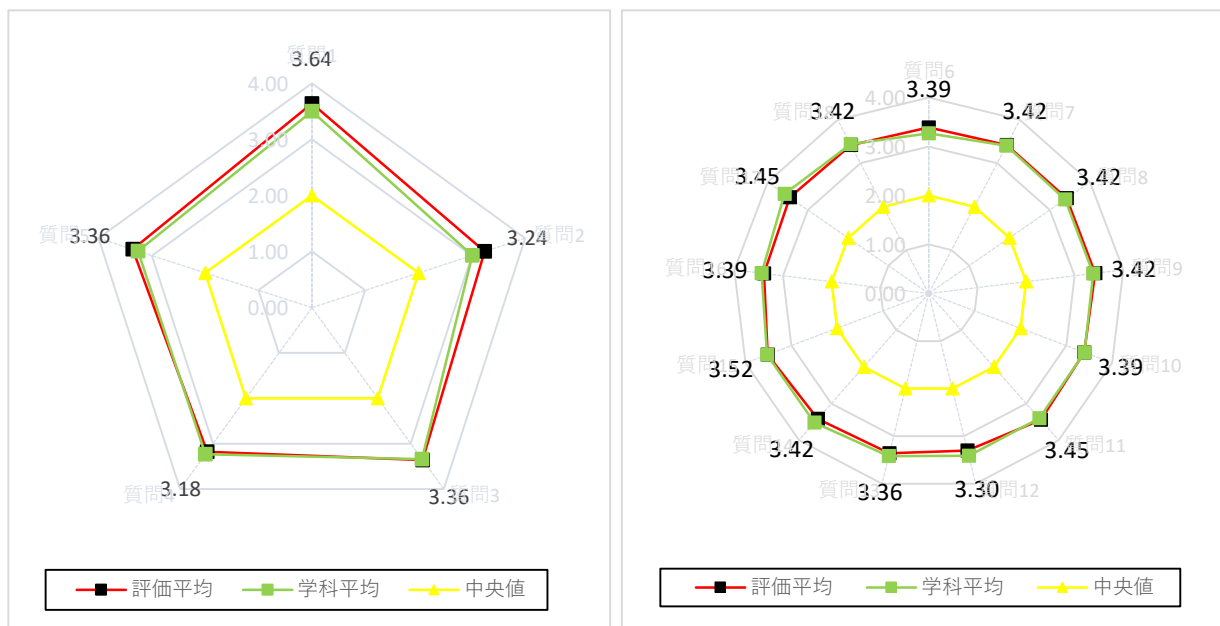
(3) 次年度に向けての取り組み

意欲的な取り組みが行えるように、改善を行っていく。

学生とのコミュニケーションを増やしていき、不明瞭な部分を減らしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学研究法	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

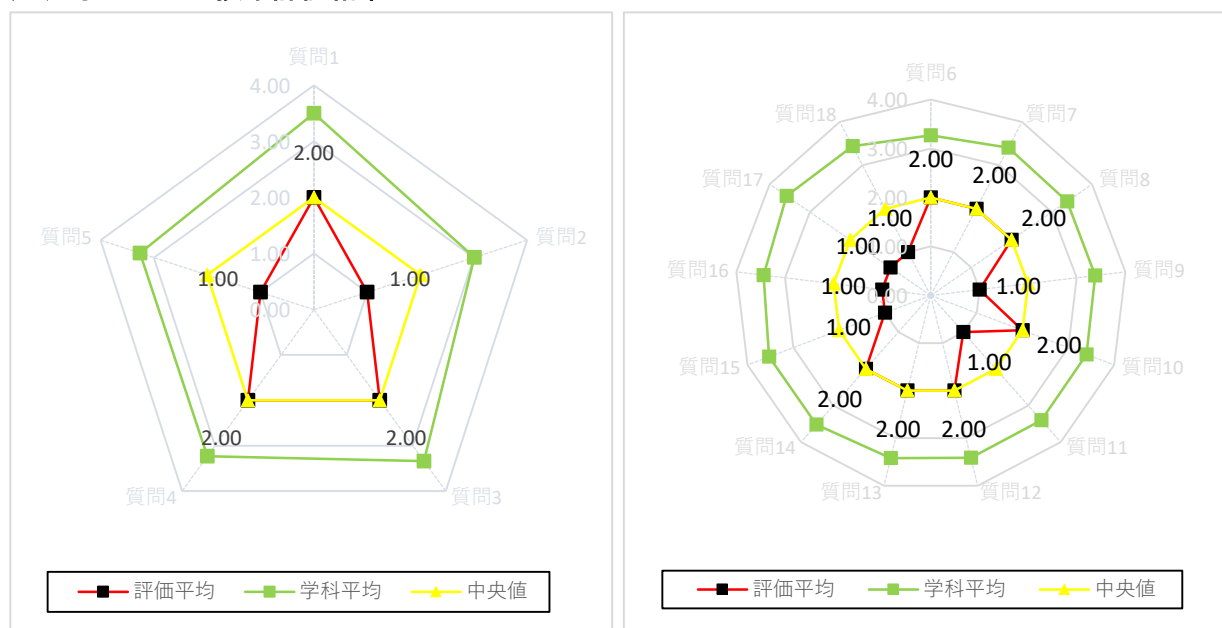
本科目も全項目で学科平均を上回った。
特に例年質問6「シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」が低かったが本年度は平均値であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

研究法は、統計・解析も含む。演習形式で学生が実際のデータから統計ソフトを駆使して解析できるように指導する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		園芸論	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

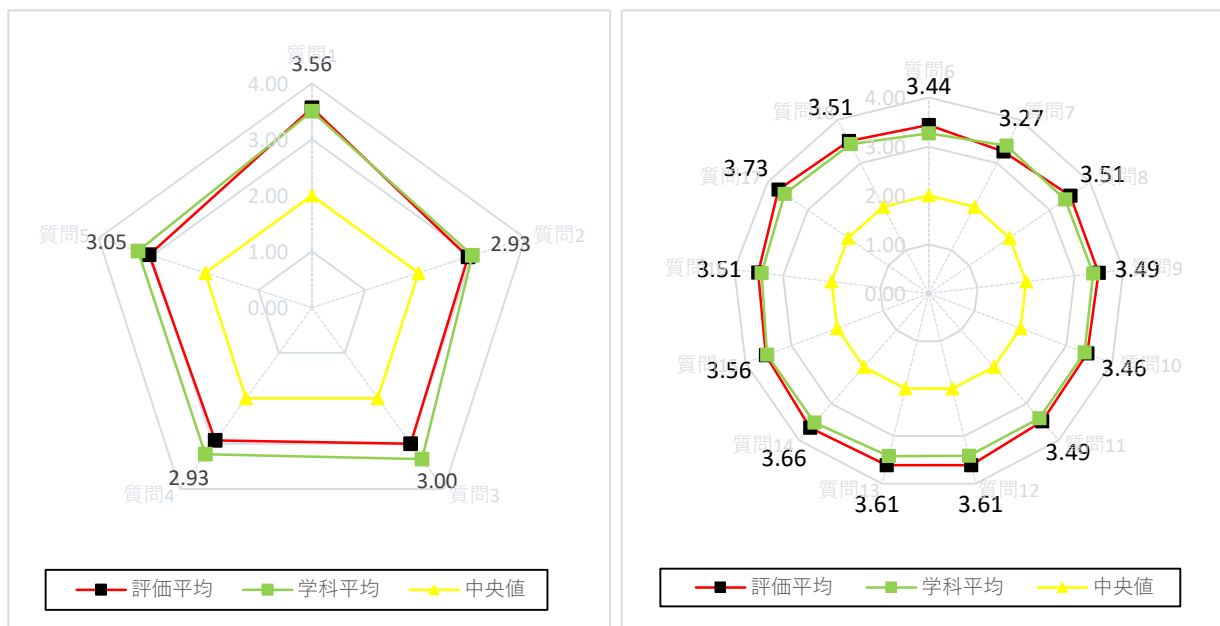
最も理解が悪かった学生のみが回答しており、評価の促しかたの工夫が必要である

(3) 次年度に向けての取り組み

自然を相手にした講義内容となるため、シラバスの書き方等の更なる工夫を行います。評価の促しかたの工夫が必要であるが、こちらは担当教員が「この授業を評価しなさい」と伝えるのは圧力をかけているようにも感じられるため、全学的に全員が評価せざるを得ないシステムを構築して欲しいです。最も心配なことは、担当教員が講義中に講義の時間を使って学生に入れさせることでしょう。その時に教員がどう打ち込んでいるかをチェックしたりした場合は、さらに問題が大きくなると思われます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		園芸療法論	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

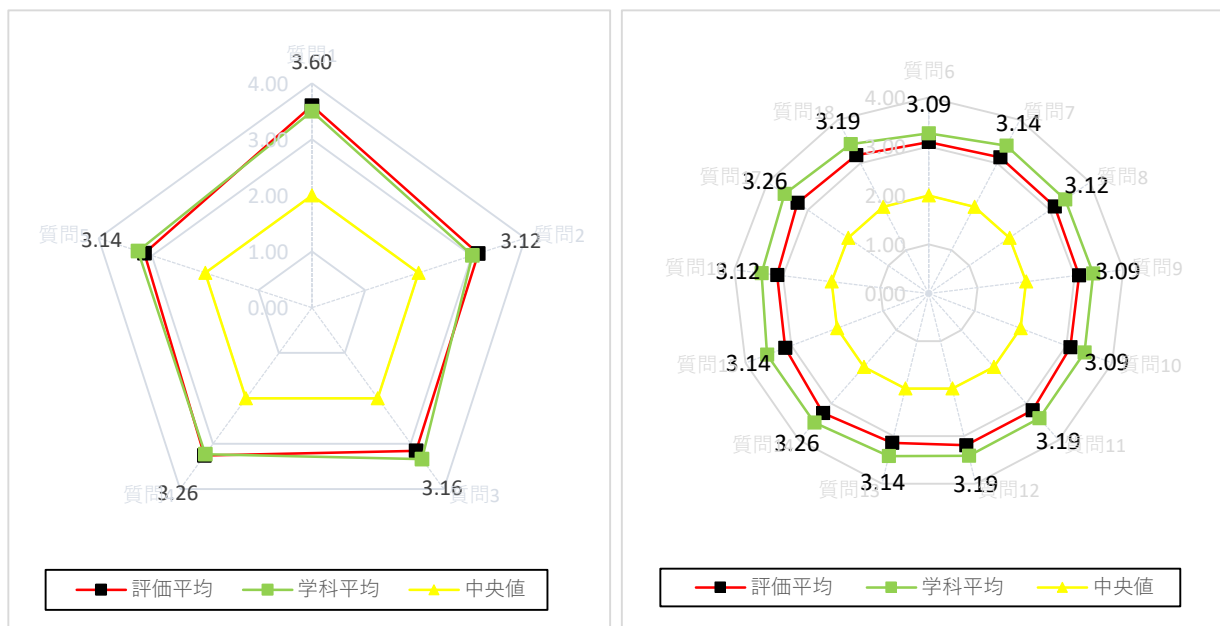
気候天候に左右される講義であるため、できる限りの対応をしてきたが、どうしてもアクティブラーニングができない時間が発生したが、それらの悪評価はみられていないようです。全体的に講義内容をブラッシュアップしていきたいと思っています。

(3) 次年度に向けての取り組み

季節感のあるアクティブラーニング講義も積極的に取り入れたいと思っています。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		園芸療法実習	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

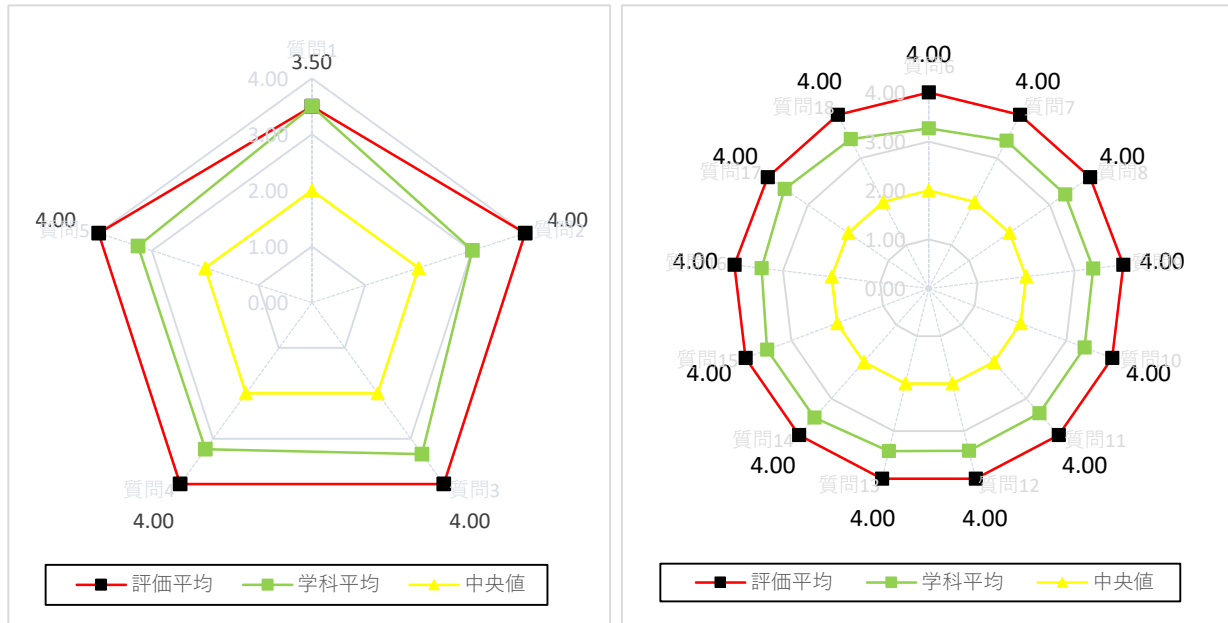
欠席する学生は少ない傾向にあり、興味を持って講義を受けててくれているものと期待しています。多様な内容の授業であるため、内容が濃すぎて全てを理解できていないと感じる学生さんもいたのかもしれませんが。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義内容をさらにブラッシュアップしていきたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学研究法演習	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

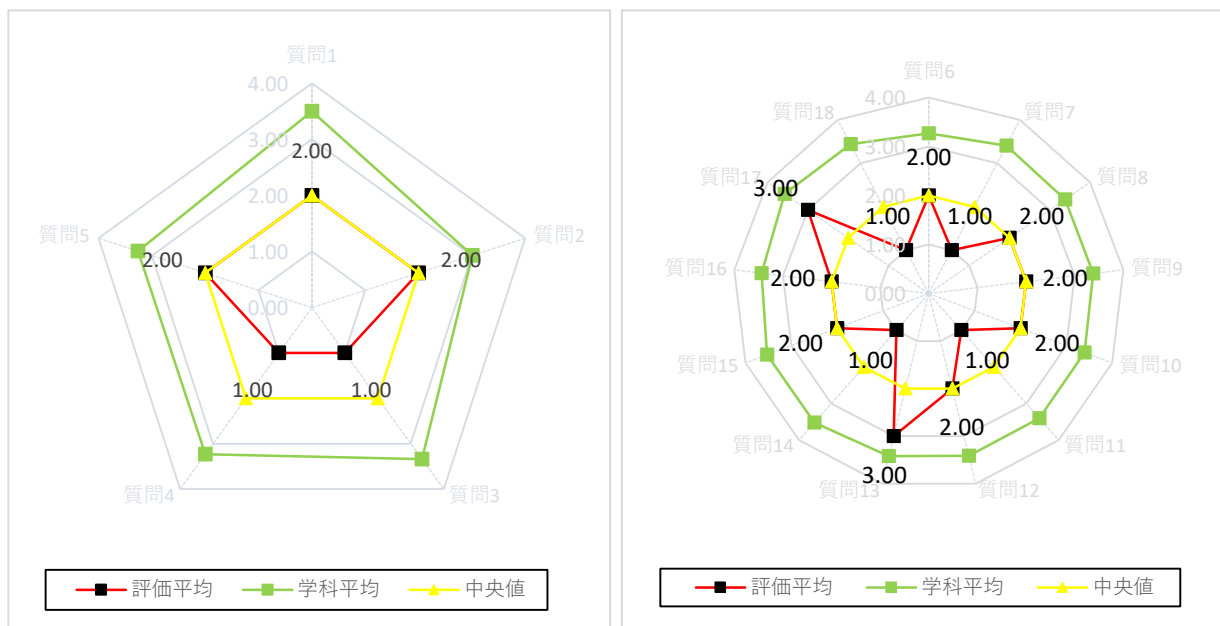
ゼミごとに研究についての方法、データ収集、文献検索などについて週ゼミ単位で学習会を行う。

(3) 次年度に向けての取り組み

例年通り実施する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		ガーデニング	32名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

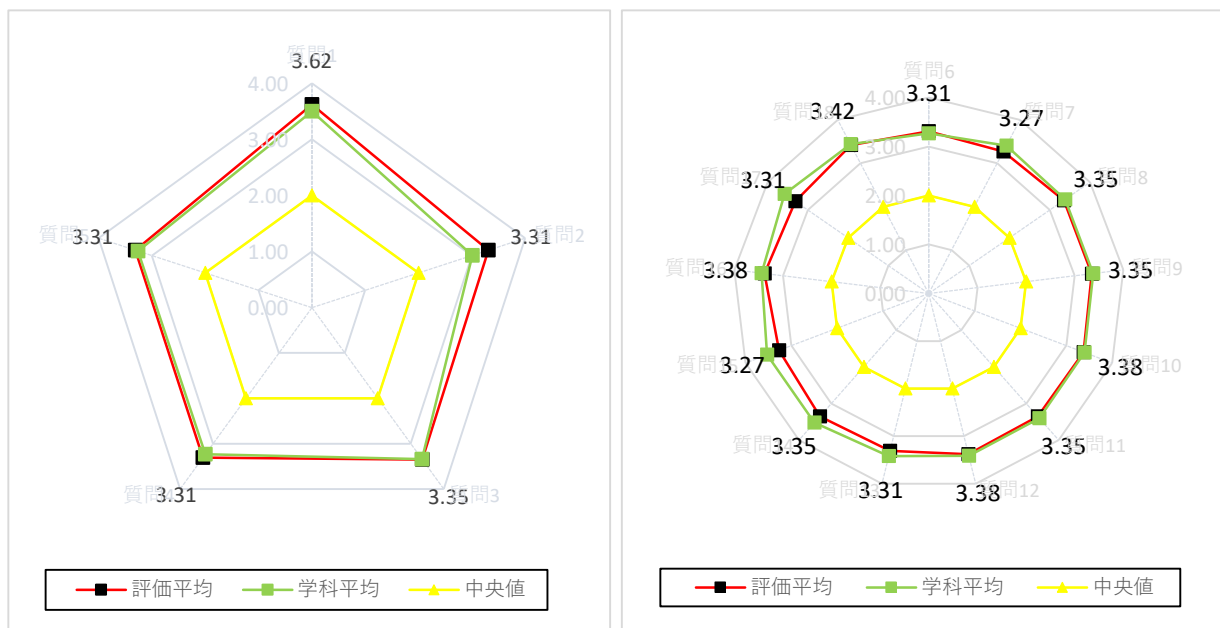
わかりやすさを理解して頂いたが、この一人の学生の全体的な講義への興味を高めることができなかったようです。本学生は発達障害を抱えており、多方面からのケアを行いながら講義をしておりますので、少々ケアのし過ぎ（自分を特別扱いしないでほしい）などの希望があったものと分析します。

(3) 次年度に向けての取り組み

自然を相手にした講義内容となるため、シラバスの書き方等の更なる工夫を行います。評価の促しかたの工夫が必要であるが、こちらは担当教員が「この授業を評価しなさい」と伝えるのは圧力をかけているようにも感じられるため、全学的に全員が評価せざるを得ないシステムを構築して欲しいです。最も心配なことは、担当教員が講義中に講義の時間を使って学生に入れさせることでしょう。その時に教員がどう打ち込んでいるかをチェックしたりした場合は、さらに問題が大きくなると思われます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法評価学 I	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

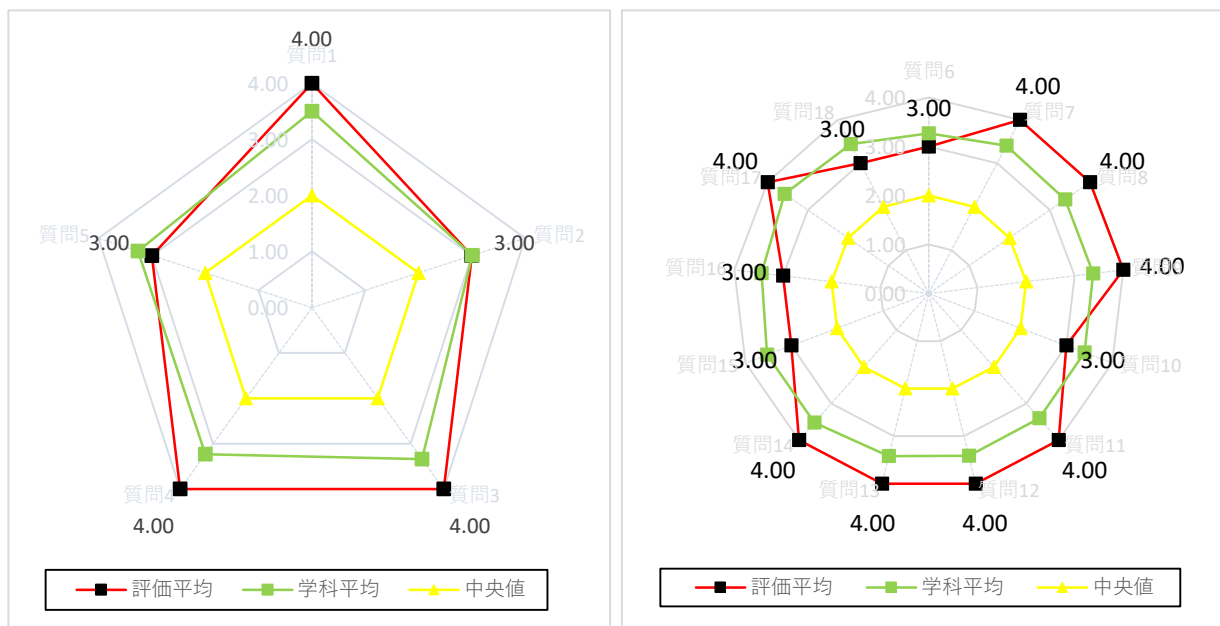
全般的に学科平均であるが質問6-18は若干低い傾向にある。

(3) 次年度に向けての取り組み

担当者と確認したうえでさらに向上できるように講義の構成を進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		動作分析演習	2名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

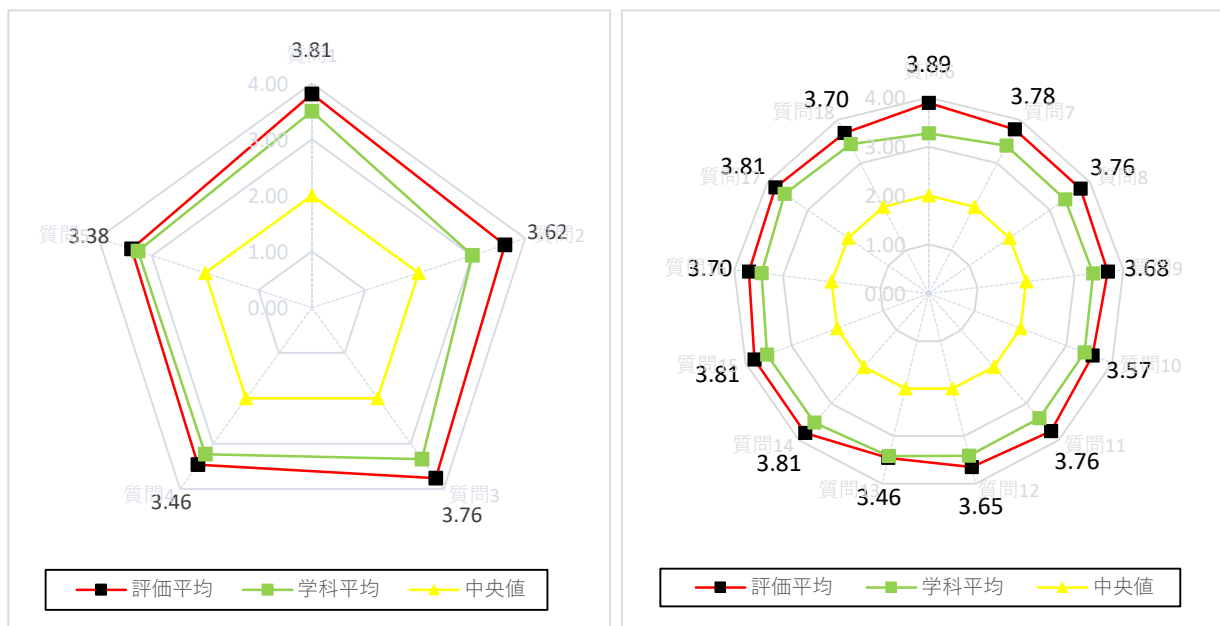
本科目は、旧カリキュラムであり、受講生は再履修生のみであった。
 そのため、レーダーチャートが大きく偏った形になっている。
 学科平均を下回っている質問項目は、質問6、10、15、16、18である。
 受講生が少ないために配慮した質問項目が、逆に低い値となって評価されたと思われる。
 通常通りの講義形式で行うべきであったことが反省点である。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は開講無し。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学 I	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

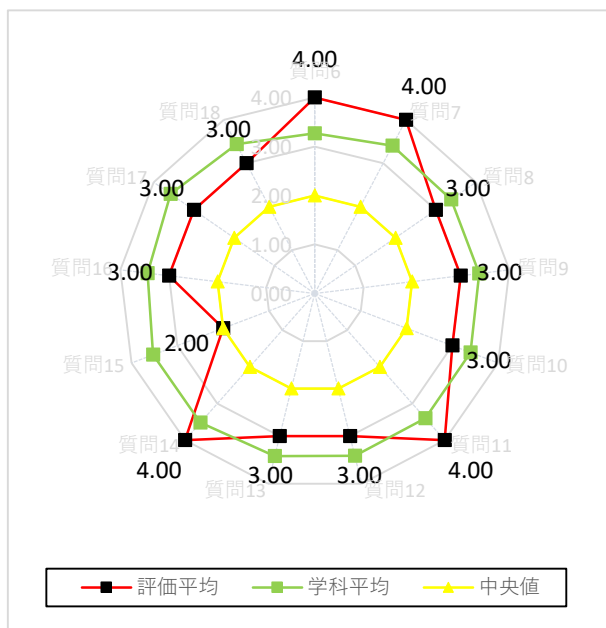
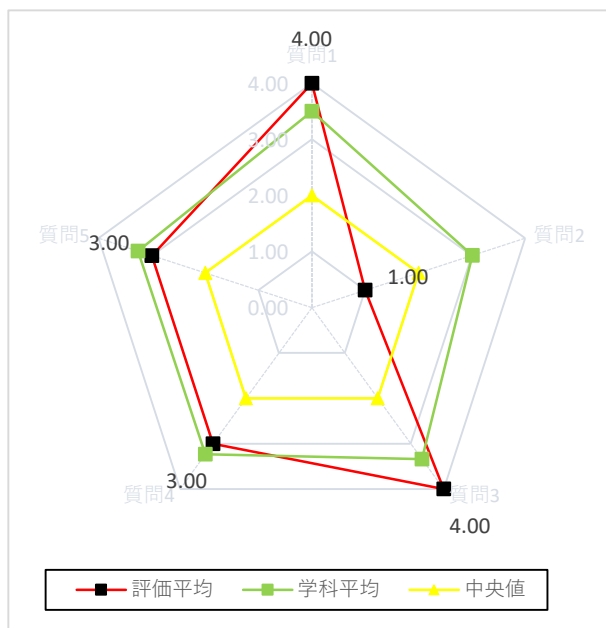
概ね平均以上の評価を得ることが出来た。
 講義で触れるべき内容が多いので、消化不良にならないようシラバスを元に、学生が理解出来ているか確認しながら授業を進めて行った。
 しかし、それでも理解が追いつかない学生については質問や補習を受けやすい環境を整える必要があると感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

本講義の目的と到達すべき目標について明確にシラバスを元に示し、シラバスにそって授業を進めて行く。
 講義内容・実技内容が消化不良になった学生については、個別に対応出来る時間を確保し、学生が質問しやすい環境を整えておく。
 教科書以外にも参考になる資料などを紹介出来るよう準備をしておく。
 国家試験に頻出する分野であるため、国家試験の傾向を分析し対応できるようにしておく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法評価学Ⅱ	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

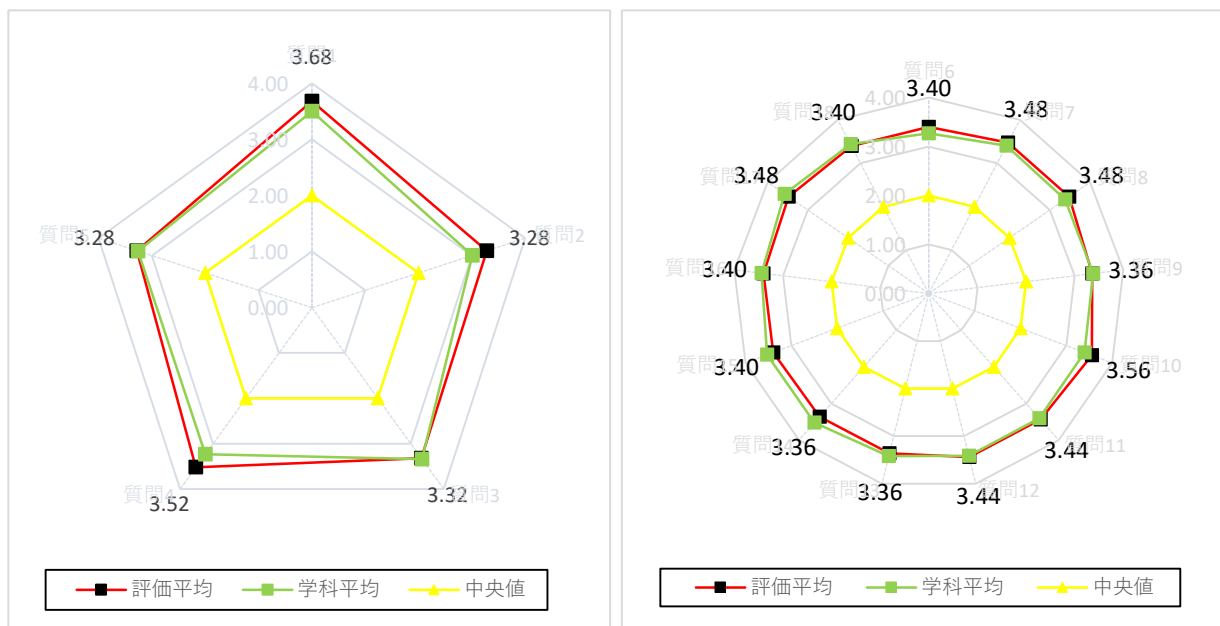
質問の回答が平均されていないのは、回答者が1名だからだと考える。1名だけであるが回答を確認して対応していきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

担当者と結果を協議して対応していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法評価学演習 I	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

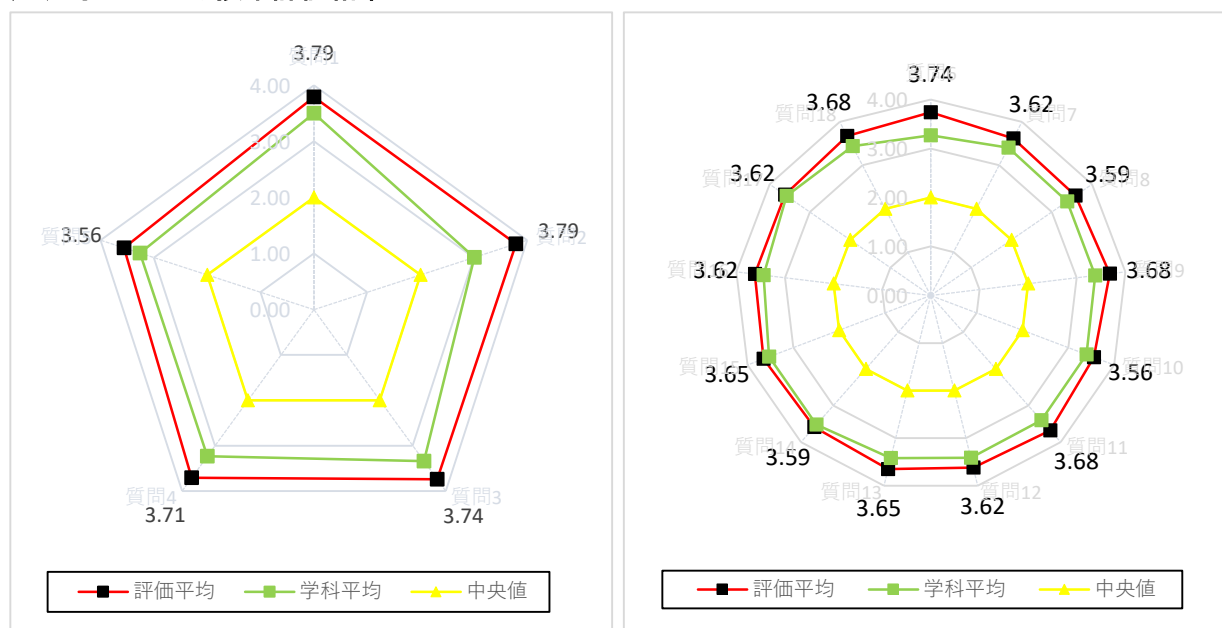
質問1から質問18において学科平均とほぼ同様の結果であった。質問13から質問15については学科平均よりもやや低い評価であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

すべての項目において学科平均並みであったことから、次年度はさらに評価が高くなるようにすべての項目について更なる意識と工夫を行う。特に授業スピードや理解度への配慮を心がけ、学生がより興味関心を持つように取り組む。また、質問しやすい環境になるよう配慮する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学Ⅱ	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

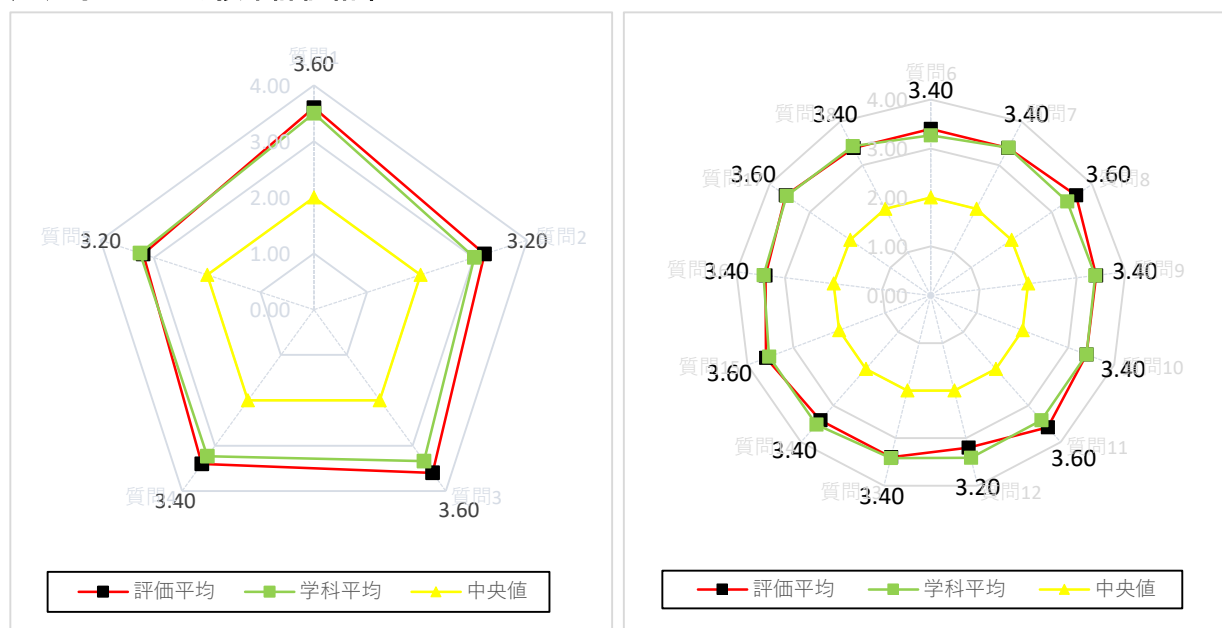
- ・当該科目の学生による授業評価は、 $3.66 \pm 0.64/4$ 点（学科平均 $3.53 \pm 0.70/4$ 点）であった。
- ・学生評価の回答率は87.2%（34/39名）であった。
- ・当該科目の評価が低かった質問項目は、質問5：学生自身の総合自己評価（ $3.56 \pm 0.70/4$ 点、学科平均 $3.34 \pm 0.69/4$ 点）および、質問10：視聴覚機器や板書の用い方（ $3.56 \pm 0.70/4$ 点、学科平均 $3.53 \pm 0.71/4$ 点）であった。
- ・当該科目の評価が高かった質問項目は、質問1：授業は欠席したか（ 3.76 ± 0.59 点、学科平均 $3.70 \pm 0.69/4$ 点）および、質問2シラバスの活用（ $3.79 \pm 0.59/4$ 点、学科平均 $3.30 \pm 0.85/4$ 点）であった。
- ・学生からの授業改善のためのアンケートには、「実技の勉強ははかどります」「実技をやることで頭に入ってくる」と実技を交えた講義の評価が良かった。また、「プリントが分かりやすい」や「提出物へのコメントが良かった」などの感想が得られた。一方で、「実技はグループを変えてみたい」や「席を移動してみたい」など実技練習の相手を変えてみたいとの意見がでた。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・配布資料や実技を交えた講義への評価が高かった。一方で、実技練習の相手を変えたいとの意見もあり席の移動等への配慮が不十分であった。
- ・評価が低かった、視聴覚機器や番所の用い方（ $3.56 \pm 0.70/4$ 点、学科平均 $3.53 \pm 0.71/4$ 点）は、動画を使用するなどの工夫が必要である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学実習	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

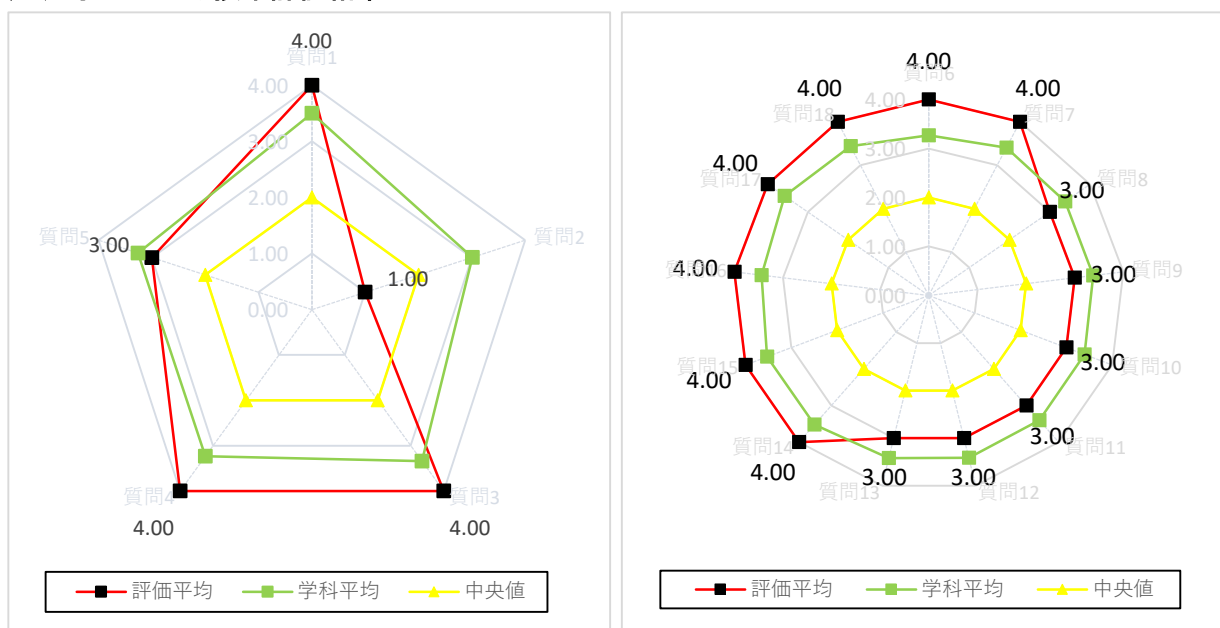
- ・当該科目への学生評価は（質問項目以外での回答を除いた結果） $3.43 \pm 0.86/4$ 点（学科平均 $3.54 \pm 0.74/4$ 点）であった。
- ・授業評価の回答率は13.2%（5/38名）と低かった。
- ・評価が低かった質問項目は、質問項目2 シラバスの活用（ $3.20 \pm 1.30/4$ 点、学科平均 $3.27 \pm 0.98/4$ 点）、質問12 声の大きさ・明瞭さ・話す速さ（ $3.20 \pm 1.30/4$ 点、学科平均 $3.50 \pm 0.84/4$ 点）であった。
- ・学生による授業改善のためのアンケート（無記名自由記載）には、「先生が2人いるから質問しやすい」「実技を確認しながら進むのが良い」などの評価が得られた。一方で、3コマ連続の講義は「時間が長いので集中力が続かない」や「教科書と違うところがあるので合わせてほしい」の意見があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・回答率が低いことから、当該科目への正確な評価が得られなかった。
- ・マイクを使用して3コマ時間をかけて講義を進めたものの、声の大きさや明瞭さ、話す速さへの評価が低かった。マイクの音量が低かったのか、教室が長いからなのかは不明のままである。
- ・講義時間内であっても休憩をいれるなどの配慮をする。
- ・翻訳された教科書どおりでは本邦では使用できないことから、実際は教科書と異なる方法で評価することの説明が不十分であった。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法評価学演習Ⅱ	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

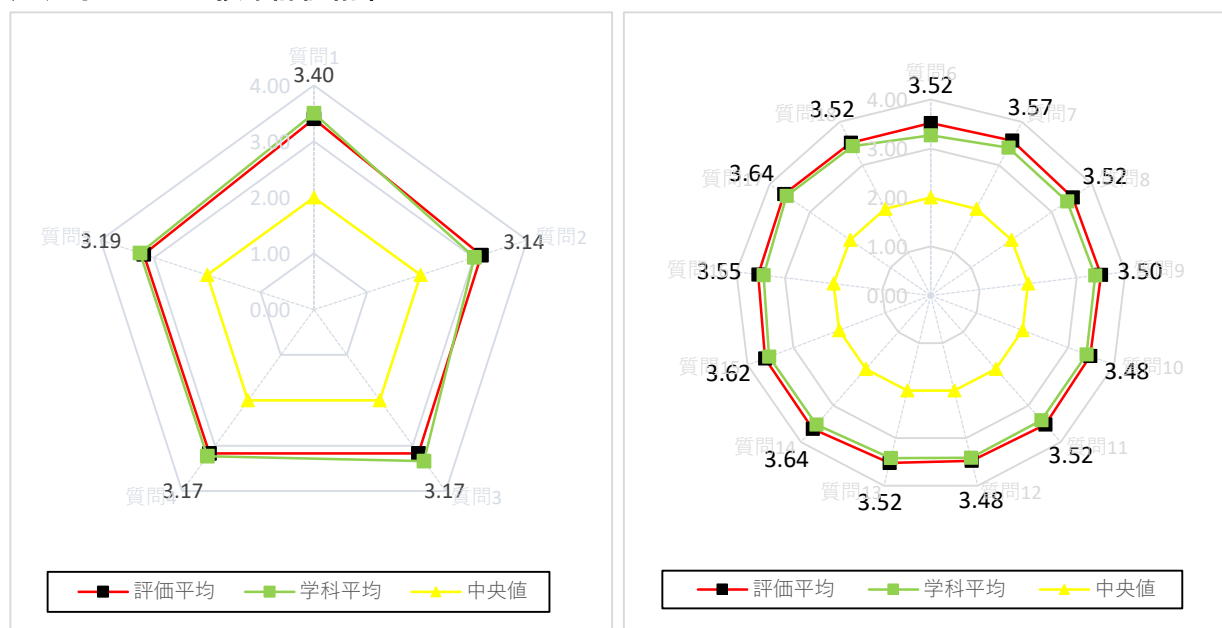
シラバスの活用が非常に低いという結果であった。また、質問8から質問13においても学科平均を下回る点数であった。一方、質問14から質問18は学科平均よりやや高めの点数であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの活用が非常に低かったため、次年度は積極的にシラバスを使用するように心がける。また、学生ができるだけ興味を持ち、授業内容の理解が深まるよう視聴覚教材をより効果的に使用するよう努める。また、教科書や配布資料を参考としながら、実際の臨床をイメージできる工夫をしていきたいと考える。一方、質問14から質問18については今後も高い点数となるよう授業の準備から実施まで取り組む。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		身体障害作業療法 I	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

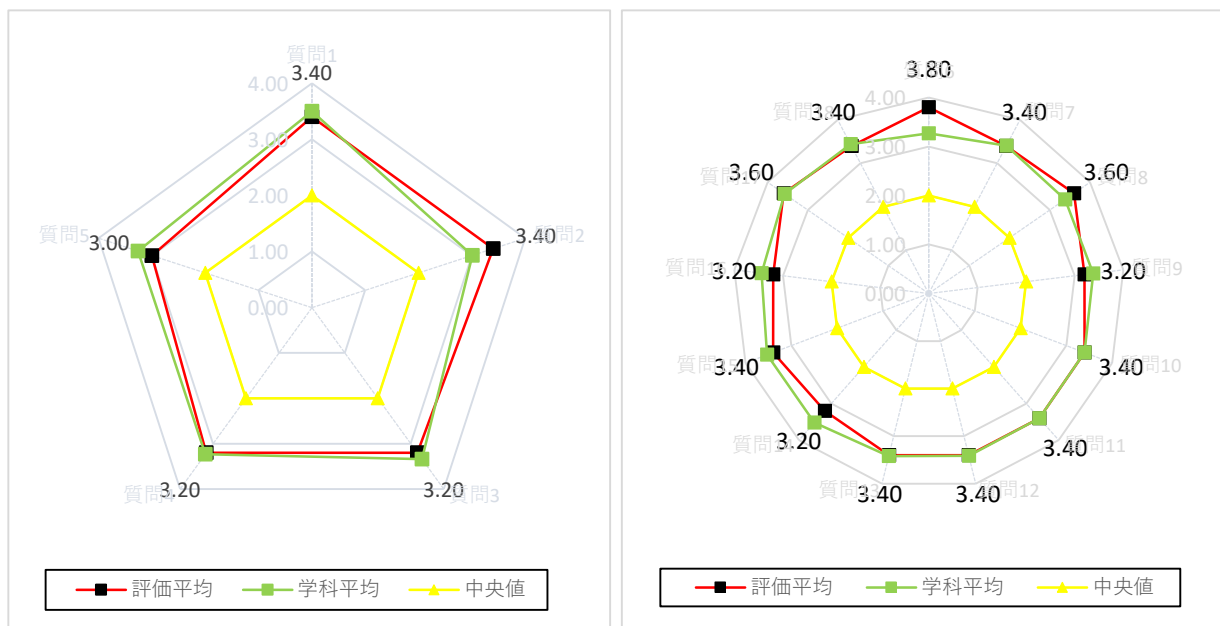
学生によるシラバスの活用と（質問1）、授業を理解するための取り組みについて（質問4）が学科平均よりもやや低いという結果であった。その他、質問6から質問18については学科平均とほぼ同等という結果であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生がシラバスをより活用するよう、また学生自身が自ら授業を理解するための取り組みに積極的になるように、授業内容や課題内容を工夫する。なお、質問6から質問18については、さらに評価が高くなるようにすべての項目について更なる意識と工夫を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		物理療法学実習	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

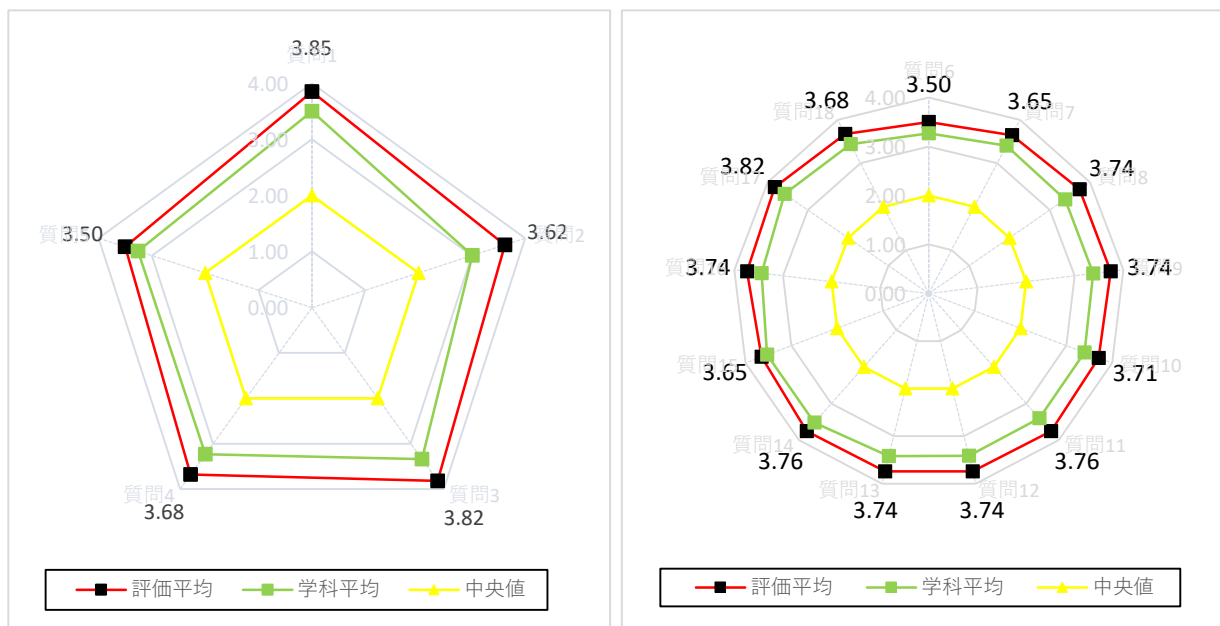
グループワーク及び物理療法の体験、発表会形式によるディスカッションを実施した。学生が講義に取り組む姿勢の違いにより、実技や体験に対して積極的であったり消極的であったりと程度が異なる場面があった。声掛けをしながら、体験させるように、物理療法機器を操作させるように誘導した。

(3) 次年度に向けての取り組み

担当者が定年退職により、次年度の担当者は交代となる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動療法学	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

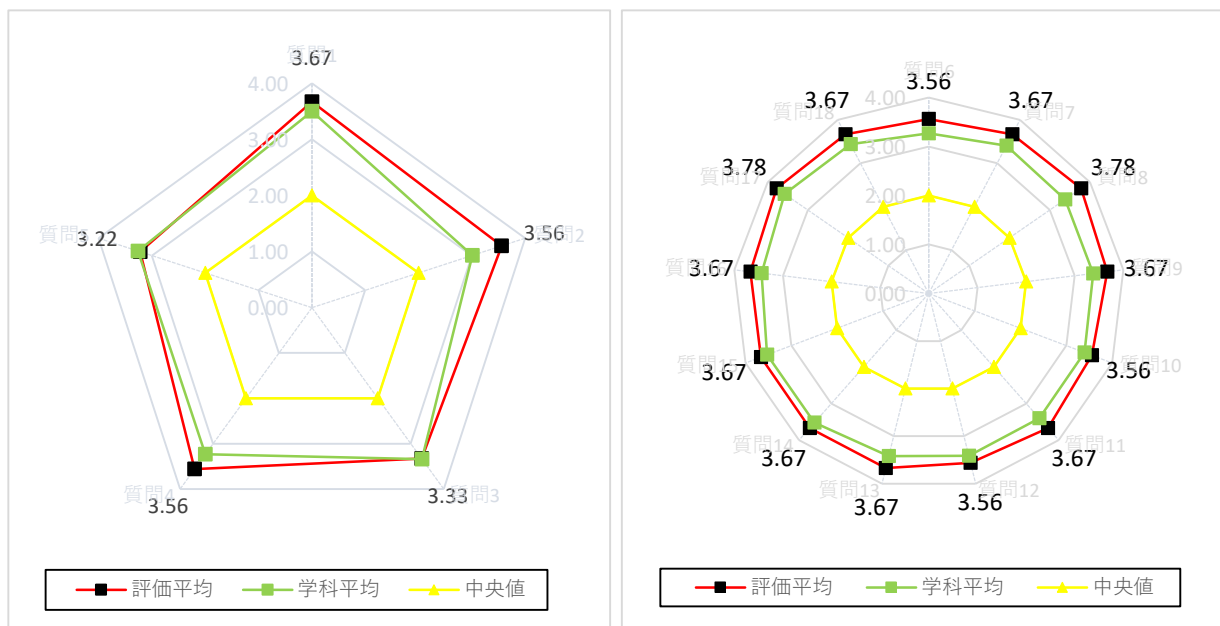
1. 回答率87% (34名/38名) は評価できる。
2. 「シラバスの確認」「授業の到達目標」について「不満」と答えた学生が1名認められる。
3. 一方、「シラバスを活用していない」学生も1名認められる。
4. 各質問に「やや不満」と答えた学生が2名認められる。
5. 総合評価で「やや不満」と答えた学生が3名認められる。

(3) 次年度に向けての取り組み

1. 学生に協力を呼びかけ回答率を維持する。
2. 指定教科書その他、講義用資料を別途作成して事前に渡し、予習を呼びかけているが「配付資料が役立っていない」との回答に疑問を感じる。
3. 毎回の小テストの実施を継続して総合満足度の向上に努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動療法学実習	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

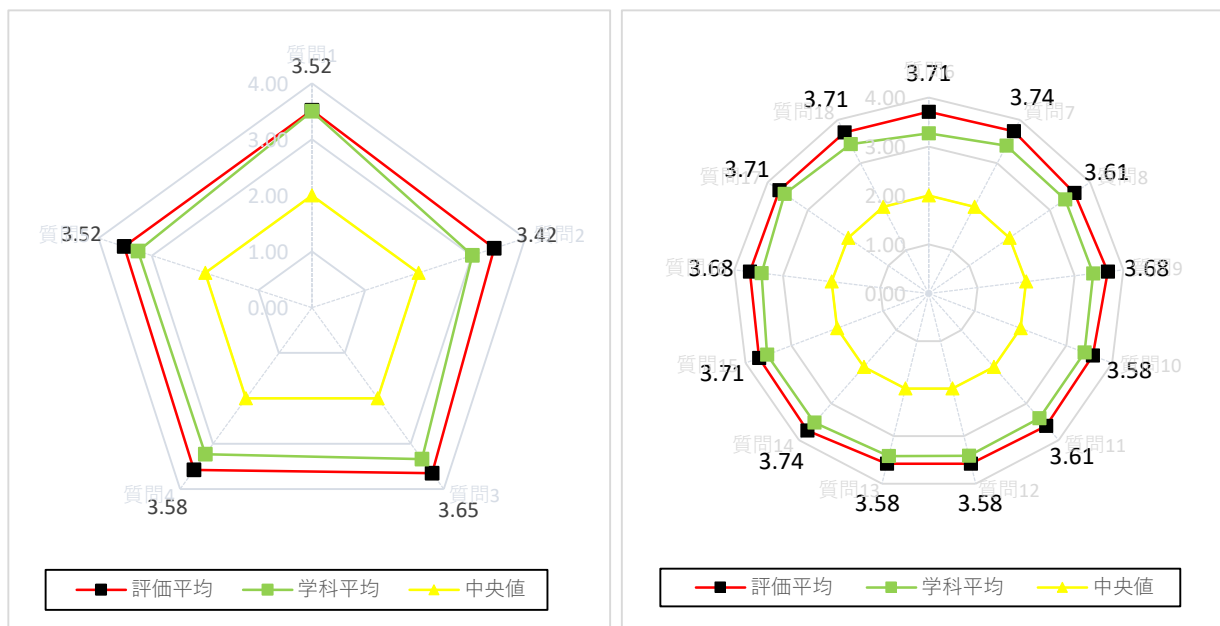
1. 回答率が23% (9名/39名) と極めて悪い。
2. 質問1：講義を高率に欠席した学生が1名存在するが、出欠管理、レポートチェックからそのような学生の存在は確認できない。
3. 質問2から質問25までの回答があるが、質問19から質問25は存在しない。

(3) 次年度に向けての取り組み

とともに、授業評価アンケートの実効性を確認したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

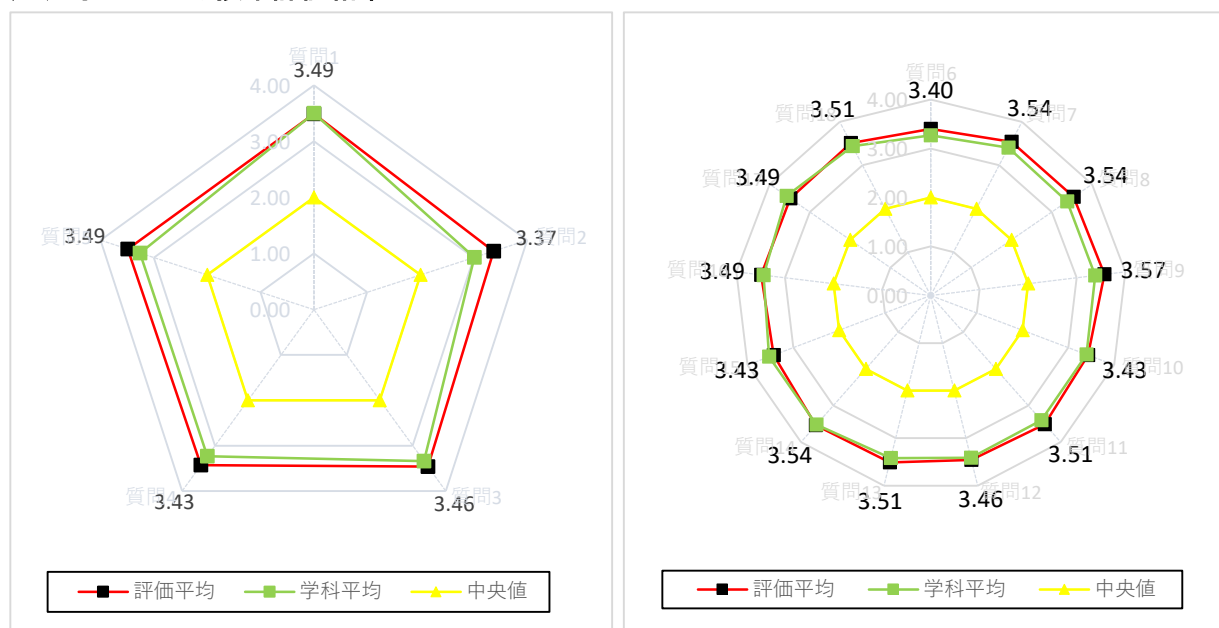
学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。
概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
また、実習の際に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		発達障害作業療法学	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

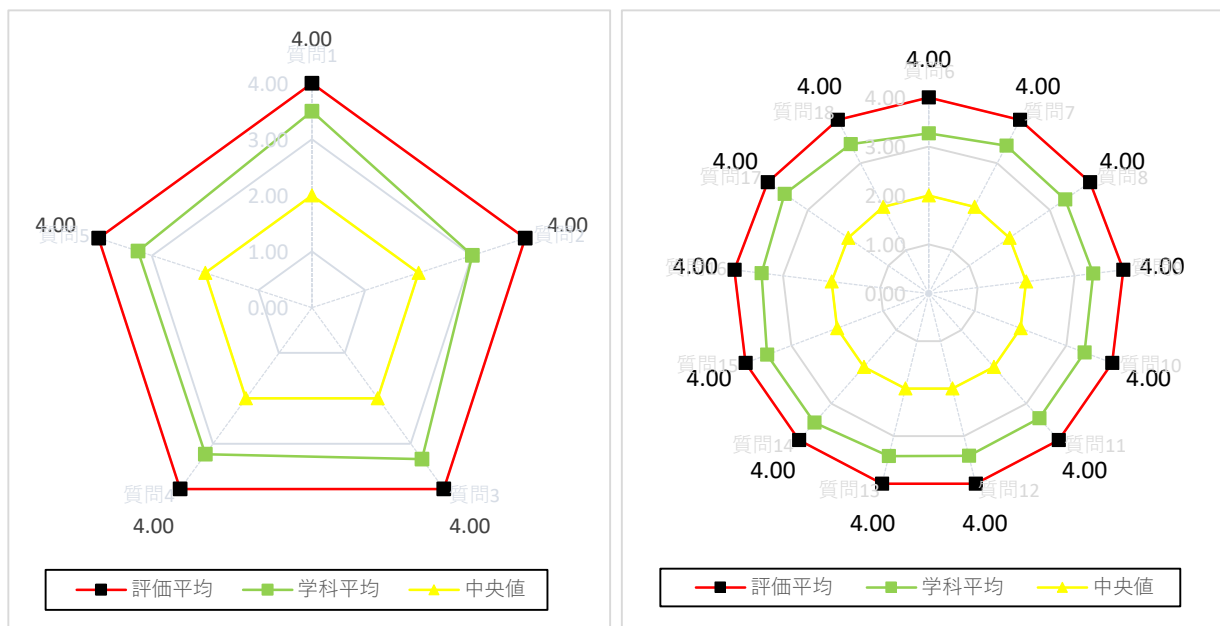
概ね学科平均と大差がない状況である。比較的均等のとれた評価ではある。しかしながら、個人としては授業の進む速さや分かりやすくする工夫、興味関心が持てる工夫についてはもう少しできた所があるのではないかと考える。学生への対応については最優先し、要望をできるだけ取り入れるようにしたが、どこまでこたえられたかは疑問が残るところである。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は「評価」という視点を養い、より実践的な観察の技術を身につけるために、毎回評価演習を取り入れていきたい。さらに、学期末の試験の範囲が広く学生の負担が大きいため、毎回小テストを行いスモールステップでの理解の確認を行ってきたい。毎回、小テストを実施することで講義内容のどこが分かりにくかったか自分の振り返りにも役立てたいと考えている。自分の意見や考えを他者に伝える練習のために、時折グループディスカッションも取り入れていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学実習	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

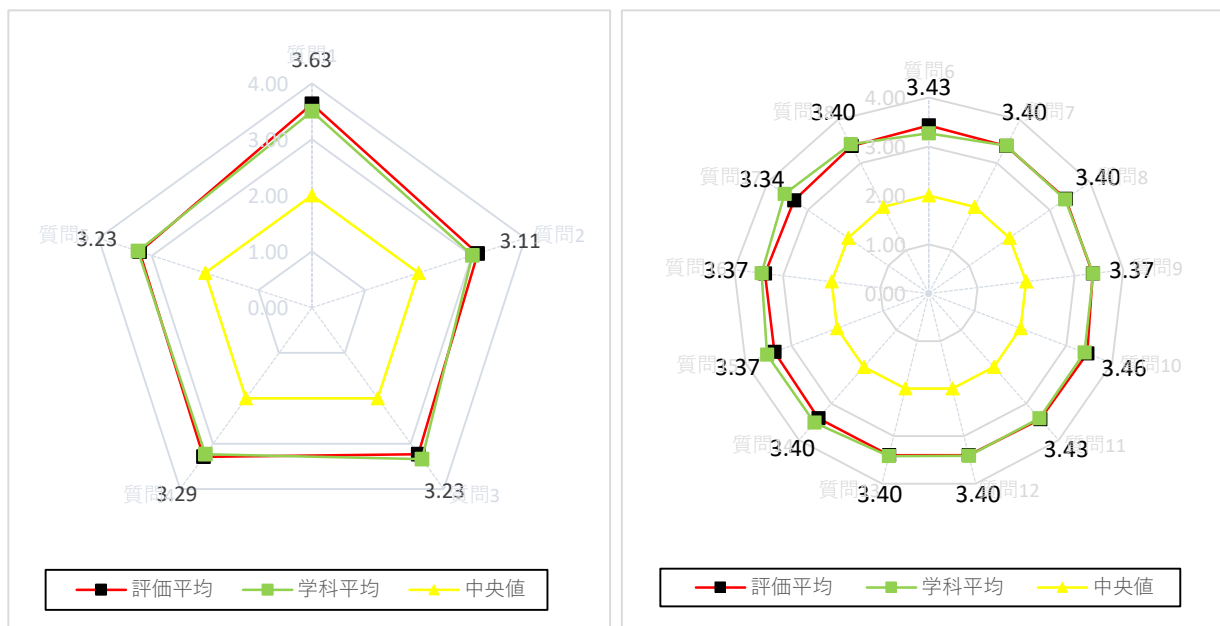
回答者数が少ないため、全体を反映した意見は言いきれない。
 回答者に限って言えば、学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。
 概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生がわかりやすい講義内容になるように努める。
 また、実習の際に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		老年期障害作業療法学	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

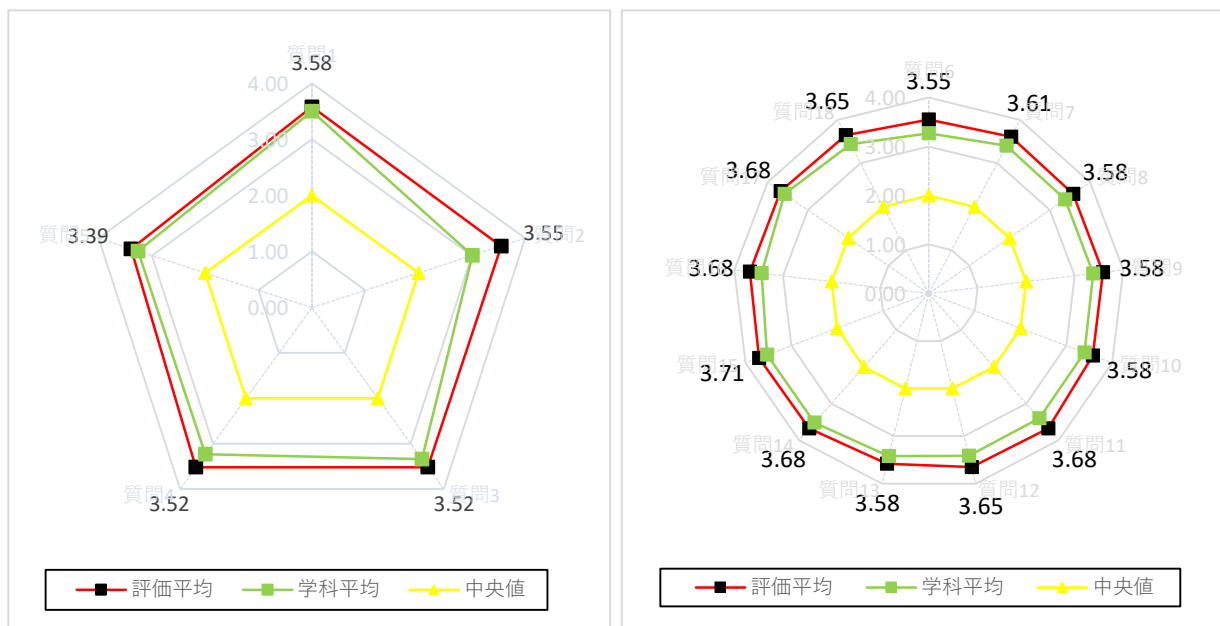
昨年度同様に講義を展開した。39人中35人から回答が得られた。概ね高評価であったが、質問2がやや低かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

質問2について、初回講義の際は授業計画について資料を配布し説明しているが、その説明について理解できていない可能性がある。次年度からはさらに詳しい説明を行う必要があるのかもしれない。次年度は全員に講義アンケートを回答してもらるように依頼したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学演習	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

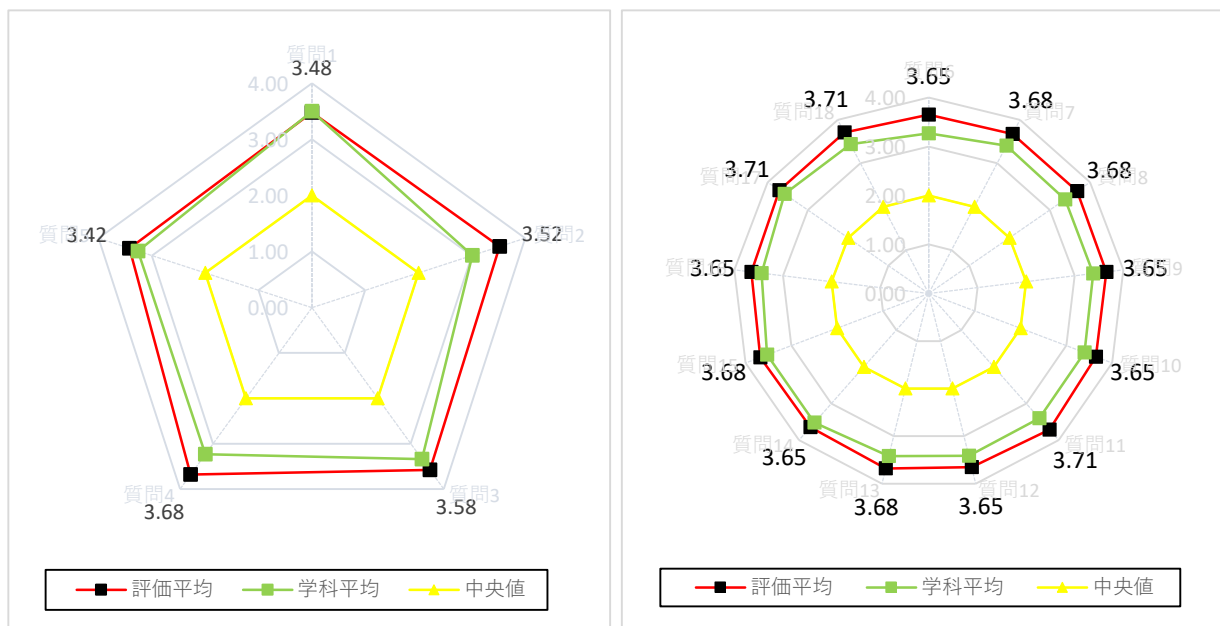
学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。
概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生がわかりやすい講義内容になるように努める。
また、実習で活用できる知識を付与できる講義になるように構成していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内部障害理学療法学	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

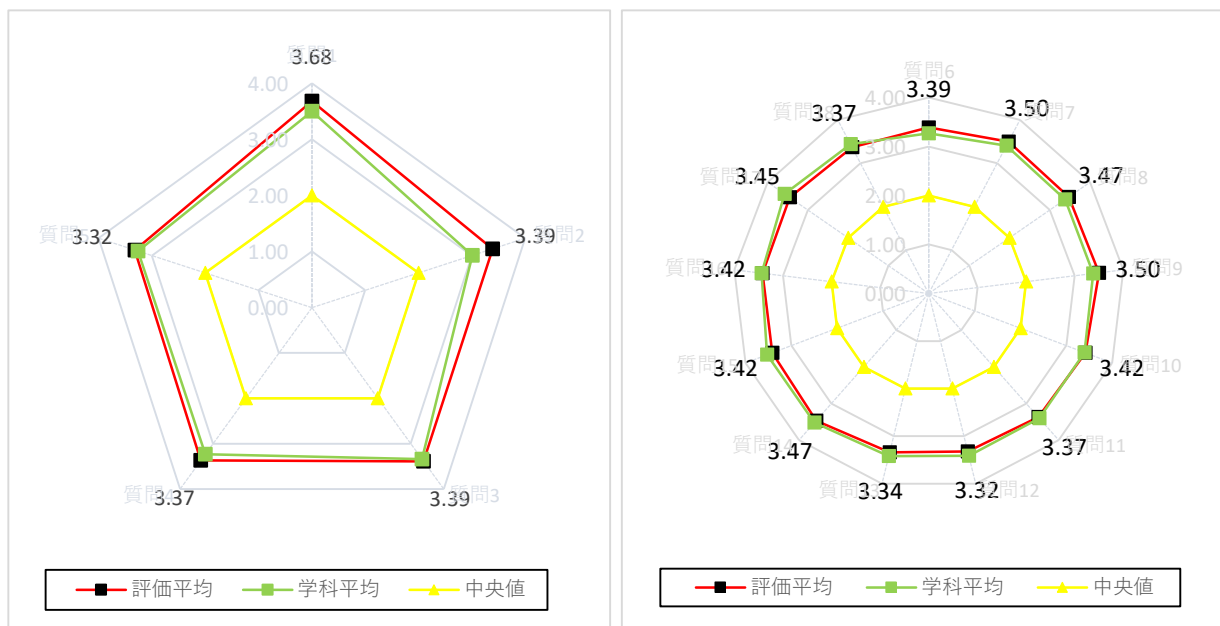
学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。
概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生がわかりやすい講義内容になるように努める。
また、実習の際に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		高次脳機能障害作業療法 学	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

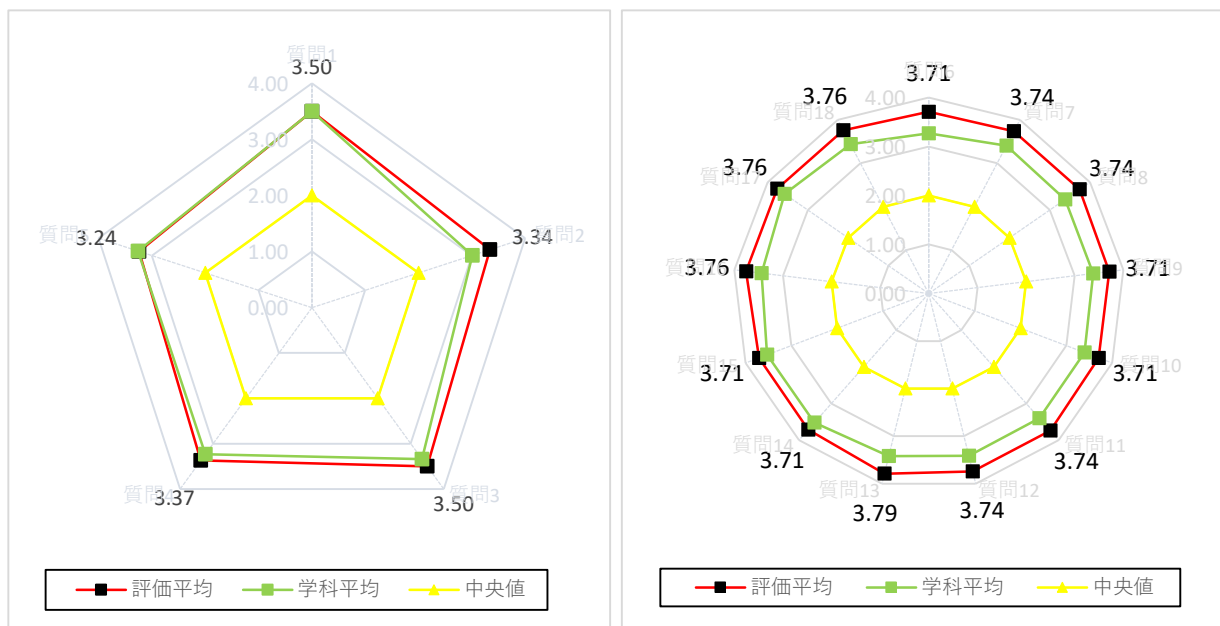
新カリキュラム開始の学年であり、昨年度より半分の時間数でこれまでと同量の学修量を実施しなければならなかった。そのため、非常に早口となる講義があったのは自覚しているところでもある。そのため、学生の理解度や満足度も昨年度より低下している可能性が示唆される。

(3) 次年度に向けての取り組み

再度講義の情報量の見直し、ならびに現在も使用しているが、動画を多く用いることで視覚的に記憶に残りやすくする配慮を行う。
また、配布資料も多いため、教科書とのリンクを明確にし、復習が行いやすい情報を提供する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		発達障害理学療法学	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

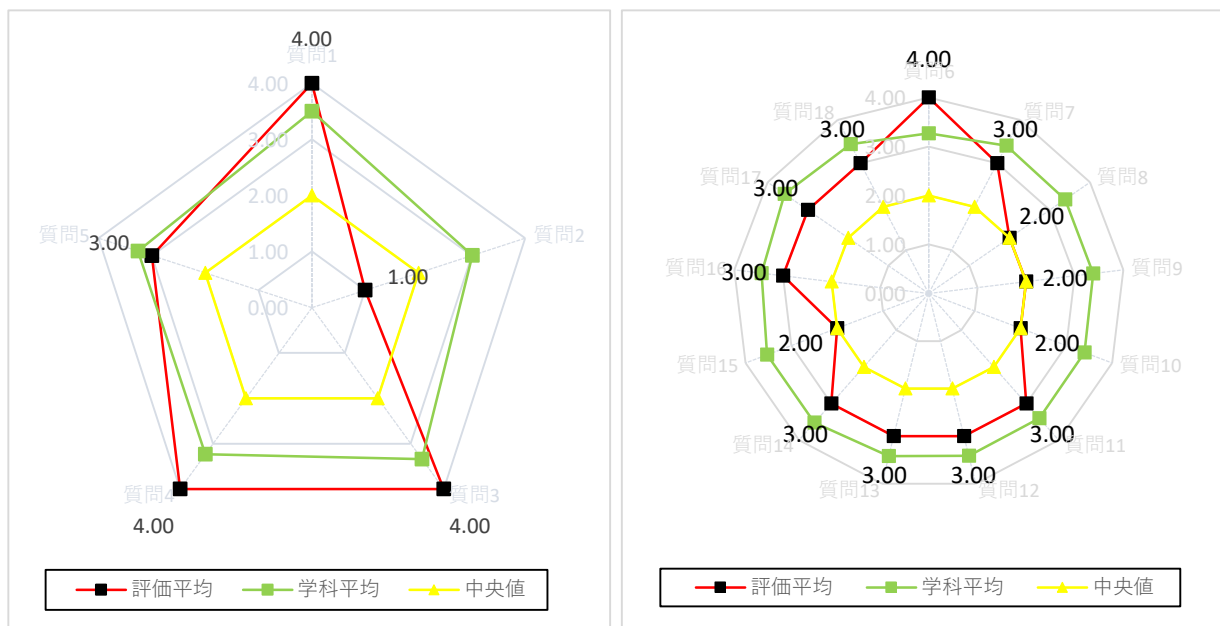
概ね平均以上の評価を得た。
 講義で触れるべき項目が多いため、シラバスを活用しながら授業進行を学生の理解度に合わせ変更した。
 発達障害については本講義で完結するため、簡単な実技や視聴覚機器などを使用し、理解の向上を促した。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業初回のシラバス説明だけでなく、講義が進行する中でシラバスを変更する際はきちんとシラバスを見ながら説明を行う。
 国家試験の出題傾向を分析し、講義の後は国家試験に対応できるような知識が身につくような講義を心がける。
 実技や視聴覚機器を用い、発達障害児・者を見たことがない学生にもイメージできるような講義を心がける。そのための機器や資料を準備する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		日常生活活動学	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

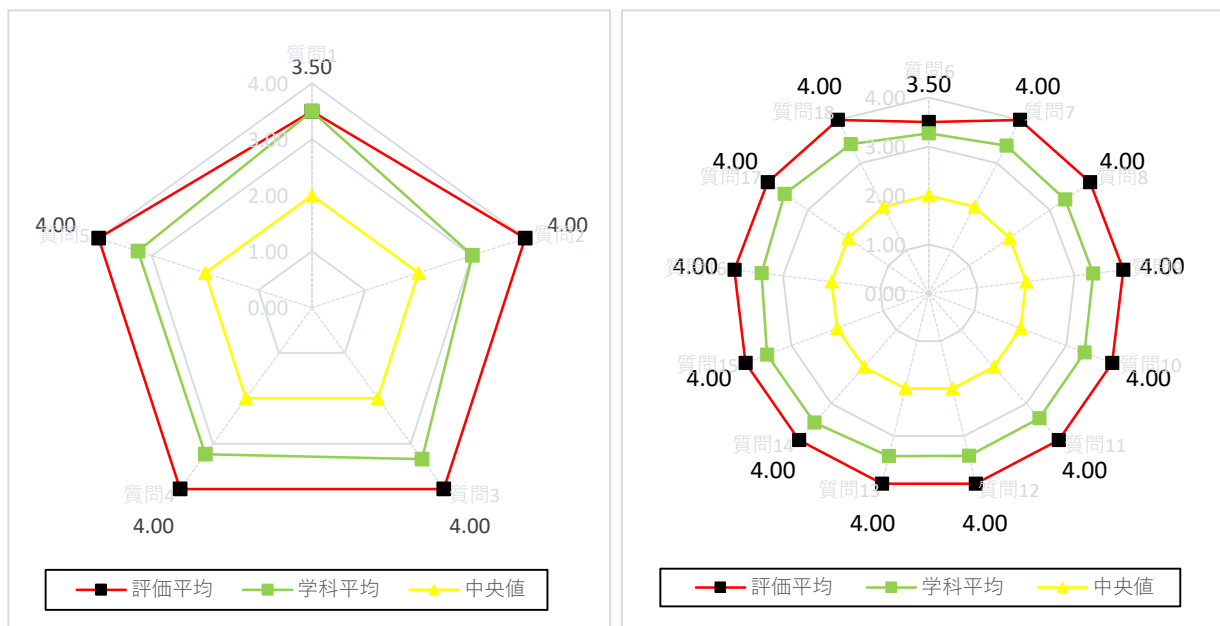
評価学生が1名のため、個人的な意見だったと考える。しかし、特に評価に低い項目は他の学生も低い可能性が高いので対応を考えたい。
また、より多くの学生の回答がほしかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

評価学生が1名のため、個人的な意見だったと考えるが、特に評価の低い項目については、対応を再構築して、さらによりよい講義になるように努めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		老年期障害理学療法学	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

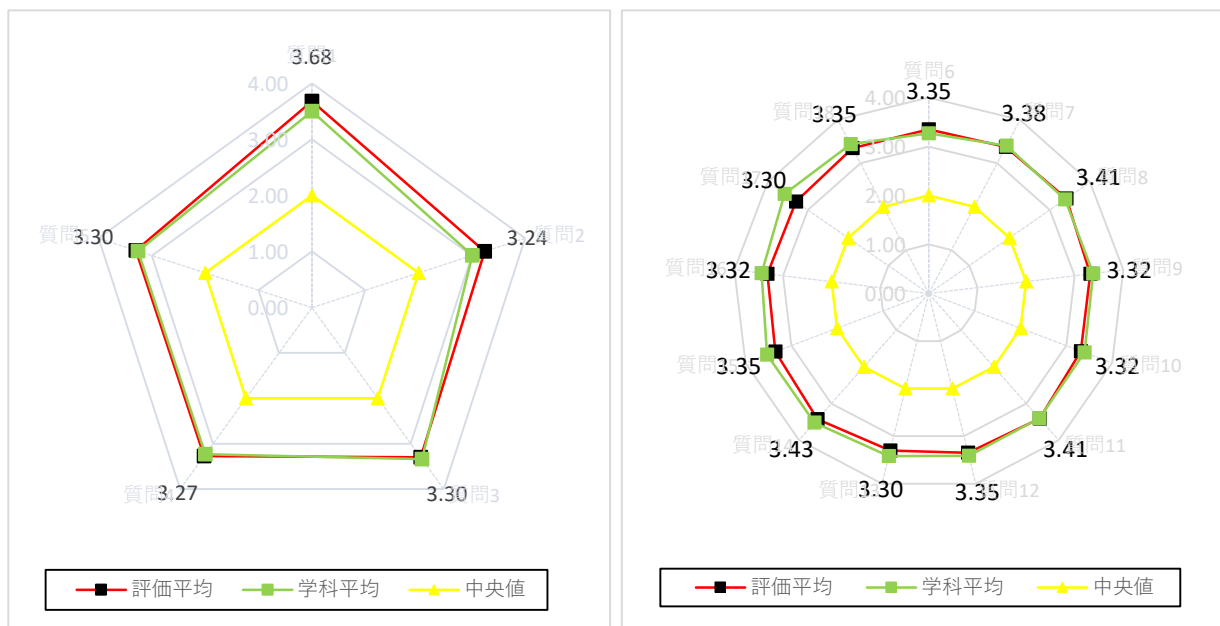
毎年、質問6「シラバスについて説明があったか」が3.0と低い。
授業のはじめにシラバスについて説明はしている。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスについて忘れていている学生に次年度以降対策を講じる。
国家試験対策も行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		日常生活活動学演習	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

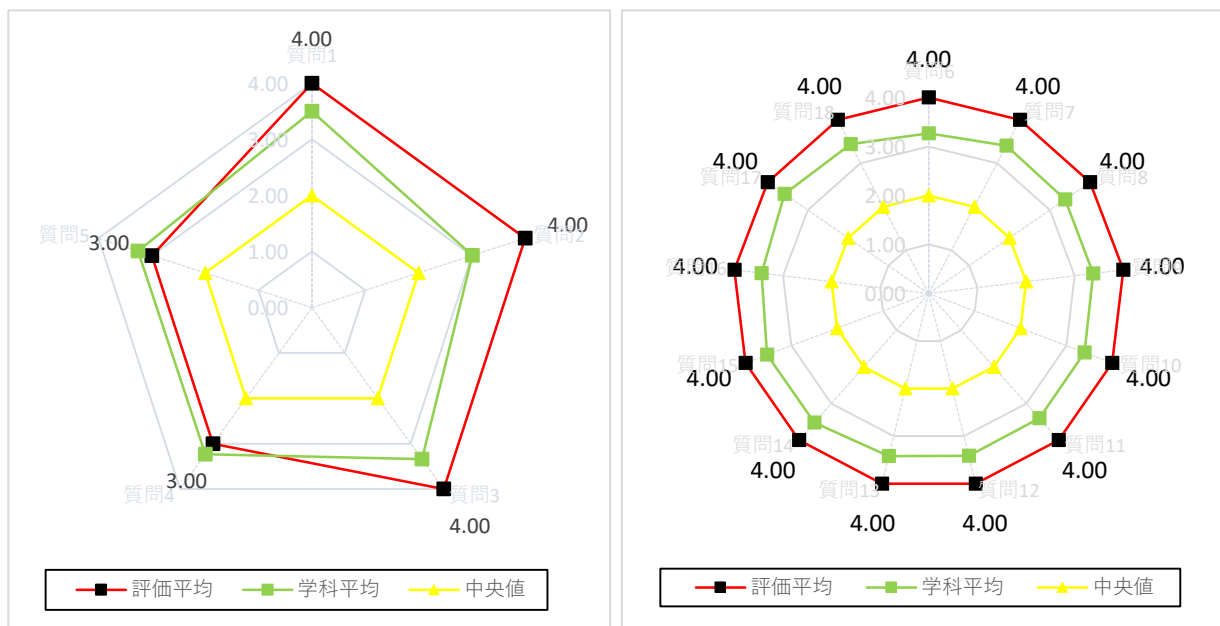
質問1から5については概ね学科平均と変わらない状況である。質問6から12はわずかに学科平均を下回る状況である。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の理解度に配慮しながら、授業のスピードを調整していきたい。また、積極的に質問できるような雰囲気づくりを心掛け、双方向的なやり取りができるように配慮したい。実習や臨床の場イメージしやすいように視聴覚機器を積極的に利用していきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法技術学	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

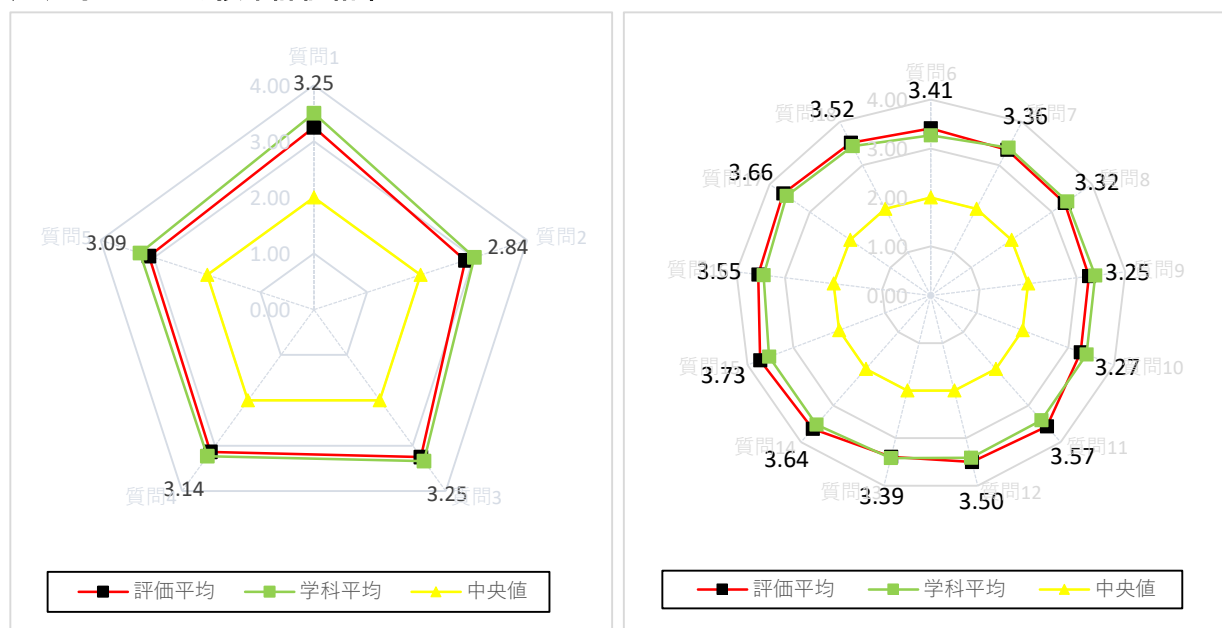
質問6から18の項目において、全て学科平均以上の満点であった。
 教員への気遣いのバイアスが掛っているかもしれないが、それにしても大変良好な結果であったと考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は今年度の国家試験に対応できる講義内容にしたいと考えている。
 また、可能な限りアクティブラーニング形式で進めていきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		義肢装具学	47名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

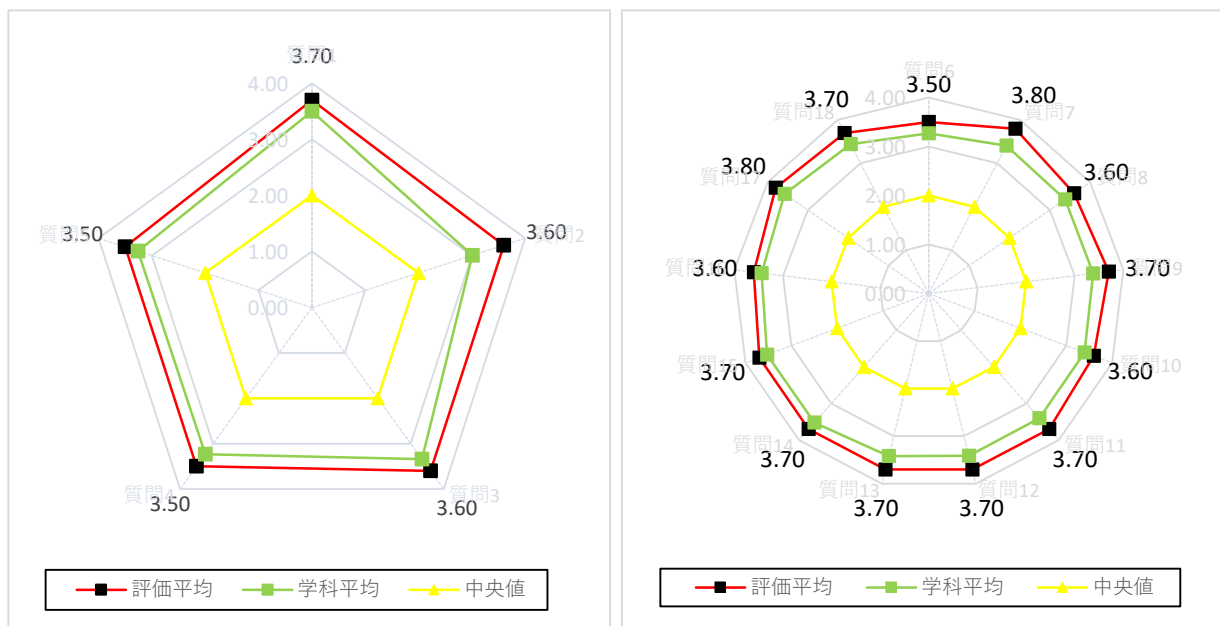
学生によるシラバスの活用と（質問2）、授業を理解するための取り組みについて（質問4）が学科平均よりもやや低く、自身の総合自己評価が学科平均よりも低いという結果であった。その他、質問6から質問18については学科平均とほぼ同等という結果で、質問8から質問10については学科平均よりもやや低いという結果であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生がシラバスをより活用するよう、また学生自身が自ら授業を理解するための取り組みに積極的になるように、授業内容や課題内容を工夫する。なお、質問6から質問18については、さらに評価が高くなるようにすべての項目について更なる意識と工夫を行うと共に、質問8から質問10については視聴覚教材等をより効果的に用いて学生が興味関心を持つように取り組む。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		義肢装具学	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

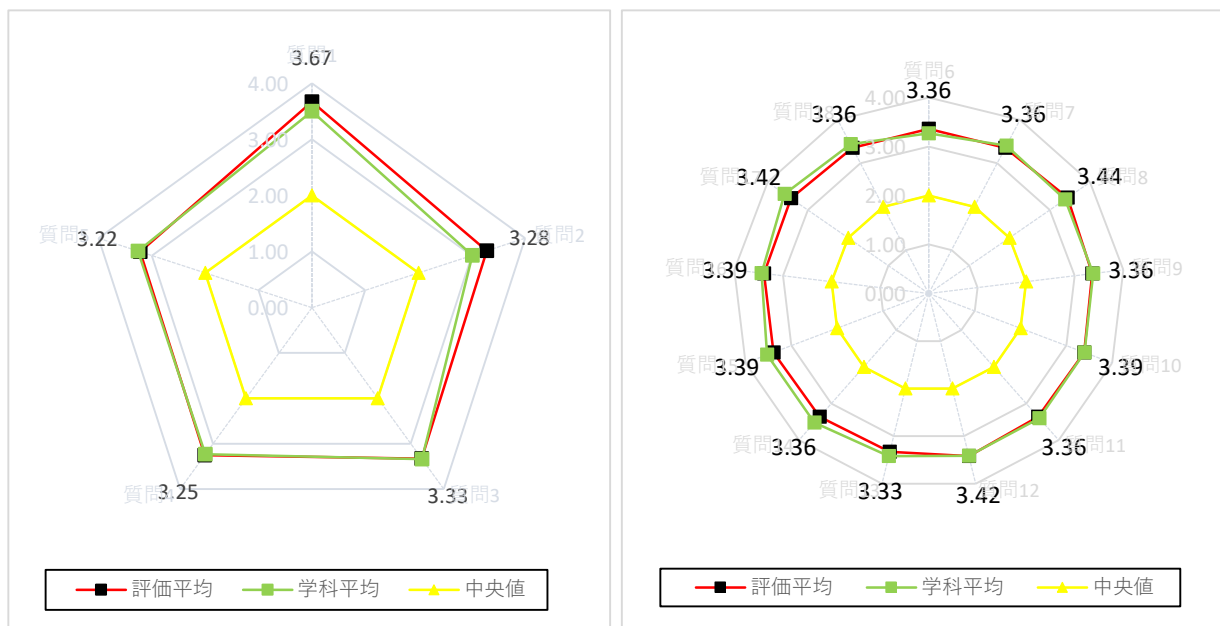
1. 回答率が26% (10名/38名) と極めて悪い。
2. 質問1：講義を高率に欠席した学生が1名存在するが、出欠管理からそのような学生の存在は確認できない。
3. 質問1から質問25までの回答があるが、質問19から質問25は存在しない。

(3) 次年度に向けての取り組み

1. 学生に授業評価の意義を説いて真摯な態度での協力を求める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		地域作業療法学	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

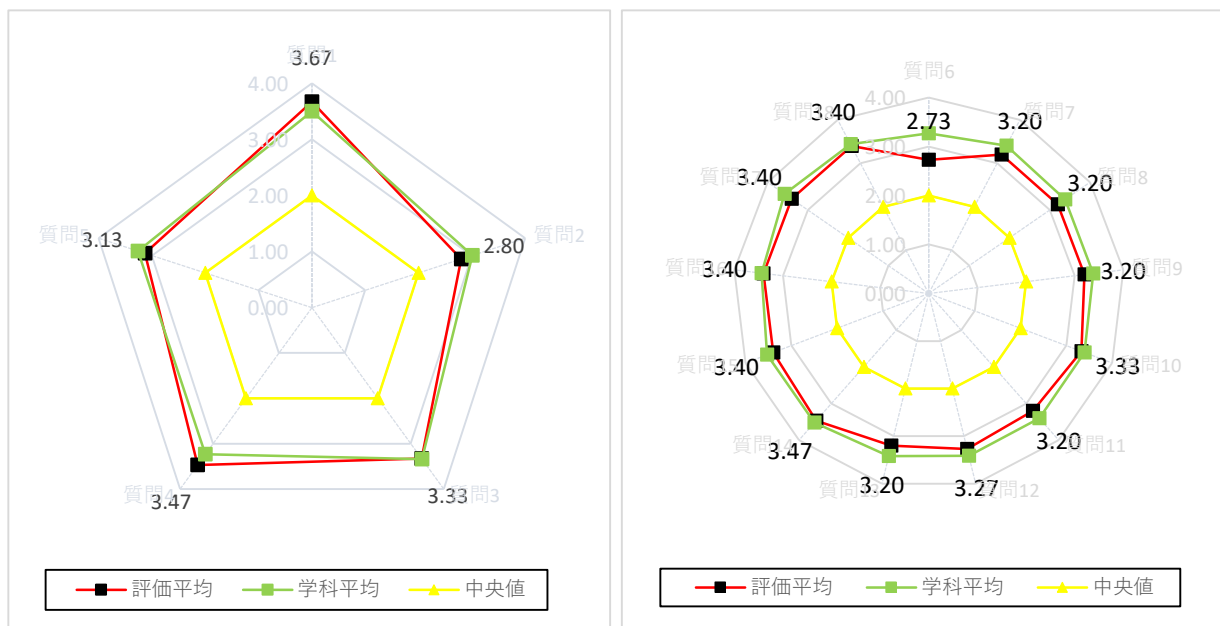
40名中36名から回答があった。概ね高評価であったが、学科平均より低い値であった。また、質問2の結果が最も低かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

本講義は、複数教員が担当するため、講義予定について学生が混乱しやすい。今後は、シラバスを毎回活用して、授業計画に関する理解につなげるようにする必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		総合実習 I	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

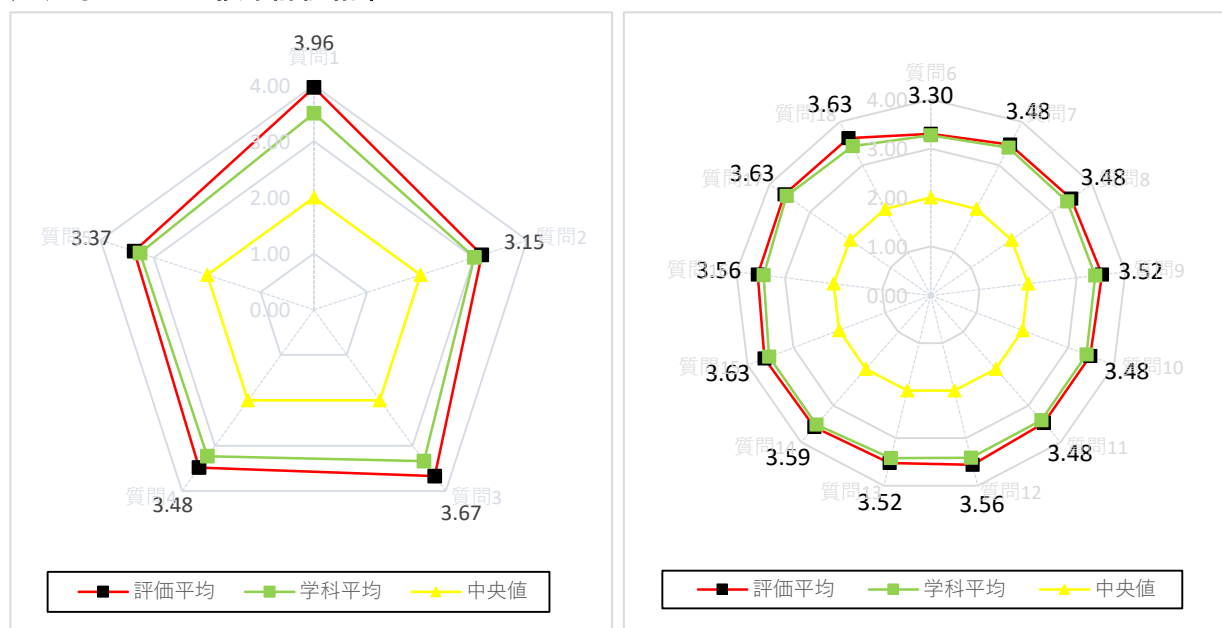
23人中15人から回答が得られた。この講義は、学外の施設で実習を行っており、主たる実習指導者が異なる。
また、実習内容と質問内容が合致しておらず、授業評価は適さない。

(3) 次年度に向けての取り組み

評価から除外すべき。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		総合実習 I	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本講義は、学内で学外実習に向けた事前準備後に、学外での臨床実習を行い、その後大学へ戻ってきて報告会を行うことで構成される。

学生自身が講義（実習）に臨む態度の評価も、講義（実習）に関する評価も高かった。

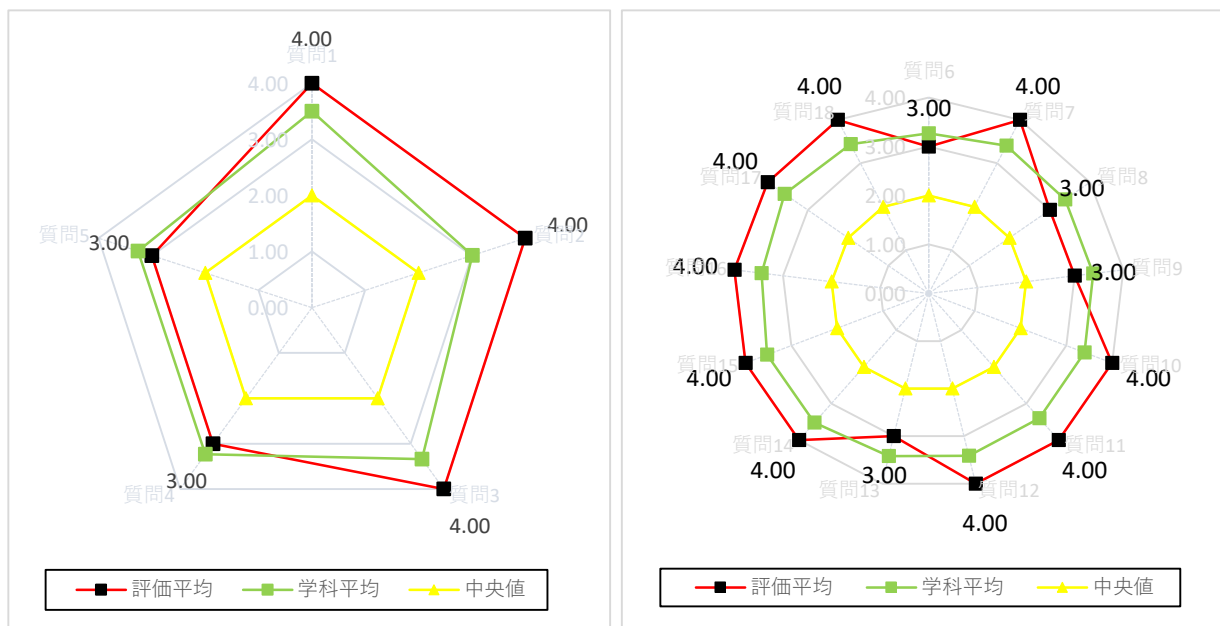
概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生が準備を整えられるように支援していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習 I	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

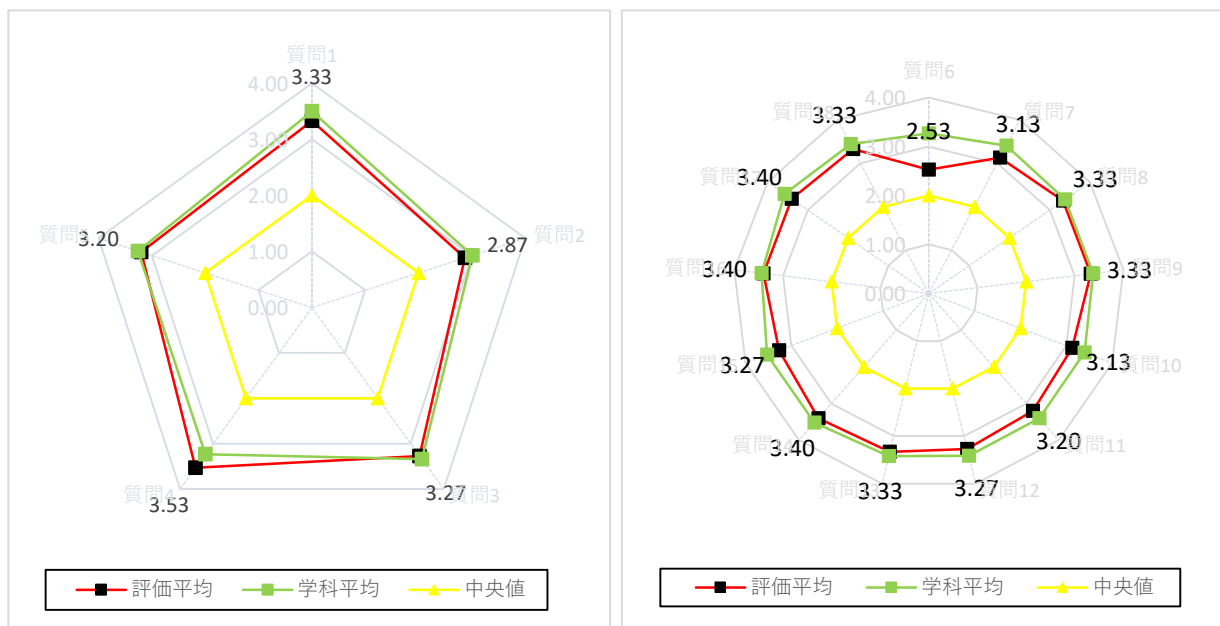
本科目は学外実習であるため、質問内容が合わない項目ばかりである。
学外実習後の別アンケートでは、良好な感想が大多数の学生から寄せられていたため、大変有意義な学外実習であったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度の臨床実習Ⅱにおいても、今年度同様に実習前オリエンテーション及び実習前後のセミナーを充実させて、学生のモチベーションを上げたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		総合実習Ⅱ	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

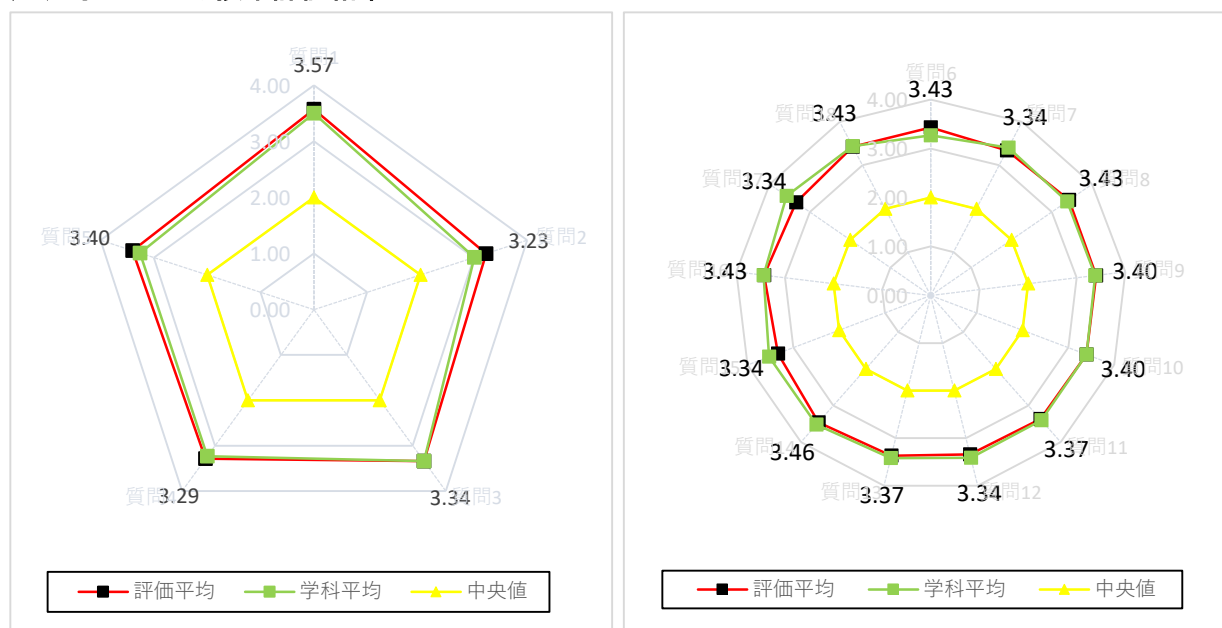
23人中15人から回答が得られた。この講義は、学外の施設で実習を行っており、主たる実習指導者が異なる。
また、実習内容と質問内容が合致しておらず、授業評価は適さない。

(3) 次年度に向けての取り組み

評価から除外すべき

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		地域作業療法学演習 I	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

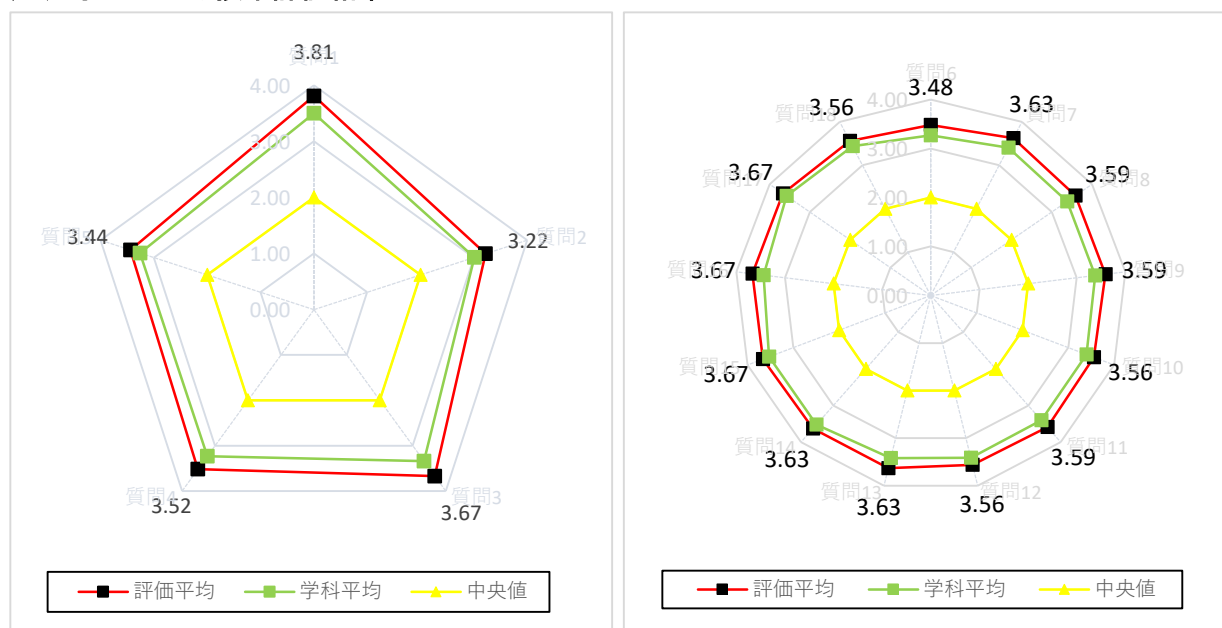
39名中35名から回答があった。概ね高評価であったが、質問2の結果が最も低かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

本講義は、学外での実習を中心とした講義を行っている。初回にシラバスを配布し、詳細説明をしている。しかし、質問2の回答が低い傾向にあるということは、多くの学生がシラバスを確認する習慣が無いのかもしれない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		総合実習Ⅱ	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本講義は、学内で学外実習に向けた事前準備後に、学外での臨床実習を行い、その後大学へ戻ってきて報告会を行うことで構成される。

学生自身が講義（実習）に臨む態度の評価も、講義（実習）に関する評価も高かった。

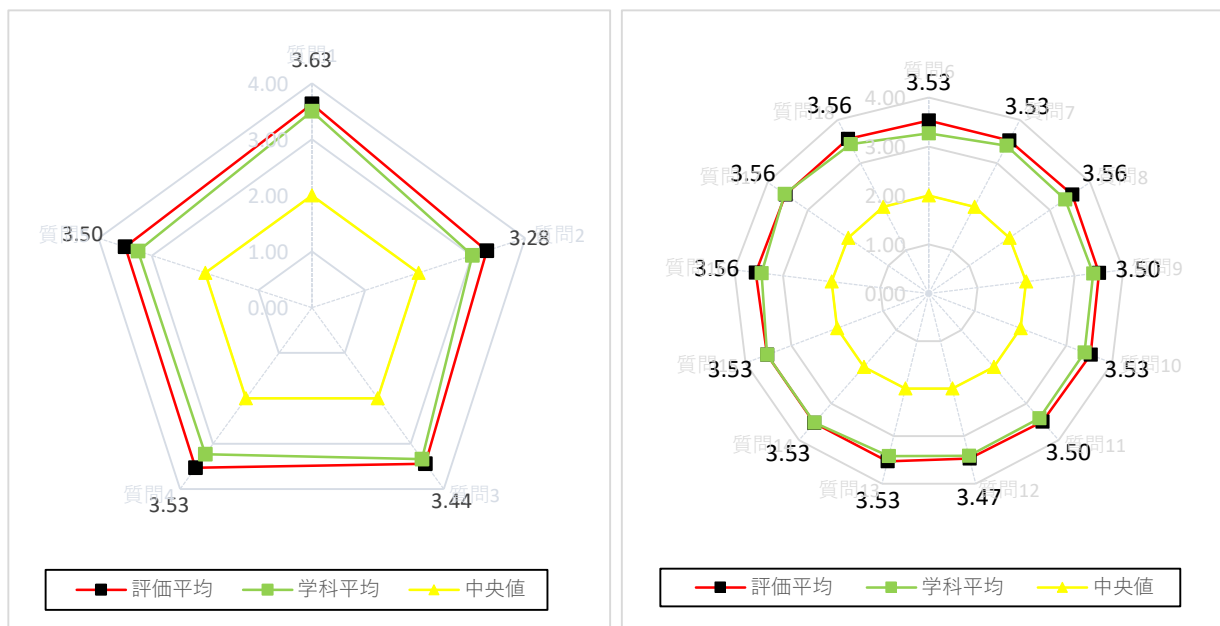
総合実習Ⅰと同様に、意欲的に取り組んでいたことがうかがえる。

(3) 次年度に向けての取り組み

教員全員で学生が準備を整えられるように支援していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		地域理学療法学Ⅰ	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

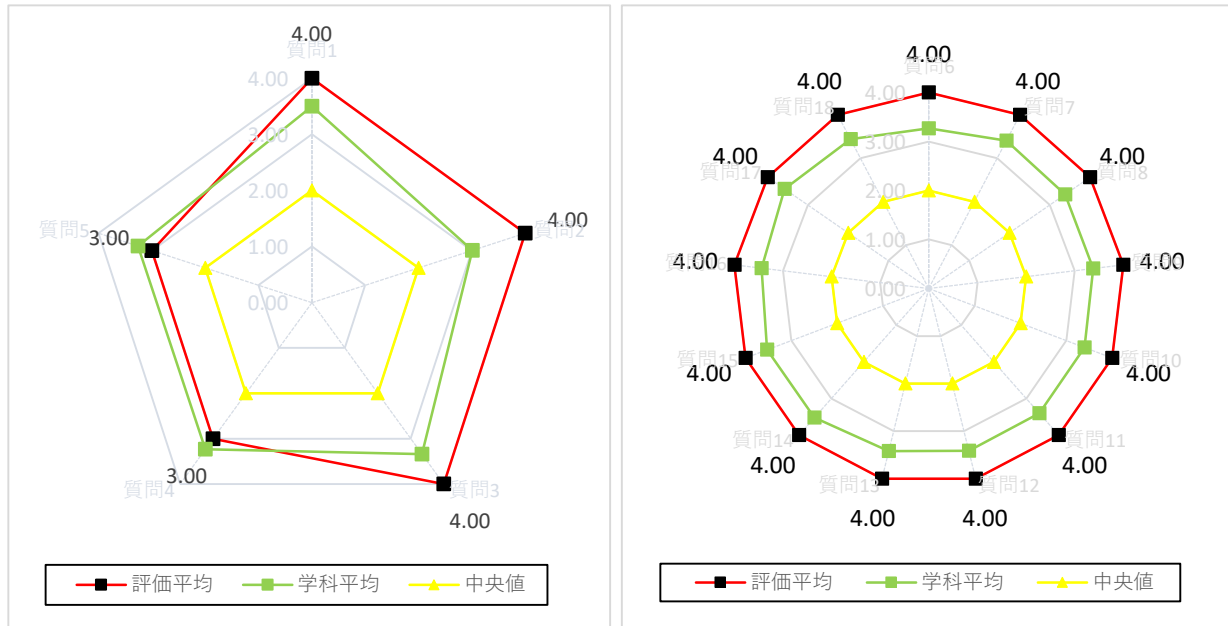
本科目も全項目で学科平均を上回った。
特に例年質問6「シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」が低かったが本年度は平均値であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

地域理学療法学Ⅱ同様に臨床ネタを取り込んだ授業をする。
シラバス（授業計画）については何度も説明することに徹する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		卒業研究	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

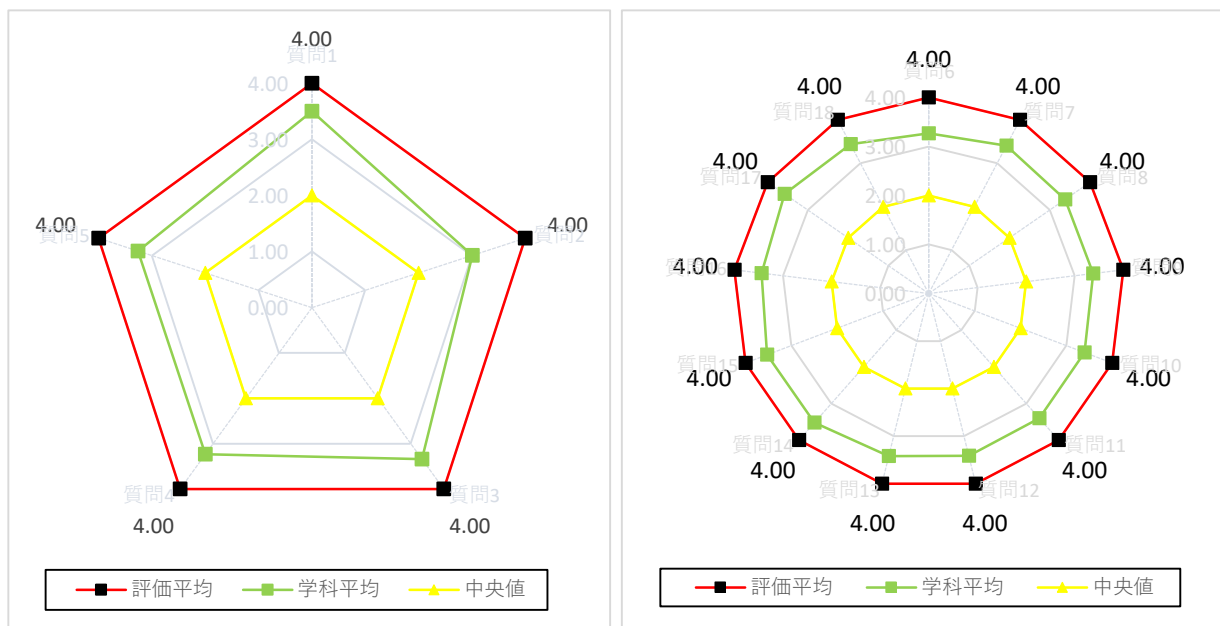
全員レジュメの提出および発表を行った。

(3) 次年度に向けての取り組み

例年通り実施する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		地域理学療法学Ⅱ	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

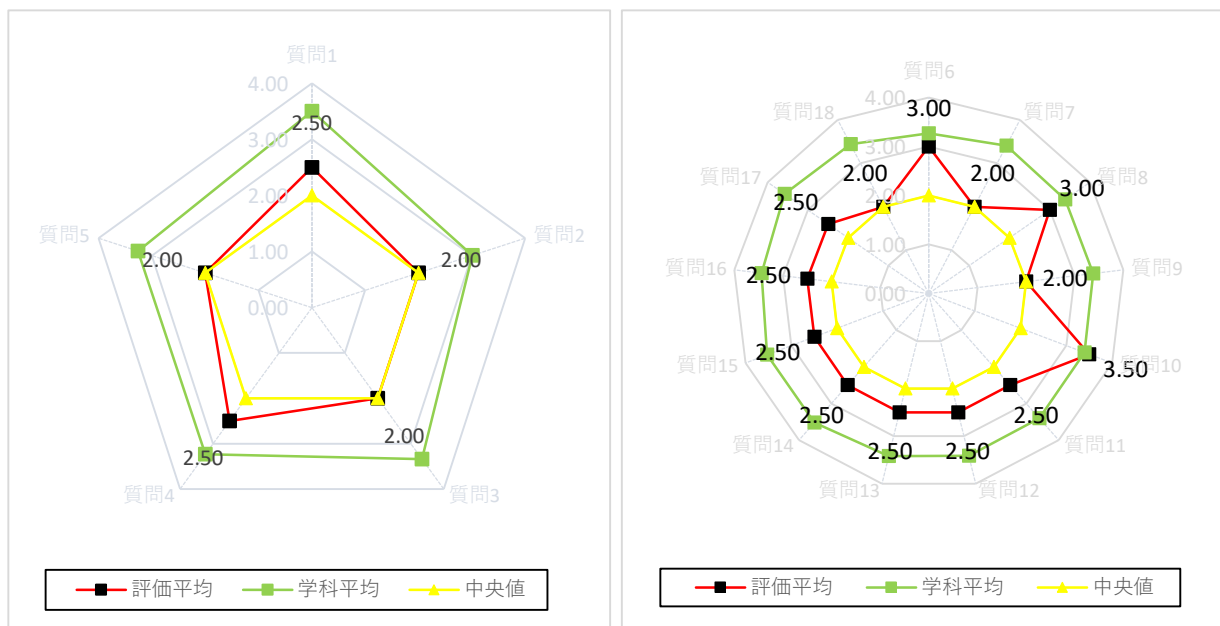
地域理学療法学Ⅱのアンケート結果はほぼ満点であった。
2単位を演習形式で「在宅サポートセンター」に見学に行く。
最新の介護用品や障害者用モデルルームを見て、職員からの
説明に学生たちは満足した結果だろう。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も「在宅サポートセンター」に行き、
最新の介護用品や障害者用モデルルームをに見学させる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅱ	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

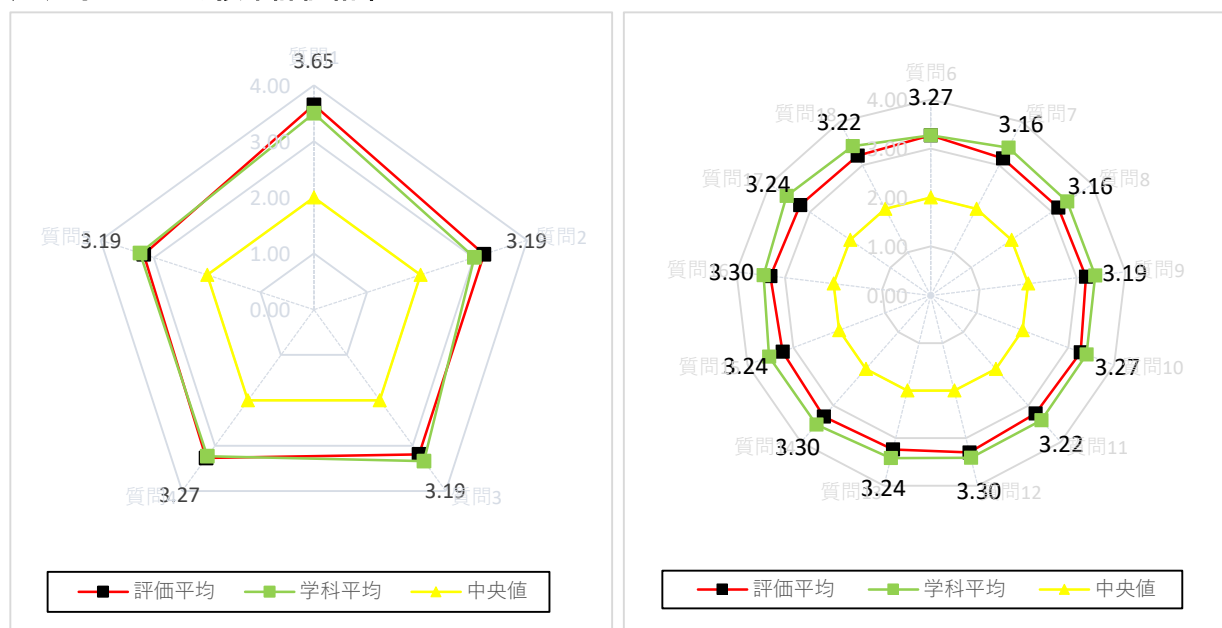
臨床実習Ⅱに関しては施設に行つての勉強であり、現場の指導者から評価を受ける。質問9や18の内容は該当しないので低かったと推測される。

(3) 次年度に向けての取り組み

臨床実習Ⅱに関しては、ホームルームの中で、実習のころえや実技練習を行ってきたので次年度もそのスタイルで実習に備える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法学研究法	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

「研究」という言葉の響きだけでアレルギー反応を示す学生が数名いたようです。グループ活動を取り入れましたが、理解程度に差が激しかったため、さらに多くの時間をグループ活動に費やした方が良いかもしれません。しかしながら、グループワークでは何もしないでチームの学生に頼りっきりになる学生が出てくることも心配されます。

(3) 次年度に向けての取り組み

「研究」アレルギー学生さん対策として、自分たちの卒論をすすめながら講義を行うことを考えます。グループ活動であっても、自分たちの個人個人の卒論を進める上での工夫点を学ぶのであれば、興味を持って授業に参加してくれると考えております。